

營業店小史

併して愛媛県が誕生し県庁が松山におかれた。市制施行により明治22年に松山市となり、平成元年をもって市制100周年を迎え、今や人口44万人を擁する四国の雄都として、また愛媛県の政治・経済・文化の中核都市として発展を続けている。

堀端近くは、愛媛県庁舎、松山市庁舎、裁判所、県警本部などが立ち並ぶ官庁街であり、また本店南側を走る三番町通りは、日銀をはじめ銀行、証券会社、生保・損保会社が軒を連ねる松山のウォール街である。

本店の北にある城山公園は、城山と堀之内を総称したものである。

松山城は、連立式天守閣を中心とした城で、姫路・和歌山城とともに日本三大平山城の名城として知られ、松山の象徴でもある。現在は、国指定の文化財となっている。

関ヶ原の戦功により20万石に加増された加藤嘉明が、居城を松前から松山に移すこととなり、慶長7年足立重信を普請奉行として城郭の建設に着手し翌8年に新城に移った。その後蒲生忠知、松平定行に継承され、以後明治維新まで松平家15万石の支配拠点となった。堀之内はかつては旧陸軍歩



松山市の象徴松山城

兵第22連隊のあった所で、現在では県立美術館、博物館、図書館、愛媛県民館、松山市民会館その他各種のスポーツ施設などが建設され、市民の憩いの場に生まれ変わっている。

東堀端のNTT 四国支社は、明治28年に夏目漱石が英語教師として赴任してきた松山中学校（現・松山東高校）のあった所で、名作『坊っちゃん』は主にここを舞台としたものである。漱石は、松山在住わずか1年で熊本の五高に赴任することになったが、次の句を残して松山を去った。

わかるるや一鳥啼いて雲に入る 漱石

本町支店 〒790 松山市本町4丁目6番地2

■沿革

明治26.12.25 松山興産銀行本店として開設

40.11.20 仲田銀行本店となる。

昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行本町支店となり、松山市本町2丁目45番地で開業

16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行本町支店となる。

20. 7.26 戦災により焼失。日本銀行松山支店内にて仮営業

20. 8.15 松山市旭町慈恵会内に一部移転

20.10. 4 松山市宮西町149番地に移転（仮営業所）

22. 6. 1 松山市本町2丁目45番地に新築復帰

34. 4. 6 松山市本町3丁目18番地の3に新築移転

39. 6.11 松山市本町4丁目6番地2と所在地名変更

55. 9. 1 両営業所の取扱いを開始

62.12.10 フジ本町店出張所（店舗外CD）を松山市本町6丁目5番地1株式会社フジ本町店に開設

平成元 5.18 コーノ中央店出張所（店舗外CD）を松山市中央1丁目3番12号株式会社コーノ中央店内に設置

■歴代営業店長

桐坂 久雄(16. 9. 1) - 野本 亀則(19. 1. 7) - 大西金太郎(21. 5. 1) - 戒能 甲太(21.10.11) -

本店営業部 〒790 松山市南堀端町1番地

■沿革

- 明治11. 9.14 温泉郡紙屋町3番地に第五十二国立銀行本店として開設
 14.11.22 温泉郡松山三番町52番地に移転
 30. 7. 1 国立銀行営業満期により五十二銀行本店となる。
- 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行本店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行本店となる。
 20. 7.26 戦災により焼失。日本銀行松山支店および松山市旭町慈恵会に移転（仮営業所）
 21. 3. 9 仮社屋新築、復帰
 21.10.15 榎町支店の廃止によりその業務を継承
 27.10.13 松山市榎町8番地に新築移転
 34. 1. 5 両替業務の取扱いを開始
 35. 6. 1 外国為替業務の取扱いを開始
 39. 6.11 松山市南堀端町1番地と所在地名変更
 47.10. 1 三番町出張所の廃止によりその業務を継承
 50. 4. 1 ダイエー千舟ショッピングプラザ出張所（店舗外CD）を松山市千舟町4丁目4番地株式会社ダイエー千舟店に開設
 54.11.19 松山全日空ホテル出張所（店舗外CD）を松山市一番町3丁目2番地1松山全日空ホテルに開設
 56.11.26 松山商科大学出張所（店舗外CD）を松山市文京町4番地2松山商科大学1号館に開設
 59.12. 3 日本電信電話公社四国電気通信局出張所（店舗外CD）を松山市一番町4丁目3番日本電信電話公社四国電気通信局に開設
 60. 4. 1 日本電信電話公社四国電気通信局出張所（店舗外CD）をNTT四国総社出張所と名称変更
 60. 5.18 ダイエー千舟ショッピングプラザ出張所（店舗外CD）をダイエー松山店出張所と名称変更
 61. 8. 1 愛媛新聞・千代田生命ビル出張所（店舗外CD）を松山市大手町1丁目11番1号愛媛新聞・千代田生命ビルに開設
 61.11.28 国立病院四国がんセンター出張所（店舗外CD）を松山市堀之内13国立病院四国がんセンターに開設
- 平成元 4. 1 松山商科大学出張所（店舗外CD）を松山大学出張所と名称変更
 元 5. 1 NTT四国総社出張所（店舗外CD）をNTT四国支社出張所と名称変更
 3. 6.27 県立中央病院出張所（店舗外CD）を松山市春日町83番地県立中央病院内に開設

■歴代営業店長

林 直徳(16. 9. 1) — 福岡 正(17.12.26) — 宮崎 達雄(22. 8. 1) — 福岡 正(22.11.26) —
 渡部 七郎(23.10.25) — 奥村長次郎(25. 6.15) — 宮崎 要(25.12.25) — 矢野哲三郎(26.11. 1) —
 西山 茂一(28. 7.10) — 矢野 鹿雄(29. 4. 3) — 眞木 高重(29. 8. 1) — 岡田 宗一(30. 5.16) —
 宮崎 要(32. 9.30) — 渡部 七郎(34. 8.13) — 岡本新一郎(34. 9. 1) — 梅村源一郎(37.10.29) —
 小笠原京一(38.10. 7) — 近藤準一郎(40. 2.15) — 菅野 満(43. 5.20) — 清家 豊茂(43. 8.27) —
 水野 孫一(47. 2. 1) — 榊田 三郎(50. 2. 1) — 近藤準一郎(51. 5.25) — 忽那 一(51. 7. 1) —
 水木 儀三(54.12.21) — 宮内 省三(57. 5. 1) — 由井 幸雄(60. 2. 1) — 達川 光作(62. 3. 1) —
 青野 和夫(平 2.2.1)

当本店営業部は、松山市のほぼ中央、城山公園の南堀端にあり、松山ブロックの総括店として松山市を中心とする道後平野一円を営業基盤としている。

松山市は、周辺で発掘される縄文・弥生の遺物や古照遺跡の遺構が物語っているようにその歴史は古いが、近代都市としての

基盤が確立されたのは、加藤嘉明が松山の地に20万石の新城下町を建設した慶長8年（1603）である。以来明治維新まで領国統治の拠点として繁栄してきた。明治4年の廃藩置県で松山藩は松山県となり、やがて今治・西条・小松の3県を併合して石鉄県と改称、明治6年に石鉄と神山の2県が合

小野山 勇(22. 2.26) — 森 幸夫(23. 3. 1) — 越智吉太郎(25. 8.15) — 玉井吉五郎(26.11.30) —
 玉乃井周平(29. 2.23) — 上野 秋一(31. 8. 1) — 河合 俊造(34. 9.12) — 武市 洸(40. 2.15) —
 久保 鶴美(41. 8.15) — 日根居源市(42. 8. 1) — 日野 英彦(45. 4. 6) — 田中 保範(46.12.10) —
 矢野 聖(49. 2. 1) — 山村 泰彦(50. 8. 1) — 味村 恒男(52. 8. 1) — 門田 悟(56. 2. 1) —
 仲田 和夫(58. 7. 1) — 山上彦四郎(60. 8. 1) — 福田 有良(62. 3. 1) — 湯上 勉(平 2.2.1)

「松山より江戸日本橋迄二百十八里二丁三十九間」——松山藩から全国主要地に至る道の起点となっていた西堀端北詰めの「札の辻」。

当店はこの「札の辻」跡の近くにあり、松山城北西下に広がる世帯数約1万5,000世帯、人口約3万人の商業・住宅地域を営業基盤としている。

藩政期、この辺り一円は「古町」と総称され松山城下繁栄の中心地であった。慶長8年(1603)、松山城主加藤嘉明が城下町を建設するに当たり、有力商人府中屋念齋に古町30カ町の町割をさせ、さらに町の繁栄をはかるため古町を年貢免許の恩典のある御免町とした。このため周辺から移住してきた町人に豪商家も多く、町は殷賑を極めたという。

当行の前身第五十二国立銀行や仲田銀行の創業地もこの地であった。

明治新体制以降は、松山の中心が武家屋

敷のあった城南方面に移動し、古町はかつての都心機能を失ったが、今は近代的な高層マンションが立ち並ぶ町並みに変ぼうを遂げ、再び往時の活況を取り戻そうとしている。

当地の年中行事といえば、阿沼美神社の四角・八角の神輿の鉢合わせと、松山地方の一番早い夏祭である鐘馗まつりが有名である。



松山藩道路元標札の辻

松山駅前支店 〒790 松山市大手町2丁目5番地7

■沿革

- 大正13.一.一 今治商業銀行古町出張所として開設
- 昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行紙屋町出張所となる。(松山市紙屋町2番地)
- 17. 7.20 松山市大手町1丁目16番地に移転し、大手町出張所と店名変更
- 20. 6. 1 支店に昇格
- 20. 7.26 戦災により焼失。愛媛県庁出張所にて仮営業
- 21.11.20 土橋支店の廃止によりその業務を継承
- 22. 6. 2 松山市大手町2丁目字米田3番地の1に移転(仮営業所)
- 31. 4. 9 松山市大手町1丁目16番地に新築復旧
- 39. 6.11 松山市大手町2丁目7番地9に所在地名変更
- 47.12. 4 松山市大手町2丁目5番地7に移転と同時に松山駅前支店と店名変更
- 55.10.23 フジ駅前店出張所(店舗外CD)を松山市宮西町1丁目2番1号株式会社フジ駅前店に開設
- 57. 6.14 国鉄松山駅出張所(店舗外CD)を松山市南江戸1丁目14番1号国鉄松山駅構内に開設
- 60. 7. 1 両替業務の取扱いを開始
- 62. 4. 1 国鉄松山駅出張所(店舗外CD)をJR 四国松山駅出張所と名称変更
- 62. 5. 1 フジ駅前店出張所(店舗外CD)をフジ松山店出張所と名称変更
- 62. 9. 3 松山市総合コミュニティセンター共同出張所(店舗外CD)を松山市湊町7丁目5番地松山市総

合コミュニティセンターに開設

平成元.12.11 フジ松山店出張所(店舗外CD)をフジグラン松山出張所と名称変更

3.7.26 エフコフライブルク店出張所(店舗外CD)を松山市南江戸3丁目10番30号エフコフライブルク店内に開設

■歴代営業店長

大下町支店
澤田 一政(20.6.1) — 亀島 光久(21.2.18) — 月岡 番治(21.11.20) — 荒川 慎太郎(23.10.25) —
橋本 漸(25.6.15) — 山本 秀雄(27.8.16) — 山口守之助(31.9.1) — 西口 美憲(32.9.30) —
高橋 柳市(36.1.27) — 渡辺 義行(36.12.9) — 川崎 修(38.5.20) — 大石 卓三(39.8.5) —
末長 俊平(40.8.10) — 井上 芳武(42.8.1) — 井上 實(44.2.1) — 辻本 和夫(46.8.1) —
加藤 治隆(49.8.1) — 武知 守久(51.7.1) — 佐々木正幸(54.8.1) — 渡部 訓行(56.8.1) —
宮内須美男(59.2.1) — 上甲 二郎(61.8.1) — 森信 勝俊(62.10.1) — 森田 浩治(平2.8.1)

当店の営業エリアは、JR松山駅を中心に、予讃線をまたぐ地域一円である。

民営の伊予鉄道は、わが国最初の軽便鉄道として明治21年に開通したが、国有鉄道の県内敷設は大幅に遅れ、松山駅が開業したのは金融恐慌さなかの昭和2年4月であった。当時全国の県都で国鉄が通じていなかったのは、沖縄県を除けば松山だけであったといわれる。

それから60年、伊予鉄松山市駅前に比べ発展の遅れていたJR松山駅の周辺は、民間や公共の投資で大きく変ぼうしようとしている。「松山市総合コミュニティセンター」は、スポーツ施設・ホール・図書館を備えたふれあいの場として、市民の健康増進・文化活動・生涯教育の拠点となっている。また弥生中期の遺跡や墳墓の発見で埋蔵文化財の宝庫といわれている大峰ヶ台丘陵地では、松山市制100周年事業として「松

山総合公園」の建設が10年計画で進められている。

また、当地区には史跡・遺跡も多く、代表格として大宝元年(701)国司越智玉興による創建で、県下では最古の和様建築物とされる国宝「大宝寺本堂」、宮前川中流で発見された古墳時代中期の農業灌漑用ダム跡と推定される「古照遺跡」などがあげられる。



建設進む松山総合公園

湊町支店 〒790 松山市湊町4丁目4番地3

■沿革

- 大正12.12.1 松山市湊町に大洲銀行松山支店として開設
- 昭和9.8.20 合併により豫州銀行松山支店となる。
 - 16.9.1 合併により伊豫合同銀行湊町支店となる。
 - 20.7.26 戦災により焼失。日本銀行松山支店内にて仮営業
 - 20.7.30 松山市南立花町1丁目に移転(仮営業所)
 - 21.3.4 松山市湊町4丁目70番地の第5に新築移転
 - 34.7.20 店舗新築のため松山市湊町4丁目73番地の8に移転(仮営業所)
 - 35.6.6 新築復帰
 - 38.9.2 両替業務の取扱いを開始
 - 39.6.11 松山市湊町4丁目4番地3と所在地名変更

昭和45.12.7 増改築により地下営業室設置

- 49. 3.29 いよてつそごう百貨店出張所(店舗外CD)を松山市湊町5丁目1番地1株式会社いよてつそごう百貨店に開設
- 54.12.3 まつちかタウン出張所(店舗外CD)を松山市湊町5丁目1番地1地先まつちかタウンに開設
- 60. 2. 1 松山電気ビル出張所(店舗外CD)を松山市湊町6丁目6番地2松山電気ビルに開設
- 63. 7.28 メルカド出張所(店舗外CD)を松山市北藤原町3番地1メルカド内に開設

■歴代営業店長

渡部 七郎(16. 9. 1) — 古川 義一(21. 5.17) — 宮内 誠恭(21. 6.14) — 大西金太郎(21.10.11) —
 戒能 甲太(24. 2. 1) — 西口 美憲(24. 5.31) — 荒川愼太郎(27. 8.16) — 澤田 有水(31. 2. 2) —
 山下 信義(32. 2. 1) — 菊池 好春(36. 8. 2) — 藤野 正敏(40. 2.15) — 高橋 良男(41. 8.15) —
 榊田 三郎(43. 8.27) — 光永 保(44. 8. 1) — 今井 時政(46. 8. 1) — 曾根 通就(49. 2. 1) —
 日野 英彦(50. 8. 1) — 岡 節雄(51. 7. 1) — 西山 雄三(55. 2.15) — 松下 和夫(57. 5. 1) —
 宮川 博行(59. 2. 1) — 宮内 一彦(61. 2.10) — 奥川 完(平 1.2.1) — 渡部 修二(2. 8. 1)

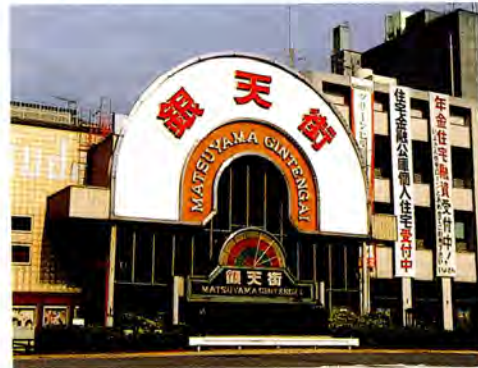
当店は、松山市の総合交通ターミナルとして、通勤のサラリーマン・買物客で連日にぎわう松山市駅前に隣接しており、全店の来店客を誇る典型的なターミナル店舗である。

店周エリアは、いよてつそごう百貨店・まつちかタウン・湊町銀天街などがひしめく四国随一の商業地を形成している。

湊町という町名の由来はかなり古く、今から約300年前の延宝年間までさかのぼる。当時は永町ながまちと呼ばれ、地割もされないまま自然発生的に生まれた町であった。永町が整然とした町並みに改修されたのは元禄14年(1701)の大火以後のことで、この町に中の川水路を利用してあらゆる荷物が運ばれてきたところから、しだいに湊町と呼ばれるようになったと伝えられる。

当店エリア内の正宗しょうじゆうぜんじ禅寺境内には、県指定の史跡子規堂がある。俳聖正岡子規が

上京するまで居住していた中の川筋の旧邸を子規の死後境内に移転したもので、のちに二度火災に見舞われた。現在の建物は昭和21年に再建されたもので、堂内には子規の遺墨・遺品が展示されている。また堂の近くには子規埋髪塔があり、その碑面には友人下村為山画伯の筆になる子規の横顔が刻まれている。



湊町銀天街入口

立花支店 〒790 松山市祇園町6番4号

■沿革

- 昭和 6.12.1 松山市湊町2丁目10番地に五十二銀行南出張所として開設
- 12.12.10 合併により松山五十二銀行南出張所となる。
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行南出張所となる。
- 17.12.21 松山市南立花町2丁目17番地の1に移転し、立花出張所と店名変更
- 21.10. 1 支店に昇格。(旧)南支店の廃止によりその業務を継承
- 36. 5. 8 松山市河原町139番地に新築移転
- 59. 8.13 松山市祇園町6番4号に新築移転

■歴代営業店長

浅海 時雄(21.10.1) — 池田栄二郎(22.8.21) — 別宮 仁(23.10.25) — 友澤 清(26.7.10) —
宮内 宏(27.11.1) — 門屋 栄(29.1.28) — 川崎 修(32.7.15) — 和田 直忠(34.9.12) —
一宮 修(34.12.1) — 神野 壽勝(36.7.1) — 加藤 正盛(41.4.18) — 森 正(42.8.1) —
山村 泰彦(44.8.1) — 井上 英雄(48.2.1) — 田中 弘(50.8.1) — 玉井 道人(53.9.8) —
井上 公一(55.8.1) — 渡部 修二(57.8.1) — 門屋 一郎(60.8.1) — 多賀 正(63.8.1) —
上田 勝彦(平 3.8.1)

当店の営業基盤は、石手川が最も松山城に近づく辺りの立花地区一円で、その中心は立花・祇園・中村・小坂・拓川の5町である。

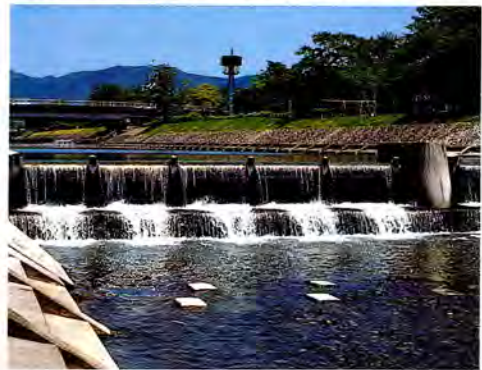
この地区は、伊予鉄立花駅や石手川にかかる永木橋・中村橋・立花橋の各周辺とそれに続くメイン道路沿いに商工業および住宅が発展してきた所である。昭和20年7月の松山空襲の時は、石手川が延焼を防いで町のほとんどが焼け残り、終戦直後は松山市内きっての繁華街としてそのにぎわいぶりは特筆すべきものがあった。

現在では、この地区は立花駅を中心とする商店街と石手川緑地に面した住宅街に二分されている。商店街は立花通りと拓南通りで、当店は拓南通りにある。

商店は、外商を主とした小売商がほとんどで、ひと通りのものを揃えた便利さと独特の庶民性が住民にうけている。

毎年8月には、土曜夜市とともに町をあげてのカラオケ大会・七夕飾り・盆踊りなどが盛大に催され、当店も地域とのふれあいと活性化のため積極的に参加している。

旧素鷲村の村名の起りである「素鷲神社」は、須佐之男命を祀る霊験あらたかな氏神で、地元住民の守り神となっている。



緑と清流の石手川

新立支店 〒790 松山市築山町7番1号

■沿革

- 昭和20.11.1 松山市築山町61番地に伊豫合同銀行新立出張所として開設
26.1.4 支店(預金専門店)に昇格
30.4.1 普通支店に昇格
31.11.21 松山市築山町字花畑跡12番地の19に新築移転
40.10.1 松山市築山町7番1号と所在地名変更
48.1.22 松山市築山町2番11号に移転(仮営業所)
48.8.6 新築復帰
平成 2.12.6 フジ松末店出張所(店舗外CD)を松山市松末1丁目6番10号株式会社フジ松末店内に開設

■歴代営業店長

和久 宗通(26.1.4) — 門屋 栄(27.11.1) — 菊原 進(29.1.28) — 河合 俊造(31.2.2) —
大政 之信(32.10.4) — 上田 一雄(34.7.10) — 田中 保範(36.8.2) — 佐々木 弘(38.5.20) —
梶谷 繁(40.2.15) — 藤村 正造(41.2.10) — 武智 甫(43.5.20) — 清家 和(46.2.15) —
玉井 道人(49.2.1) — 西山 雄三(50.8.1) — 安藤 嶋行(52.8.1) — 田中 幸一(55.2.15) —

篠村 郷司(58. 7. 1) — 光宗 貞敏(62. 3. 1) — 藤原 浩(平 1.8.1)

当店は、昭和20年11月1日、旧国道11号線と中の川通りとの交差点に面する松山市内への玄関口に開設された。

当店の営業エリアは、築山町を拠点として東に長く延びる旧11号線沿い一円である。

新立地区は、戦前から戦後にかけて八百屋、鮮魚店や雑貨店が立ち並ぶ市場町として栄え、遠く温泉郡重信町や奥道後方面からの買物客でにぎわいをみせていた。今も、その面影を商店街に残している。

当店の近くには、小説『坊っちゃん』で知られる文豪夏目漱石が教壇に立った松山中学校の後身、松山東高等学校があり、勉学に励む生徒たちの姿が見られる。また、金毘羅本宮からご神霊を勧請してご祈禱所となり「新立のこんびらさん」として親しまれている金毘羅宮松山分社、「お伊勢参らばお多賀へ参れ、お伊勢はお多賀の子でござる」と江戸時代の民謡に歌われた多賀神社も近い。

当店の周辺には高層建築が立ち並び、さらには、当店のエリアを二分する松山東部環状線の拡張工事が、平成4年の完成をめざして進められている。当店の営業基盤も、将来は大きく変化するものと思われる。



松山中学校の後身松山東高等学校

南支店 〒790 松山市大街道1丁目3番地1

■沿革

- 大正 7. 4. — 松山市三番町5番地の2に今治商業銀行松山支店として開設
- 15. 2. — 松山市千舟町81番地に移転
- 昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行千舟町支店となる。
- 17.12.21 松山市湊町2丁目10番地に移転し、南支店と店名変更
- 20. 7.26 戦災により焼失。立花出張所に移転（仮営業所）
- 21. 9.30 廃止。業務を立花支店に継承
- 22. 3. 3 松山市湊町3丁目35番地に南特別支店として再開設
- 22. 8.11 松山市大街道1丁目36番地に新築移転
- 23. 4. 1 普通支店に昇格
- 39. 6.11 松山市大街道1丁目3番地の1と所在地名変更
- 41. 4.11 店舗新築のため松山市湊町3丁目2番地7に移転（仮営業所）
- 42. 2.27 新築復帰
- 63.10.13 銀天街出張所（店舗外CD）を松山市湊町3丁目7番地1あづまや商店内に開設
- 平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

- 宮内 啓作(22. 3. 3) — 高橋 柳市(24. 6. 1) — 丹下 鐵男(26. 7.10) — 井関 年光(30. 8. 8) —
- 阿部 武憲(31. 8. 4) — 薬師寺勝光(34. 6.10) — 別宮 仁(37. 3.23) — 影浦 猛男(38.10.29) —
- 田中 保範(41. 2.10) — 久米 良知(44. 2. 1) — 森 正(48. 2. 1) — 大仲 隆(50. 2. 1) —
- 和田 富夫(51. 7. 1) — 池田 照明(53. 2. 1) — 山口 城平(56. 2. 1) — 井関信次郎(58. 2. 1) —

当店は、大街道・銀天街の二つの商店街がL字型に交わる接点にある。

明治期、この界限は「魚の棚」と呼ばれ、魚屋・八百屋・餅団子屋などが軒を並べ、近郷近在の人々が買物や飲食を楽しむ食料品街であった。昭和に入り、しだいに買物街としての規模が整い、松山最大の高級商店街に発展していった。今ではブティックなどが進出し、先端ファッションを求めて若者たちの集まるフレッシュなショッピング街に大きく変身している。

東に続く河原町は問屋街で、かつては上浮穴方面から山の産物を馬車で運び込み、代わりに衣料品などを持ち帰ったらしく、その名残りは今の町並みに伝わる。

当店の南側に延びる柳井町商店街には、どことなく庶民的なおいが漂っていて、大街道・湊町を巡り歩いたあと、「安い物があるかも知れない」と、ここに立ち寄って

いく人も少なくない。

最近のように買物客の回遊ルートが短くなっていく傾向にあるとき、大手デパートを両極にもつこの商店街は、顧客誘引のための再開発という新しい課題をかかえており、今後当店の果たすべき役割は極めて大きい。



再開発が期待されている千舟町側銀天街

大街道支店 〒790 松山市二番町2丁目8番地13

沿革

- 昭和16. 2. 8 合併により(旧)伊豫銀行本店を松山五十二銀行三番町支店として継承(松山市三番町32番地の1)
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行(旧)三番町支店となる。
- 17.10. 1 松山市大街道2丁目18番地(大街道出張所跡)に移転し、大街道支店と店名変更
20. 7.26 戦災により焼失。日本銀行松山支店に移転(仮営業所)
20. 9. 1 松山市中一万町に移転(仮営業所)
21. 9.11 松山市大街道2丁目24番地に新築移転
39. 6.11 松山市大街道2丁目5番地の4と所在地名変更
39. 9. 7 松山市二番町2丁目8番地13に新築移転
40. 1.22 両替業務の取扱いを開始
49. 9.19 松山三越出張所(店舗外CD)を松山市一番町3丁目1番地1株式会社三越松山支店に開設
62. 6.27 松山東雲短期大学出張所(店舗外CD)を松山市桑原3丁目2番1号松山東雲短期大学に開設
- 平成 3. 9. 3 大街道中央出張所(店舗外CD)を松山市大街道2丁目3番地1山彦ビル内に開設

歴代営業店長

古川 義一(17.10. 1) — 飯尾 信正(21. 5.17) — 宮脇 季雄(22. 5.26) — 大西金太郎(24. 2. 1) — 宮内 啓作(25. 6.15) — 岡崎 正雄(28. 2.25) — 高橋 柳市(33. 7.21) — 湯浅 眞貫(36. 1.27) — 松田栄一郎(37. 8. 6) — 上田 一雄(39. 2.10) — 井上 良男(40. 2.15) — 松友 茂行(41. 8.15) — 澤口 一雄(45. 4. 6) — 今井 俊夫(49. 2. 1) — 浅野 富夫(50. 8. 1) — 砂田 剛毅(51. 7. 1) — 木村 市孝(54. 8. 1) — 本多 良行(57.10. 1) — 矢野 洋一(59. 6. 1) — 船田 薫(61. 8. 1) —

菊池 浩二(平 1.2.1)

当店は、四国随一の近代的繁華街を誇る大街道のほとりにある。営業エリアは大街道筋・番町街・喜与町・歩行町・勝山町である。

当店の周辺には、料理店・喫茶店・スナックなどが多く、その数は2,000を超える勢いで、飲食関係のテナントビルの建築は依然として旺盛である。

大街道では、三越が増床にともなうリニューアルに着手、平成3年秋には装いを新たに開店の運びとなった。大街道入口周辺にはこのほか大型テナントビルの建築が相つぎ、本格的な大街道再開発の動きに熱い期待が寄せられている。

二番町には夏目漱石の寓居「愚陀仏庵跡」がある。明治28年漱石が松山中学の英語教師として赴任してきた際、下宿先の上野義方邸内の離れを愚陀仏庵と名づけ、日清戦争の従軍から帰省していた正岡子規と50日余り起居をともにしながら俳句に熱中した所である。子規が『俳諧大要』を書きあげ

たのもこの庵で、現在子規記念博物館内と萬翠荘の裏山に復元されている。歩行町は、日露戦争で陸・海軍の名将として勇名をさせ、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』にも登場する秋山好古、真之兄弟の生誕地である。大街道筋の北のはずれには、藩祖久松定勝公以下松山藩主の神霊を奉祀している「東雲神社」があり、そこには由緒ある能面・狂言面・能衣裳が保存されている。



近代的な大街道商店街

愛媛県庁支店 〒790 松山市一番町4丁目4番地2

沿革

- 昭和19. 7. 10 松山市一番町甲15番地の1（愛媛県庁内）に伊豫合同銀行愛媛県庁出張所として開設
 23. 4. 1 支店に昇格
 39. 6. 11 松山市一番町4丁目4番地2と所在地名変更
 平成元 9. 1 両営業部の取扱いを開始
 2. 1. 31 松山地方局共同出張所（店舗外CD）を松山市北持田町132番地松山地方局内に開設
 3. 5. 1 テクノプラザ愛媛共同出張所（店舗外CD）を松山市久米窪田町337番地1テクノプラザ愛媛内に開設

歴代営業店長

松岡孝三郎(23. 4. 1) — 月岡 番治(23.10.25) — 山口守之助(27. 2. 29) — 井戸 熊市(28. 7. 10) — 住田 保一(31. 2. 2) — 北條 健一(34. 9. 1) — 浦屋 薫(36.10.10) — 日淺 義輝(38.10. 7) — 白方 利明(41. 8.15) — 日根居源市(45. 4. 6) — 武智 温(48. 2. 1) — 大政 信也(49.12. 9) — 村上 清壽(56. 2. 1) — 佐伯 賢利(59. 2. 1) — 星加 一成(60. 8. 1) — 池川 賢(平 1.2.1)

当店は、城山の緑を背にして建つ、県下の代表的な西洋建築、愛媛県庁本館の2階にある。

取引先は、県庁のほか愛媛県警察本部・検察庁・愛媛県市町村職員共済組合などと約3,000人の職員たちである。

愛媛県庁舎は、昭和4年に木子七郎の設計により総工費100万円で建てられた。中央に特徴のある緑色のドーム、左右対称の比翼の構えをした荘重な外観、白い大理石の階段、古代ギリシャ建築を模して造られた外部窓まわり、正面車寄せを備えた風格のある建物である。

庁舎の近くには、大正11年に旧松山藩主久松定謨公が建てたフランス風の美しい邸宅「萬翠荘」がある。明治の文明開化期の西洋館を偲ばせる県下最古の鉄筋コンクリート造りで、今は県立美術館分館となっている。県庁舎と同じく木子七郎の設計であ

る。



昭和初期の西洋建築愛媛県庁本館

一万支店 〒790 松山市勝山町2丁目20番地1

■沿革

- 昭和13. 2. 一 松山市勝山町49番地に松山五十二銀行一万出張所として開設
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行一万出張所となる。
 - 19.12.30 松山市勝山町51番地に移転
 - 20. 6. 1 支店に昇格
 - 20. 7.26 戦災により焼失。道後支店内にて仮営業
 - 21. 3.30 廃止。業務を道後支店に継承
 - 21.10. 1 松山市中一万町37番地に一万出張所として再開設
 - 23. 6. 5 松山市勝山町145番地に新築移転
 - 25.10. 1 支店に昇格
 - 39. 6.11 松山市勝山町2丁目20番地1に所在地名変更
 - 46.12.20 松山市中一万町5番地15に移転（仮営業所）
 - 47.10. 9 新築復帰
 - 52.11. 8 松山赤十字病院出張所（店舗外CD）を松山市文京町1番地松山赤十字病院に開設
 - 55. 9. 1 両替業務の取扱いを開始
 - 56.12. 1 愛媛大学出張所（店舗外CD）を松山市文京町3番地愛媛大学大学館に開設

■歴代営業店長

飯尾 信正(25.10. 1) — 菊池 龍一(29. 3.25) — 宮内 啓作(30.11. 5) — 三宗 進(32. 8.17) —
 湯淺 眞貫(33.11. 1) — 原 正昭(36. 1.27) — 中村 文雄(38.10. 7) — 重松 信夫(40. 7.20) —
 加藤 正盛(42. 8. 1) — 矢野 聖(44. 2. 1) — 町田 俱彦(46. 2.15) — 岡崎 保之(48. 8. 1) —
 宮内 省三(50. 8. 1) — 楠本 弘典(53. 2. 1) — 岡田 幸雄(53. 8.14) — 松村 哲夫(55. 8. 1) —
 西林 保幸(58. 2. 1) — 福山 義光(61. 2.10) — 大西 丈平(平 1.2.1) — 矢野 未広(3. 2. 1)

当店は、松山市の北東部、伊予鉄市内電車「上一万停留所」の前にあり、主な営業エリアは、持田町などの閑静な住宅地域、旧陸軍歩兵第22連隊の練兵場跡地に生まれた文教地域、桜谷古墳群や祝谷古墳群があ

るなかで町づくりが進んでいる伊太・祝谷地域である。世帯数は約8,000世帯、人口は約1万8,000人である。

エリア内の東方面には、最高の設備と機能を誇る、集いとふれあいの大殿堂「愛媛

県民文化会館」がある。またそこから遠くない所には、北条市出身のシナリオライター早坂暁の小説『ダウタウン・ヒーローズ』の題材となった「旧制松山高等学校講堂」が、大正11年建築当時の姿をそのままとどめている。さらに北方面には、英霊の御霊を祀る「護国神社」、その境内には萬葉集に詠まれた植物を植栽している「愛媛萬葉苑」や、額田王ぬかたのおおきみによって歌われた萬葉初期の代表作「熟田津にぎたつ」の歌碑がある。「熟田津」の場所が、この御幸山麓であるとの説を採って建てられたものであろう。その西に接する御幸寺境内の「一草庵」は、伊予の国をこよなく愛し、托鉢たくはつの俳人として

多くの自由律の名句を残した種田山頭火さんとうか終焉の地である。



大正11年建築の旧制松山高校講堂

道後支店 〒790 松山市道後湯之町2番11号

■沿革

- 明治32. 7. 1 温泉郡道後湯之町1573番地に松山興産銀行道後代理店として開設
- 40.11.20 仲田銀行道後出張所となる。
- 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行道後支店となる。
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行道後支店となる。
- 19. 4. 1 松山市1573番地と所在地名変更
- 19. 6. 1 松山市1437番地に移転
- 20. 3.17 道後湯之前特別支店の廃止によりその業務を継承
- 21. 4. 1 (旧) 一万支店の廃止によりその業務を継承
- 22. 1. 1 松山市大字道後字今市北側872番地の1に新築移転
- 36. 9.11 両替業務の取扱いを開始
- 39. 7. 1 松山市道後湯之町2番11号と所在地名変更
- 44. 2. 3 店舗新築のため松山市道後湯之町6番8号に移転(仮営業所)
- 44.11.10 新築復帰
- 57.12.21 フジ道後店出張所(店舗外CD)を松山市道後町1丁目1番12号株式会社フジ道後店に開設

■歴代営業店長

眞鍋 正雄(16. 9. 1) — 泉 通雄(18. 7.12) — 秋本嘉一郎(19. 6.20) — 光峰長五郎(20. 3.16) — 村瀬 純一(20.10. 1) — 田中 多助(21. 4.11) — 辻田 高綱(21. 5.17) — 宮内 誠恭(21.10.11) — 千賀 孟(23.10.25) — 佐伯 龜徳(25. 5. 1) — 永山 進一(27. 6. 1) — 中廣市太郎(29. 3.25) — 高田三千男(29. 6.21) — 宮内 宏(31. 2. 2) — 河合 俊造(32.10. 4) — 明比 文治(34. 2.14) — 大平 芳隆(37. 1. 5) — 原 正昭(38.10. 7) — 濱野 治清(41. 4.18) — 関谷 淳一(43. 5.20) — 安永 俊輔(46. 8. 1) — 門田 勝(49. 2. 1) — 味村 恒男(50. 2. 1) — 大六 敏夫(52. 8. 1) — 田中 弘(56. 2. 1) — 近江 泰通(59. 2. 1) — 徳永 恭亮(61. 2.10) — 田辺 幹彦(63. 8. 1) — 藤原 光保(平 1.2.1)

当店は、神湯の里道後温泉街の入口近くにあり、温泉郷一円を営業基盤としている。

道後温泉は、わが国最古の温泉として知

られ、古くは聖徳太子も来浴したと伝えられる所で、今では観光都市松山の象徴ともなっている。L字型の明るい商店街を通り

抜けた所に、明治27年に改築された本陣風の三層楼「道後温泉本館」がそびえている。かの文豪夏目漱石をして、小説『坊っちゃん』のなかで、「ほかの所は何を見ても東京の足元にも及ばないが温泉だけは立派なものだ」と感嘆させたこの本館は、100年近くたった今も当時の面影をそのまま残しており、連日入浴客でにぎわっている。観光客の絶えることがなく、特に瀬戸大橋の開通以来、ホテル・旅館・商店街はますます活況を呈している。

当店の近くには、「松山市立子規記念博物館」や14世紀に豪族河野通盛が伊予国支配の本拠地とした湯月城跡の「道後公園」、また典型的な八幡造りの神殿「伊佐爾波神社」、その裏手には時宗の開祖一遍上人の誕

生（延応元年・1239）の地「宝厳寺」がある。そのほか周辺には名所・句碑も多く、「道後村めぐり」は郷土史を探索ハイキングコースとして広く親しまれている。



漱石も通った道後温泉本館

三津浜支店 〒791 松山市三杉町9番1号

■沿革

- 明治30. 7. 1 温泉郡三津浜町大字三穂町35番地に五十二銀行三津浜支店として開設
 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行三津浜支店となる。
 14. 9.18 温泉郡三津浜町大字藤井町41番地に移転
 15. 8. 1 松山市大字藤井町41番地と所在地名変更
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行三津浜支店となる。
 17. 9. 1 松山市藤井町41番地と所在地名変更
 20. 3.17 三穂町特別支店の廃止によりその業務を継承
 38. 9. 2 両替業務の取扱いを開始
 41. 7. 1 松山市三津2丁目12番7号と所在地名変更
 52. 9.26 松山市三杉町9番1号に新築移転
 59. 2.15 コーノ三津店出張所（店舗外CD）を松山市三津3丁目5番40号株式会社コーノ三津店に開設

■歴代営業店長

大下 真吉(16. 9. 1)	—	大西 蔵六(21. 5. 1)	—	宮崎 ^{事務取扱} 要(22. 3.31)	—	岡田 宗一(22. 5.26)	—
金本 浩二(24.11. 5)	—	阿部伊之一(27. 8.16)	—	井関 年光(28. 7.10)	—	高原 為安(30. 8. 8)	—
玉乃井周平(31. 8. 1)	—	瀧野 健一(32. 3. 1)	—	丹下 鐵男(33.11. 1)	—	西口 美憲(36. 1.27)	—
菅野 満(36. 8. 2)	—	田中 良孝(38.12.20)	—	大野 豪(40. 7.20)	—	新岡 武夫(42. 8. 1)	—
吉澤 亮(44. 2. 1)	—	大窪 護(45. 8. 1)	—	清家 和(49. 2. 1)	—	辻本 和夫(51. 2. 1)	—
河本 昭二(51.11. 1)	—	和田 富夫(54.10. 1)	—	石川 徹(57. 5. 1)	—	玉井 清司(60. 2. 1)	—
浅野 誠雄(63. 2. 1)	—	白石 安彦(平 1.8.1)	—	越智 和男(3. 2. 1)			

当店は、三津浜地区のほぼ中央にあり、松山市の西部海岸地帯を営業基盤としている。

三津浜は、中国・九州・阪神方面のほか、

瀬戸内海の島々を往来する定期客船やフェリー・水中翼船が発着する松山市の海の玄関口である。三津浜の歴史は古く、遠く萬葉の昔にさかのぼる。「熟田津に船乗りせむ

と月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな」、
額田王の勇壮なこの歌は、齊明天皇が百濟から援軍の依頼をうけて新羅征伐に向かう途中伊予の湯に入られ、熟田津の地から九州に船出される時に詠んだものとされており、この時御座船が着けられたので「御津」と呼ばれ、これが三津の地名に転化したものと推量されている。

三津の朝は320年の伝統を誇る魚市で明ける。伊予節にも歌われた「三津の朝市」である。競りは午前5時にはじまり、仲買人の威勢のいい声が飛び交うさまは壮観である。

近くには外国船が寄港する外港もあり、木材・石油・海運などの産業も盛んである。

名所・旧跡・句碑なども多く、俳人小林

一茶の訪れた洗心庵跡、藤原純友が駒をとめた駒立岩、伊予水軍の港山城跡、石崎ナカ顕彰碑などがある。三津浜は、いかにも港町らしい活気と人情味あふれる庶民的な町である。



松山市の海の玄関三津浜港

堀江支店 〒799-26 松山市堀江町甲1637番地 4

■沿革

- 大正 3. 9.23 仲田銀行堀江代理店として開設
- 5. 1. - 出張所に昇格
- 11. 3. - 支店に昇格
- 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行堀江支店となる。
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行堀江支店となる。(松山市堀江甲1541番地)
- 16.11. 1 松山市大字堀江甲1519番地に移転
- 17. 9. 1 松山市堀江町甲1519番地と所在地名変更
- 29. 5.17 松山市堀江町甲1521番地の2に新築移転
- 51. 7.12 松山市堀江町甲1637番地4に新築移転
- 平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

- 三浦 源太(16. 9. 1) - 野本 矩一(23. 3. 1) - 富永富次郎(25. 8.15) - 玉井 忠昭(28. 2.25) - 久米浅五郎(29. 3.25) - 気田 半三(30. 6.13) - 北條 健市(32. 7.15) - 影浦 猛男(34. 9. 1) - 松友 茂行(36. 8. 2) - 白石 利夫(38. 8.15) - 宇都宮一二三(39. 8. 5) - 矢野 聖(40.12.10) - 越智 義和(44. 2. 1) - 武智 守久(46. 2.15) - 渡邊 一(49. 2. 1) - 佐々木正幸(50. 2. 1) - 神野 勉(52. 8. 1) - 苅家 秀範(54. 8. 1) - 星加 一成(56. 8. 1) - 佐伯 圭一(58.11. 1) - 稲前 紀彦(61. 2.10) - 杉本 孝義(63. 2. 1) - 清家 研爾(平 2.8.1)

当店は、松山市の最北部、堀江地区の国道196号線沿いにあり、堀江町を中心に内宮・福角・権現・東大栗の5町を営業基盤としている。

堀江地区は、世帯数約3,000世帯、人口約1万1,000人で、中小商工業者・柑橘農家を

主とする個人市場である。

当店の東方、東大栗町の医座山城址には、松山市の指定文化財隆三^{いざ}世明王像を本尊とする天台宗医座寺があり、地元の氏神様と崇拝されている福角町の正八幡神社とともに多くの参拝客が訪れている。また権現

町には、友国川のほとりの岩間からわき出る温泉があり、湯治場や憩いの場として常連客の集まる所となっている。吉井勇の「大伊予の友国の湯にひたりつつほのぼのとしてものをこそおもへ」は、この権現温泉を詠んだものである。

一方、堀江町にある大城谷の丘から西を望む暮景は、忽那七島の島々が調和する素晴らしい眺めである。瀬戸内海で見られる浮き島現象も堀江の海岸や山手から見ることができる。

堀江港は、昭和21年に国鉄により仁方堀江航路として開港されたが、57年からは民営の呉～松山フェリーが運航されており、

四国と山陽路を結ぶ重要な拠点となっている。



医座山城址にある医座寺

森松支店 〒791-11 松山市森松町523番地

■沿革

- 明治32. 7. 22 温泉郡浮穴村大字森松字下河原523番地に砥部銀行森松支店として開設
 44. 10. 5 合併により五十二銀行森松出張所となる。
 昭和12. 12. 10 合併により松山五十二銀行森松出張所となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行森松出張所となる。
 21. 4. 11 支店に昇格
 34. 4. 10 松山市大字森松字下河原523番地と所在地名変更
 44. 6. 18 松山市森松町523番地と所在地名変更
 50. 1. 20 松山市森松町523番地に新築
 平成元 12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

田中 政吉(21. 4. 11) — 須賀 薫(21. 5. 17) — 亀島 光久(22. 7. 21) — 宮内 宏(22. 8. 28) —
 澤田 一政(25. 7. 1) — 和久 宗通(27. 11. 1) — 河合 俊造(29. 8. 1) — 野本 亘(31. 2. 2) —
 浅野平二郎(32. 12. 5) — 夏井 武則(35. 10. 1) — 嶋村 正信(37. 2. 15) — 池田吉之助(38. 5. 20) —
 関谷 淳一(40. 2. 15) — 岡 節雄(41. 8. 15) — 門田 勝(43. 2. 1) — 酒井 忠弘(45. 4. 6) —
 越智 義和(47. 2. 1) — 野本 巧(49. 2. 1) — 楠本 弘典(50. 8. 1) — 渡邊 一(53. 2. 1) —
 白石 晴夫(53. 8. 1) — 門屋 一郎(56. 2. 1) — 湯上 勉(58. 7. 1) — 福本 誠一(62. 3. 1) —
 都築 昭三(平 2. 2. 1)

当店は、松山市の最南端、国道33号線沿いの森松商店街のほぼ中央にあり、浮穴・九谷地区および砥部町と伊予市の一部が営業エリアとなっている。

当地のシンボルは、昭和45年松山市から指定された「児童公園」と60年に環境庁から「全国名水百選」のひとつに選ばれた「杖之淵」である。四国霊場48番札所西林寺に

近い湧水量豊かな泉「杖之淵」には、魚が放流され、市指定の天然記念物ともなっている「砂八ツ目」「ていれぎ」が保護・育成されている。この「杖之淵」は、昔は「神之淵」または「上之淵」と呼ばれていたが、ある千ばつの年にこの地を訪れた弘法大師が、杖の先で泉を掘ると淵が生まれたという伝説から現在の名前となったという。

郷土の伝統行事のひとつ「森松観月祭」は、毎年中秋の名月頃に重信川河川敷で催され、会場では花火大会・森松月見踊り・伊予万歳などが繰り広げられて松山市の名物ともなっている。この行事と並んで8～9月に同じ河川敷で催される「名物いもたき」には、地元の人はもちろん遠方からも大勢の人が繰り出して夏の黄昏どきのにぎわいをみせる。



全国名水百選に選ばれている杖之淵

北条支店 〒799-24 北条市辻1381番地

■沿革

- 明治40. 3. 29 温泉郡北条町大字北条字辻1381番地に風早銀行本店として開設
 大正 3. 5. 3 商号変更により伊豫勝山銀行本店となる。
 12. 2. 1 買収により五十二銀行北条出張所となる。
 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行辻出張所となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行北条支店となる。
 32. 4. 8 店舗新築のため北条町大字北条888番地に移転（仮営業所）
 32. 9. 24 温泉郡北条町大字北条字辻1381番地に新築復帰
 33.11. 1 北条市辻1381番地と所在地名変更
 58.12.23 フジ北条店出張所（店舗外CD）を北条市辻225番地3株式会社フジ北条店に開設
 平成元.12. 1 両替業務の取扱いを開始
 2. 9. 3 聖カタリナ学園出張所（店舗外CD）を北条市北条660番地学校法人聖カタリナ学園内に開設
 2. 9.17 北条市辻1381番地に新築

■歴代営業店長

岡井弥太郎(16. 9. 1) — 松平 定吉(17. 7.15) — 森 幸夫(20. 7.17) — 井戸 熊市(23. 3. 1) —
 高田三千男(25. 8.15) — 二宮 績(27. 8.16) — 別宮 仁(28.12.21) — 門屋 栄(32. 7.15) —
 野本 亘(32.12. 5) — 三宗 進(33.11. 1) — 大石 卓三(36. 1. 9) — 新岡 武夫(39. 8. 5) —
 堀川 等(42. 8. 1) — 上田 一雄(44. 2. 1) — 大仲 隆(45. 4. 1) — 越智 悦夫(48. 2. 1) —
 村上 清壽(50. 2. 1) — 永井 速雄(51. 7. 1) — 藤原 博雅(53. 9. 8) — 井上 英雄(55. 8. 1) —
 玉井 清司(55.12. 3) — 宇佐美博人(58. 2. 1) — 白石 朝良(59.12.17) — 能勢 昌司(63. 2. 1) —
 中川 克巳(平 3.2.1)

当店のある北条市は、松山市の北部に隣接する世帯数約9,000世帯、人口約3万人の南北に細長い町である。主要産業は、農業を主力に海運・製材・縫製・窯業などであり、主な物産に、伊予柑・ちりめん・清酒・いぶし瓦工芸などがある。

北条市の見どころといえば、まず高縄山があげられる。山頂近くには鎌倉時代に風早地方を根拠地として活躍した河野水軍の

菩提寺「高縄寺」があり、しだれ桜の老木や木造十一面千手観音菩薩が、800年の歴史を感じさせてくれる。この高縄山からの眺望は抜群で、ビロードの海に浮かぶ島影群はさながら箱庭である。また庄地区にある「薬師堂」の菩薩立像2体は、伊予最古の仏像とされ、現在国指定の重要文化財となっている。

催し物の圧巻は、鹿島の海を舞台にした

男たちの勇壮絢爛な「權練り踊り」と、国津比古命神社の秋祭の代名詞「あばれみこし」である。このほか県の無形民俗文化財「伊予万歳」などがなじみが深い。

このように北条市は歴史とロマンに出逢う町であり、この地を訪れて景色の素晴らしさや人々の暮らしに感動した俳人たちの句碑が多いのもうなずける。



勇壮な催しで名高い權練り踊り

中島支店 〒791-45 温泉郡中島町大字大浦3075番地の7

■沿革

- 大正12. 4. 1 温泉郡東中島村大字小浜字黒岩114番地に仲田銀行中島出張所として開設
 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行中島出張所となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行中島出張所となる。
 19. 2.12 温泉郡東中島村大字小浜甲96番地の1に移転
 19. 6. 1 支店に昇格
 24. 9.12 温泉郡中島町大字大浦3075番地の7に新築移転

■歴代営業店長

越智吉太郎(19. 6. 1) — 野本 矩一(25. 8.18) — 澤田 一政(27.11. 1) — 末長 俊平(27.12. 1) —
 矢野 武夫(31. 8. 1) — 池田吉之助(36. 1.31) — 谷淵 満(38. 5.20) — 松本 乙彌(39. 8. 5) —
 浅野 富夫(43. 5.20) — 清家 和(44. 2. 1) — 諏訪 進(46. 2.15) — 森貞 一武(49. 8. 1) —
 井上 公一(52. 8. 1) — 細谷 寛(55. 8. 1) — 遠藤 昌顯(58. 2. 1) — 田中 功(60. 8. 1) —
 武智 晃(平 1.2.1)

当店は中島町の中心地大浦にあり、中島本島全域を営業エリアとしている。

中島町は、松山市の北西、広島・山口両県に接する瀬戸内海西部にあり、六つの有人島と22の無人島で構成されている。

昭和31年には瀬戸内海国立公園に編入され、白砂の海浜、伊予水軍の史跡、多島性景観それに海蝕海岸など自然環境に恵まれた絶好の観光地となっている。特に夏には近県都市から多数の海水浴客が訪れ、夏空のもと澄みきった青い海、きれいな空気が満喫している。

また四季を通じて各島至るところに磯釣りの好漁場があり、近時の釣りブームで周辺からやってくる釣りマニアが年々増えて

いる。

古くから全国的にその銘柄が称賛されている「中島みかん」は、他産地の追随を許さぬものがあり大都市市場で好評を博して



ヒラメの海上養殖

いる。

漁業については、マダイ・ギザミ・クルマエビ・アワビの中間育成と放流を行い、58年には、ヒラメ陸上養殖プラントの建設、63年からは、ヒラメ海上養殖にも着手する

など、「採る漁業」から「育てる漁業」への転換をはかっている。最近では、ヒジキ・ワカメ・イリコなど水産加工による1.5次産業化を鋭意展開中である。

横河原支店 〒791-02 温泉郡重信町大字横河原字棧敷343番地1

■沿革

- 昭和21. 2. 20 温泉郡北吉井村大字樋口1300番地第1に伊豫合同銀行横河原出張所として開設
 25. 10. 1 支店に昇格
 26. 10. 23 温泉郡北吉井村大字樋口1334番地の第2および1335番地の第12に移転
 31. 9. 1 温泉郡重信町大字樋口1334番地の第2および1335番地の第12と所在地名変更
 45. 11. 24 温泉郡重信町大字横河原字棧敷343番地1に新築移転
 51. 12. 21 愛媛大学医学部附属病院出張所（店舗外CD）を温泉郡重信町大字志津川字荒馬甲454番地愛媛大学医学部附属病院に開設
 58. 12. 21 セブンスター重信店出張所（店舗外CD）を温泉郡重信町大字樋口字前川甲171番地株式会社一六セブンスター重信店に開設
 60. 8. 6 国立療養所愛媛病院出張所（店舗外CD）を温泉郡重信町大字横河原366番地国立療養所愛媛病院に開設
 62. 6. 23 松下寿電子工業松山出張所（店舗外CD）を温泉郡川内町大字南方2131番地松下寿電子工業株式会社松山事業部に開設
 平成元 12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

藤原 誠一(25. 10. 1) — 目崎 一重(27. 8. 16) — 野本 矩一(30. 5. 14) — 井上 芳武(33. 3. 23) —
 秋山 忍(34. 9. 1) — 安藤喜四郎(36. 10. 10) — 加藤 正盛(38. 10. 7) — 久米 良知(41. 4. 18) —
 岡崎 保之(42. 8. 1) — 藤田 耕作(43. 8. 27) — 河本 昭二(47. 8. 1) — 和田 富夫(49. 4. 1) —
 能島 俊(51. 7. 1) — 藤田 宣昭(53. 4. 1) — 大立 弘義(55. 2. 15) — 白形 壽保(55. 11. 1) —
 岩田 克之(59. 6. 1) — 浮田 巖(62. 3. 1) — 紀藤 俊吉(平 1. 2. 1) — 八木 正徳(3. 2. 1)

当店のある重信町は、松山市の中心から東に約12キロメートルのところに位置し、松山市と生活圏を同じくする近郊農村地帯である。

当店は、伊予鉄横河原線、横河原駅の近くにあり、営業基盤は重信町の東半分である。

横河原線は、明治32年、当時終着駅であった平井河原駅からの延長工事で同年10月に開通となった。現在、沿線には昭和40年以降、住宅、団地、各種の施設が進出し、昔日の田園の面影は消えつつある。公共施設には、戦前からある国立療養所愛媛病院、40年以降に開設された三つの県立養護学

校、それに愛媛大学医学部と附属病院があり、これらの施設に勤務する人は2,500人を数え、当店の個人取引の基盤をなしている。



愛媛大学医学部と附属病院

重信川上流の山之内にある福見寺は、奈良時代中期の養老2年(718)の建立と伝えられる真言宗豊山派の山寺で、本尊の聖観音菩薩立像は平安時代後期の作といわれている。奥行きのあるしっかりとした技法で、えも言われぬ迫力があり、県指定の重要文

化財である。

町の行事に横河原商工連盟主催の観月祭がある。毎年秋に催される花火や月見おどりは、遠く東予方面からも多くの観客を集めるイベントとして広く親しまれている。

郡中支店 〒799-31 伊予市灘町129番地

■沿革

- 明治43.12.25 伊予郡郡中町大字灘町129番地に五十二銀行郡中支店として開設
昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行郡中支店となる。
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行郡中支店となる。
20. 3.17 郡中北支店の廃止によりその業務を継承
30. 1. 1 伊予市灘町129番地と所在地名変更
46. 3. 8 店舗新築のため伊予市灘町42番地に移転(仮営業所)
46.11.15 新築復帰
55.10.13 フジ伊予店出張所(店舗外CD)を伊予市米湊字安広728番地3株式会社フジ伊予店に開設
平成元 12. 1 両替業務の取扱いを開始
2. 2.22 伊予市役所出張所(店舗外CD)を伊予市米湊820番地伊予市役所内に設置
2. 9.17 エフコ鳥の木店出張所(店舗外CD)を伊予市下吾川232番地5 エフコ鳥の木店内に開設

■歴代営業店長

永井節次郎(16. 9. 1) — 千賀 孟(18. 7.12) — 村瀬 純一(21. 4.11) — 宮崎 要(22. 5.26) —
向井 哲夫(23.10.25) — 山本 秀雄(26. 3.25) — 西口 美憲(27. 8.16) — 西川 安久(29. 8.25) —
井戸 熊市(31. 2. 2) — 宮内 宏(32.10. 4) — 清家 昇(34. 5. 1) — 中野 吉信(37. 8. 6) —
末長 俊平(38. 8.15) — 三宗 進(39.10.15) — 曾根 勲(41. 2.10) — 影浦 猛男(42. 8. 1) —
嶽本與喜男(46. 2.15) — 佐々木 弘(47. 2. 1) — 古島 和生(49. 2. 1) — 小笠原 清(50. 8. 1) —
奥田 政康(51.11. 1) — 笹本 悟(53. 8. 1) — 山下 敏雄(56. 2. 1) — 渡森 誠(58. 5.27) —
近江 泰通(61. 2.10) — 朝谷 清重(62. 8. 1) — 阿部 紀夫(平 1.8.1)

当店は、明治43年12月、五十二銀行郡中支店として開設され、その後の吸収合併を経て現在に至っている。この歴史のなかで、常に地元金融機関として貢献するとともに、伊予市指定金融機関の責にも任じ、地域金融界のリーダーとしての役割を果たしてきた。

伊予市は、愛媛県のほぼ中央、道後平野の南西部にあって、県都松山市に隣接している。

当市は、昭和30年1月、当時の郡中町、北山崎村、南山崎村および南伊予村の4カ町村が合併し、県下10番目の市制地として発足したものである。

世帯数9,000世帯、人口3万人で、主要産業は削り節、柑橘栽培、製材業である。特に削り節は全国一の生産量を誇り、年間500



鴨が越冬する大谷池

億円の出荷額がある。市の東部には、眺望にすぐれた谷上山があって都市計画公園として整備され、近くの大谷池は無数の鴨が飛来し越冬する所として有名である。

また最近では、四国縦貫自動車道建設や松山南部海浜地リゾート開発地域指定などの大型プロジェクトが目白押しで、今後当市の成長発展が大いに期待されている。

砥部支店 〒791-21 伊予郡砥部町大南212番地

■沿革

- 明治29. 8. 1 伊予郡砥部町大字大南甲115番地に砥部銀行本店として開設
 44.10. 5 買収により五十二銀行砥部支店となる。
 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行砥部支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行砥部支店となる。
 17. 3. 2 砥部南支店の廃止によりその業務を継承
 51. 5.17 伊予郡砥部町大字大南甲220番地の1に移転（仮営業所）
 51.12.20 伊予郡砥部町大字大南甲115番地に新築復旧
 58. 8. 2 伊予郡砥部町大南212番地と所在地名変更
 平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

栗山房太郎(16. 9. 1) — 中田 宗一(19. 1.17) — 目崎 一重(22. 7.10) — 気田 半三(22.11.11) —
 谷山 龍馬(26. 7.15) — 藤原 誠一(27. 8.16) — 北條 健市(30. 8. 8) — 秋山 忍(32. 7.15) —
 矢内 禮二(34. 9. 1) — 重松 信夫(37.12.25) — 澤口 一雄(40. 7.20) — 渡部 貞春(43. 2. 1) —
 嶋崎眞一郎(45. 8. 1) — 田中 弘(48. 4. 2) — 寺尾喜與治(50. 8. 1) — 渡邊 清(52. 9.10) —
 池川 賢(55. 2.15) — 藤原 修(57. 5. 1) — 香川 實(60. 2. 1) — 上村 士郎(62. 8. 1) —
 藤野 幸男(平 2.2.1)

当店は、松山市の南15キロメートルの砥部町のほぼ中央にある。

砥部町は、人口約1万9,000人、かつては「伝統産業砥部焼と愛媛みかんの町」として知られていたが、最近では、県総合運動公園・県立とべ動物園・砥部焼伝統産業会館など各種施設の建設が相つぎ、「公園の町」としても発展してきている。

「誰か知る玉よりも白き砥部焼の鉢にこもれる秋の心を」と吉井勇が歌った砥部焼——。砥部焼の特徴は、何といっても清らかで暖か味のある白磁である。白磁と呉須の調和した染付け、やや厚手の素朴な形、そして手描染は、砥部焼のもつ民芸調と格調の高さを表現している。砥部焼の歴史は古く、大洲藩政下、時の宮内村の杉野丈助が幾度か失敗を重ねながら、安永6年(1777)、筑前から釉薬をとりよせて焼成に成功したことにはじまったといわれる。原

料は障子山周辺で採掘される陶石を砕いた粘土である。陶芸創作館では、伝統的な砥部焼の技法を学ぶことができ、またオリジナル作品を創作することもできる。

町の周辺には新派劇創始者のひとり井上正夫誕生地、史跡大森彦七供養塔、国の天然記念物砥部衝上断層などもある。



今も保存されている登窯

松前支店 〒791-31 伊予郡松前町大字筒井字義農1321番地13

■沿革

- 明治44.11.1 伊予郡松前村大字浜742番地に五十二銀行松前出張所として開設
大正11.10.31 伊予郡松前町大字浜742番地と所在地名変更
昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行松前出張所となる。
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行松前出張所となる。
19. 6. 1 支店に昇格
45.11. 9 伊予郡松前町大字筒井字義農1321番地13に新築移転
59. 4.20 東レ愛媛出張所(店舗外 CD)を伊予郡松前町大字筒井1515番地東レ株式会社愛媛工場に開設
62. 9. 9 フジ松前店出張所(店舗外 CD)を伊予郡松前町大字西古泉1番地1株式会社フジ松前店に開設
平成元 12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

- 村瀬 純一(19. 6. 1) — 橋本 漸(20.10. 1) — 秋本嘉一郎(21.12.31) — 玉乃井周平(23. 3. 1) —
澤田 有水(25. 7. 1) — 高木昇二郎(27. 8.16) — 大野 濱一(30. 1.31) — 門屋 栄(33.12. 9) —
大政 之信(34. 7.10) — 気田 半三(36. 8. 5) — 田中 良孝(38. 2.11) — 吉良 賀光(38.12.20) —
桐田 亘(41. 8.15) — 上甲 壽(44. 2. 1) — 大政 信也(48. 2. 1) — 白石 淳(49.12. 9) —
仲田 和夫(52. 8. 1) — 山上彦四郎(54. 8. 1) — 上坂 博章(57. 8. 1) — 田坂 護(60. 2. 1) —
藤原 修(63. 2. 1) — 松本 順市(平 2.8.1)

当店は、伊予郡松前町の商店街の中央にあり、松前町全域を営業基盤としている。

松前町は、人口約3万人で、主な産業は、東レ、地場産業の海産珍味、都市近郊型の農業である。なかでも海産珍味は、町内の約20の事業所で生産され、年間約240億円の出荷額がある。特に魚介を丸のまま利用する小魚珍味は、別名「ふたな煮」と呼ばれ、国内生産の80%を占めている。

松前町の歴史は古く、中世から近世初期にかけては、道後平野の米の重要な積出し港であった。文禄4年(1595)加藤嘉明が淡路1万5,000石から転封となり、当初6万石でここ松前に城を築いて本拠とした。その後関ヶ原の戦功により20万石に加増されたため、慶長8年在城わずか8年にして新城の松山城に移った。松山城築城に際し、石垣の石を頭に乘せて運んだ松前特有の「おたたさん」の誇りと心意気は現在に継

承されている。

松前城跡の近くには県の史跡義農作兵衛の墓がある。作兵衛は、享保の大飢饉の時種麦を枕べに餓死し、「今年の一粒が来年万粒となる」ことを身をもって農民に示したことで有名である。安永5年(1776)松山藩主松平定静の命で頌徳碑が建てられた。

初雛も知るや義農の米の恩 子規



小魚珍味の製造現場

中山支店 〒791-32 伊予郡中山町大字中山丑364番地の1・362番地の3・363番地の1

■沿革

- 大正 6. 6. 5 伊予郡中山村大字中山209番戸に大洲商業銀行中山支店として開設

- 大正11. 8. 1 合併により大洲銀行中山支店となる。
 昭和 5. 7.10 伊予郡中山町大字中山丑292番地に移転
 9. 8.20 合併により豫州銀行中山支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行中山支店となる。
 26. 1. 4 伊予郡中山町大字中山丑364番地の1・362番地の3・363番地の1に移転
 56. 3.23 店舗新築のため伊予郡中山町大字中山字泉町丑288番地の3に移転（仮営業所）
 56.11. 4 新築復帰

■歴代営業店長

- 高橋 栄(16. 9. 1) — 平井 愛国(16.11. 1) — 山本寅太郎(20. 7.17) — 大政 之信(24. 4. 6) —
 奥島傳三郎(26. 3.25) — 久米浅五郎(27. 2.29) — 谷 信夫(29. 3.25) — 矢野 勲(30. 8. 8) —
 大野 豪(32. 3. 1) — 新部 清(35.10. 1) — 中川 乙松(39. 2.10) — 矢内 禮二(40. 8.10) —
 大政 信也(42. 2. 1) — 船本 清数(44. 8. 1) — 楠本 弘典(48. 2. 1) — 浅野 正高(50. 8. 1) —
 山上彦四郎(52. 8. 1) — 奥川 完(54. 8. 1) — 大野 真司(57. 2. 1) — 志賀 協郎(60. 2. 1) —
 上田 勝彦(62.11. 2) — 才野 孝雄(平 3.8.1)

当店は、旧国道の商店街の中心にあり、中山町全域と双海町および内子町の一部を営業基盤としている。

中山町は、松山市の南28キロメートル、伊予郡最南端の小盆地にあり、その中央部を国道56号線が中山川に並行して南北に縦断している。主な産業は農林業で、なかでも名産「中山栗」の歴史は古く、徳川三代将軍家光公に栗を献上したところ、ことのほか賞味されたと記録にあり、昔からその名の高かったことがうかがえる。

当地域の文化遺産では、県指定の文化財に約580年前に建立された永木三島神社の石鳥居遺構、中山町指定の文化財に鎌倉末期作と伝えられる阿弥陀如来、また郷土芸能では、満穂万歳・獅子舞・舎儀利御供すもうがある。そのほか盛景寺の樹齢約770年の菩提樹は、県の天然記念物に指定されている。これらの貴重な文化財は、地域あげ

てその保存伝承に努力が払われている。

昭和60年、当町を含む松山地方生活経済圏の「テレトピア」指定と翌61年の待望のJR内山線開通を足がかりに、当地は観光果樹園の栗ひろいやみかん・りんご狩り、秦皇山キャンプ場、ホテルの養殖と放流など四季折々に楽しめる観光地として発展している。



永木三島神社の石鳥居遺構

久万支店 〒791-12 上浮穴郡久万町大字久万町313番地の1

■沿革

- 明治26. 1.20 上浮穴郡久万町84番戸に久万山融通株式会社として開設
 27. 2.一 商号変更により久万銀行本店となる。
 30.10.29 上浮穴郡久万町大字久万町396番地第1に移転
 昭和16. 5.10 買収により松山五十二銀行久万支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行久万支店となる。
 20. 3.17 久万本町支店の廃止によりその業務を継承

30. 9. 5 店舗新築のため上浮穴郡久万町大字久万町400番地に移転（仮営業所）
 31. 1. 4 上浮穴郡久万町大字久万町396番地第1に新築復帰
 41. 2. 14 上浮穴郡久万町大字久万町313番地の1と所在地名変更
 62. 12. 7 上浮穴郡久万町大字久万町313番地の1に新築

■歴代営業店長

千賀 孟(16. 9. 1) — 井関 年光(18. 7. 12) — 上沖 幸喜(20. 10. 1) — 大西麟三郎(22. 11. 4) —
 井戸 熊市(25. 8. 15) — 大政 之信(28. 7. 10) — 高橋 柳市(31. 1. 31) — 林 正男(31. 12. 8) —
 山路千代重(32. 12. 5) — 北條 健市(36. 10. 10) — 曾根 勲(38. 8. 15) — 宮田 鷹雄(42. 2. 10) —
 矢内 禮二(43. 5. 20) — 高岡 壽郎(46. 2. 1) — 嶋崎眞一郎(48. 4. 2) — 能島 俊(50. 2. 1) —
 玉井 清司(51. 7. 1) — 白形 壽保(53. 9. 8) — 井関信次郎(55. 11. 1) — 浮田 巖(58. 2. 1) —
 藤原 敬博(62. 3. 1) — 立仙 剛男(平 1. 2. 1)

「三坂越えすりや雪降りかかる。戻りや
 妻子が泣きかかる」、これは三坂馬子唄の一
 節である。昔は交通の難所であった三坂峠
 も、今では松山市内から車で40分足らずと
 なった。

当店は、この三坂峠を下ること10分余り、
 昔から木材で栄えた高原のまち久万町の中心
 部にあつて、美川村、面河村、柳谷村を
 含む上浮穴郡4町村を営業基盤としている。

当町の自然環境は、四季それぞれに素晴
 らしい。春はお遍路さんの鈴の音にはじま
 り、44番札所大宝寺、45番札所岩屋寺の静
 寂な杉木立のたたずまいは、人の心に安ら
 ぎを与えてくれる。夏は面河川水系での鮎
 釣り、石鎚登山、また三坂峠から望む松山
 市街の夜景もいい。秋は紅葉の面河溪、久
 万高原特産のりんご狩りが楽しい。冬は何
 といっても久万・美川の両スキー場が若人
 を招く。

そして、平成元年オープンの木造の久万
 町立美術館が、四季を通じて人気を呼ぶ。

しかし、当地域は、基幹産業の木材の不
 振から過疎化現象が続いており、地元町村
 は挙げて「村おこし」運動に取り組んでい
 る。明治26年、久万山融通(株)として設立さ
 れた当店は、地域金融の担い手としてこれ
 まで以上の役割が期待されている。



木造の久万町立美術館

小田支店 〒791-35 上浮穴郡小田町大字町村甲52番地の1

■沿革

- 明治29. 4. 24 上浮穴郡小田村大字町村甲52番地の1に内子銀行小田支店として開設
 昭和12. 3. 1 買収により豫州銀行小田支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行小田支店となる。
 30. 3. 31 上浮穴郡小田町大字町村甲52番地の1と所在地名変更
 60. 9. 9 上浮穴郡小田町大字町村甲52番地の1に新築

■歴代営業店長

井関 年光(16. 9. 1) — 林 正男(18. 7. 12) — 瀧野 健一(23. 2. 1) — 野本 亘(26. 7. 10) —
 大塚伊太郎(31. 2. 2) — 松田栄一郎(32. 5. 24) — 西城 利治(34. 9. 29) — 宮田 鷹雄(37. 8. 6) —

安藤喜四郎(39. 1.13) — 谷淵 満(40.12.10) — 井櫻 久司(44. 2. 1) — 神谷 尚(47. 8. 1) —
古本 初良(53. 2. 1) — 一色 英徳(55. 2.15) — 藤井 美幸(58. 7. 1) — 宇佐美睦朗(60.11. 1) —
三好 晃(63. 8. 1) — 林 一孝(平 3.8.1)

当店は、県の中央山地部、上浮穴郡の西端に位置する小田町にあり、町の北に接する伊予郡広田村とを合わせて営業基盤としている。小田町は約1,500世帯4,900人、広田村は約500世帯1,400人で、古くは広奴田郷・小田郷・小田山などと呼ばれた地域である。

小田町には、平清盛の五女登貴姫が逃げのびてこの地にたどりつき、時の領主に助けられたという落人伝説がある。町の南東部には、四国有数の小田深山国有林がある。国有林地内の小田深山溪谷は、昭和39年3月、四国カルスト県立自然公園の一部に指定され、春は新緑、夏は避暑、秋は紅葉、冬にはスキーと遠隔地から訪れる人も多く、宿泊施設にはログハウス「獅子越荘」などがある。

この地域は、地理的条件や地質等の面から林業をぬきにして振興計画を語れず、磨き丸太・床柱・桁材等の銘木生産、間伐材

によるログハウスの販売を積極的に行っている。

「緑のふるさと、清流の村」広田村では、地域産業振興モデル事業で陶芸館を建設、村内で採れる陶石で広田焼を作り、村の新しい特産品としている。なお、この陶石は従来から名古屋、九州、砥部へ出荷されている。



新緑に映える小田深山溪谷

問屋町支店 〒791 松山市問屋町9番41号

■沿革

昭和48.12.13 松山市久万ノ台410番地6に開設

49.11. 1 松山市問屋町9番地41号と所在地名変更

平成 2. 3.29 フジ安城寺店出張所(店舗外CD)を松山市安城寺町569番地2株式会社フジ安城寺店内に開設

■歴代営業店長

佐伯 賢利(48.12.13) — 梅村 俊男(51.11. 1) — 松谷 豊雄(53. 9. 8) — 清洲 正三(55. 2.15) —

山本 重成(57. 2.22) — 橘 凱緒(60. 2. 1) — 藤岡 旭(62.10. 1) — 越智 勲(平 2.8.1)

当店は、昭和48年12月、松山市における戦後初の新店舗として現在地に誕生した。

これに先立ち、44年5月、中予地区の物流の集約化、多業種の集中化をめざし、協同組合松山卸商センターが設立されていた。当店は、同センターの円滑な運営をバツ

クアップするため、地元銀行として出店を要請されたものである。その後、センターの発展とともに成長し、センターの中核金融機関として各企業のニーズに対応してきた。

松山卸商センター参加企業は、食品、衣料、建材等の卸売業のほかコンピュータ関

連の最新ハイテク産業に至るまで、幅広い業種で構成され、その数は当地に本社をおく企業および出先事業所を合わせて約70社となっている。

なお、51年には、県都松山市の青果、花きの流通促進のため、松山市中央卸売市場がオープン、市場内には当店の松山中央市場出張所が開設されている。

当店を取り巻く環境は、開店当時とは一変した。周辺の道路整備が進み、加えて平成5年度には、当店の面する松山西環状線が松山北環状線に接続することから、さらに様相が大きく変化するものと予想されて

いる。



中予地区の物流拠点松山卸商センター

空港通支店 〒790 松山市空港通2丁目10番1号

■沿革

昭和49. 6. 28 松山市生石町104番地1に開設

55. 7. 29 ABC 空港店出張所（店舗外CD）を松山市南吉田町1458番地株式会社エービーシー空港店に開設

56. 11. 19 フジ高岡店出張所（店舗外CD）を松山市高岡町432番地1株式会社フジ高岡店に開設

59. 12. 6 帝人松山出張所（店舗外CD）を松山市北吉田町77番地帝人株式会社松山工場に開設

60. 8. 19 フジ高岡店出張所（店舗外CD）を高岡支店に移管

63. 4. 1 ABC 空港店出張所（店舗外CD）を高岡支店に移管

63. 4. 1 帝人松山出張所（店舗外CD）を高岡支店に移管

63. 7. 25 ディック竹原店出張所（店舗外CD）を松山市竹原町3丁目20番地18号株式会社ディック竹原店に開設

63. 11. 2 セブンスター和泉店出張所（店舗外CD）を松山市土居田町17番地セブンスター和泉店に開設

63. 12. 5 松山市空港通2丁目10番1号と所在地名変更

平成 3. 4. 17 愛媛綜警出張所（店舗外CD）を松山市空港通2丁目6番27号愛媛総合警備保障株式会社内に開設

■歴代営業店長

河本 昭二(49. 6. 28) — 門田 悟(51. 11. 1) — 二宮 豊吉(54. 2. 1) — 岩田 克之(56. 8. 1) — 奥川 完(59. 6. 1) — 尾崎 泰刻(62. 8. 1) — 小栗 猛(平 2. 2. 1)

当店は、松山市の中心部から松山空港に向かって西に延びる空港通りのほぼ入口にある。営業基盤は、伊予節にもうたわれた吉田挿桃^{さしもも}で知られる北・南吉田、伊予絃^{いすづ}の発祥地である今出を含む垣生、それに余戸、高岡、生石一円である。

当店の名称と関連の深い松山空港は、太平洋戦争開戦の年に建設された旧海軍飛行場がその前身である。その後終戦を経て昭和

和35年松山空港となり、47年には四国で最初のジェット化空港に発展した。現在、航空輸送の飛躍的な増大に備えて空港の整備・拡張工事が行われている。

伊予絃は、天明2年(1782)今出に生まれた鍵谷カナが、薬屋根を押さえた竹が焼けて縞模様になっているのにヒントを得て創始したもので、その後服装文化の変遷で盛衰を繰り返しながら今日に至っている。

今は年産2万反で、そのほとんどが観光用に織られているに過ぎない。正岡子規の門下生であった村上^{せいげつ}齋月^{はたおり}は、往時の今出の盛んな機織の模様を、「朝鴟に夕鴟に^{もず}絣織りすむ」と詠んでいる。

当地は、今や松山市のベッドタウン化、空港通り周辺の企業進出、環状線や幹線道路の整備で大きく様変わりしようとしている。



拡張工事が進む松山空港

小野支店 〒791-02 松山市北梅本町665番地 1

■沿革

昭和51.12.7 松山市北梅本町665番地1に開設

平成元 12.1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

白石 晴夫(51.12.7) — 門屋 一郎(53.8.1) — 船田 薫(56.2.1) — 一色 英徳(58.7.1) — 金井 元彦(60.8.1) — 鎌田 省二(62.8.1) — 伊藤 重明(平 2.8.1)

当店は、松山市の中心部から旧国道11号線を東へ約10キロメートル進んだところにある。

当店の営業基盤である小野地区は、古くから開けたところで、古墳や寺院も多く、小野川に沿って肥沃な田畑が広がり、農業園芸が盛んである。朝に夕に石鎚山や皿ヶ嶺の連峰が眺められる抜群の環境と、伊予鉄横河原線で松山市駅まで18分程度といった便利さがうけて、松山市のベッドタウンとしての発展は著しく、住宅や医院の建築が目立つ。市の統計でも転入者の多さでは石井地区とともに最右翼となっている。

「うららかや昔てふ松の千歳てふ」は松根東洋城の俳句で、かつて小野小学校の校庭にそびえていた国指定の天然記念物「与力松」を詠んだもの。樹齢900年以上というこのクロマツは、小野地区のシンボルであったが、昭和55年、松くい虫の被害で枯れた。しかし、高さ35メートルの勇姿は今で

も地区民の心に残り、与力の名を冠したサークルが多い。

自衛隊駐屯地のある播磨塚古墳の丘から、松山市街を望んで眺める夕日の美しさは素晴らしく、ぜひ一見をお勧めしたい。



松山平野の暮色

上灘支店 〒799-32 伊予郡双海町大字上灘字外堀甲5715番地の1

■沿革

- 明治35. 1. 1 伊予郡上灘村大字上灘5711番地に郡中銀行上灘代理店として開設
43.12.25 買収により五十二銀行上灘出張所となる。
大正10. 9. 3 伊予郡上灘町大字上灘5711番地と所在地名変更
昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行上灘出張所となる。
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行上灘出張所となる。
21. 4.11 支店に昇格
30. 3.31 伊予郡双海町大字上灘5711番地と所在地名変更
34. 5. 1 郡中支店上灘出張所となる。
35. 6.20 伊予郡双海町大字上灘字外堀甲5715番地の1に新築移転
59. 4. 1 支店に昇格

■歴代営業店長

宮川 寛(59. 4. 1) — 藤岡 旭(60. 8. 1) — 森岡 滋(62.10. 1) — 豊川 光(平 1.8.1)

当店は、松山市と大洲市の中間に位置する双海町上灘にあり、上灘・下灘両地区、すなわち全町を営業基盤としている。

双海町は、昭和30年3月、上灘町と下灘村が合併して生まれた町で、世帯数約1,800世帯、人口約6,700人である。伊予灘に面し、その海岸線は約16キロメートル、南北の幅4キロメートルの細長い地形の農山漁村で、「みかんと漁業の町」をキャッチフレーズとしている。

江戸時代から盛んとなった漁業は、伊予灘一円が漁場である。漁港の整備は、上灘・下灘両漁港とも立派に行われ、西日本屈指の漁港として脚光を浴びてきている。

かつて国鉄予讃線の車窓から見えた屋根上や空地のイリコ干し場「ひやま」は特色ある漁村風景であったが、昭和40年に沿岸

構造改善事業として共同加工施設が完成したことによって姿を消した。

町内随一の自然公園として八景山公園があり、そこからは瀬戸内海を箱庭のように眺めることができる。



整備が完了した漁港

久万支店 落出特別出張所 〒791-18 上浮穴郡柳谷村大字柳井川字落出920番地第3

■沿革

- 昭和55. 3. 1 上浮穴郡柳谷村大字柳井川字落出903番地に久万支店落出出張所の業務を継承して開設
62. 9. 7 上浮穴郡柳谷村大字柳井川字落出920番地第3に新築移転

当出張所は、上浮穴郡柳谷村を中心として、美川村と高知県の一部を営業基盤としている。

柳谷村は、国道33号線を松山市より56キロメートル南下した高知県との県境にあり、標高1,000メートルを超える山々に囲ま

れた峡谷型山村である。総面積126平方キロメートルのうち90%を山林が占め、年平均降雨量は約2,400ミリで材木の育成には最適となっている。林野面積1万2,000ヘクタールのうち民有林は約84%、民有林の人工林率は約88%、そのうち杉が63%、檜は37%である。

木材の取引が活発であった昭和30年頃は人口は7,500人を数えていた。その後林業の凋落とともに生活圏都市である松山市への人口流出がはじまり現在に至っている。

国道沿いに高知に流れる仁淀川と、その支流黒川の豊かな水量は発電に利用され、現在では「面河第1」をはじめ5カ所の発電所が運転されている。

黒川渓谷をさかのぼると途中に八釜溪谷がある。そこには約30個のおろけつ甌穴が連なっ

おり、「八釜の甌穴群」として国指定の特別天然記念物となっている。また四国カルストの西方、大野ヶ原の草原に群立する白い石灰岩は、あたかも羊の大群を思わせて見事である。



仁淀川の水量に恵まれた発電所

和気支店 〒799-26 松山市和気町1丁目72番地3

■沿革

- 昭和31. 6. 1 伊豫銀行和気出張所として松山市和気町1丁目82番地に開設
 36.12.18 堀江支店和気出張所として松山市和気町1丁目121番地の7に移転
 50. 2. 1 支店に昇格と同時に松山市和気町1丁目125番地に移転
 58. 8. 8 松山市和気町1丁目72番地3に新築移転
 平成 2. 1.23 井関農機松山工場出張所(店舗外 CD)を松山市馬木町700番地井関農機株式会社松山工場内に開設

■歴代営業店長

- 渡邊 一(50. 2. 1) - 渦尻真二郎(51. 7. 1) - 井上 賢一(54. 2. 1) - 松浦 禎紀(57. 2. 1) -
 石口 清進(59. 6. 1) - 福田 升(62. 3. 1) - 野本 翼(平 1.8.1) - 葉師寺新蔵(3. 8. 1)

当店のある和気地区は神社仏閣の町である。なかでも四国霊場52番札所太山寺、53番札所門明寺は特に有名である。

太山寺は、経ヶ森の東中腹にあり、国宝本堂は嘉元3年(1305)に再建されたもので、県下最大の木造建築物である。

本堂には、聖武天皇以降の歴代天皇が勅納した7体の十一面観音立像が安置されている。7体の仏像は、造り・大きさ・形相ともほぼ同じで藤原時代中期以後の特徴を伝えている。いずれも秘仏となっており、



勝岡八幡宮秋祭の一体走り

そのうち6体は仏開帳^{ぶつかいちよう}の10月17日のみ拝観が許されているが、聖武天皇勅納の仏像だけは50年に一度しか開扉されない。

当店の近くにある円明寺は、天平勝宝元年(749)行基の開基で、寛永10年(1633)にこの地方の豪族須賀重久によって現在の地に再興されたものである。本尊阿弥陀如

来の両脇侍像、観音・勢至の両菩薩立像は、県の文化財に指定されている。このほか勝岡八幡宮の秋祭早朝の「一体走り」は、氏子の青年が裸にタスキ・禪姿で神輿をかつぎ、お旅所までの参道約100メートルを一気に疾走する勇壮な行事で、その迫力を見物人を熱狂させるものがある。

本店営業部松山市役所出張所

〒790 松山市二番町4丁目7番地2

■沿革

昭和48. 6.15 松山市二番町4丁目7番地2松山市庁舎に開設

当出張所は、四国の雄都にふさわしい高層白亜の殿堂、松山市庁舎のロビーにあり、松山市指定金融機関の窓口として、28の指定代理・収納代理金融機関を統括している。

営業基盤は、公金を扱う松山市とその外郭団体および約3,000人の職員である。

松山市は、明治22年に内務省告示第1号により市制が施行された全国39市の一つとして産声をあげた。その後周辺の町村を合併して四国第一の県都に発展、現在「緑と文化の生涯教育都市」として人間優先の都市づくりをめざし、たゆまざる前進を続けている。

松山市は平成元年に市制100周年を迎えた。これを記念して「坊っちゃん文学賞作品の募集」をはじめアイデア豊かな多くのイベントを催す一方、後世に残す夢とロマンの記念事業として、大峰ヶ台丘陵地に「松山総合公園」、五明台地に「松山市民野外活

動センター」、松山城二之丸跡には「史跡公園」を建設するなど、21世紀に向けての新総合計画を着々と推進している。

松山市はまた、国際化時代を迎えて、アメリカのサクラメント・西ドイツのフライブルクの両市と姉妹都市となり、文化・人事の交流など、国際親善を積極的に展開している。



市の中心地にそびえる松山市庁舎

問屋町支店松山中央市場出張所

〒791 松山市久万ノ台348番地1

■沿革

昭和50. 1.17 松山市久万ノ台348番地1に開設

当出張所は、松山市北部郊外の松山市中央卸売市場内に愛媛銀行とともに入場し、青果物・花き関連業者および市場周辺を営

業基盤としている。市場の面積は約9万平方メートル、正門を通り抜けると際だって大きい建物がある。これが卸売場であり、

松山市の夜明けはここからはじまるといっても過言ではない。

午前6時30分「競り人」の第一声で市場の一日がはじまる。活気溢れる競り市。松山市や周辺市町村60万人の台所へ生鮮食品が供給される。2時間半、約650人による戦場さながらの競りが続く。年間取扱量17万トン、309億円の売上げである。

松山市中央卸売市場は、昭和49年11月、旧土橋市場等から移転、松山市の管理のもとで開場した。入場者は、卸売2社、仲卸18社、売買参加者784先、関連業者54社、その後、56年6月に花き部が開設され、市場関連従事者は約1,500人となっている。

午前9時、卸売場の競りは終了、活況は仲卸売場、続いて関連業者売場へと移る。

正午、今度は花き部の競り市がはじまる。午後5時、トラックが頻繁に出入りする。翌朝の競りにかけられる青果物の搬入が続くなかで、市場の一日が終わろうとしている。



競りでにぎわう松山中央卸売市場

東野支店 〒790 松山市正円寺1丁目3番19号

■沿革

昭和53. 8.23 松山市正円寺1丁目3番19号に道後支店東野出張所として開設
 59. 4. 1 支店に昇格
 59.11.30 店舗増築

■歴代営業店長

松本 順市(59. 4. 1) — 高瀬 克一(63. 2. 1) — 吉岡 彌(平 3.2.1)

当店は、石手寺方面から石手川にかかるへんろ橋を渡った東野にある。営業エリアは、東野・正円寺・樽味・畑寺・桑原それに石手川上流周辺で、世帯数は約4,300世帯、人口は約1万3,000人である。

当店北方の四国霊場51番札所石手寺は、寺伝によれば聖武天皇の神亀5年(728)、越智玉澄が勅願によって創建した伽藍で、当初は安養寺と呼ばれていたが、弘仁4年(813)石手寺と改められたものである。衛門三郎の伝説は、この時期に生まれたものであるうか。境内の二王門は、「伊予古蹟志」によると文保2年(1318)河野通継の建立と伝えられる重層楼門で、全国の楼門のなかでも屈指の秀作とされ、松山市にある国

宝3点のうちの一つである。このほか境内



石手寺境内の三重塔

には本堂・三重塔など国指定の重要文化財7点がある。

当店の東方、松山城を望む東山高台に、松山藩祖松平定行公が隠居所としていた東野お茶屋跡がある。庭は東海道五十三次の宿場を、池は琵琶湖を模して築造されたと

いわれ、庭内には現在138科・1,450種の植物が植えられている。池のほとりに句碑2基。

閑古鳥竹のお茶屋の人もなし 子規
ふるさとのこの松伐るな竹切るな 虚子

潮見支店 〒791 松山市東長戸4丁目8番1号

■沿革

昭和55. 3. 28 松山市鴨川1丁目2番8号に本町支店潮見出張所として開設

60. 4. 1 支店に昇格

60. 11. 25 松山市東長戸4丁目8番1号に新築移転

■歴代営業店長

松川 敏幸(60. 4. 1) — 黒田 肇(62. 3. 1) — 神野 耕一(平 2. 2. 1) — 大平 芳男(3. 8. 1)

当店は、松山市の中心部から国道196号線を北へ、車で15分ほどの所にある。明治の中頃、潮見村と呼ばれていた吉藤・谷町・平田町・志津川町と、長戸村と呼ばれた東長戸・西長戸・鴨川、それに姫原を加えた一帯が当店の営業基盤である。

近くの潮見温泉の地から弥生前期の土器が出土していることから、この地では2～4世紀にはすでに農耕生活が営まれていたとされている。このように早くから開かれてきた農耕地も、昭和30年頃から公営住宅、分譲住宅の建設が進み、さらに国道沿いには各種企業の進出も多くみられて急激に都市化した。かつては当地から松山城が眺望できたが、現在では林立する高層住宅等に阻まれて、それは望むべくもない。

吉藤には当行の家族寮と独身寮がある。当店の周辺には、谷町に室岡蓮華寺、平田町には阿沼美神社、姫原の西部には軽 大娘

皇女の墓と伝えられる姫塚が点在している。当店名「潮見」は、地域内の潮見山にちなんでいる。かつて海潮が田畑を浸した時、村人はこの山に登って難を避け、潮の動静を眺めたとの伝承から、潮見山の名が生まれたとされている。



谷町にある室岡蓮華寺

福音寺支店 〒790 松山市福音寺町42番地 6

■沿革

昭和55. 11. 6 松山市福音寺町42番地 6 に新立支店福音寺出張所として開設

59. 4. 1 久米支店福音寺出張所と店名変更

63. 8. 1 支店に昇格

■歴代営業店長

佐藤 定夫(63. 8. 1) — 安部 昭義(平 1.8.1)

当店は、松山市の南東部、旧国道11号線沿いに、昭和55年11月6日、新立支店福音寺出張所として開設された。その後、久米支店福音寺出張所を経て、63年8月1日、福音寺支店として独立し今日に至っている。

当店のエリアは、道路沿いの事業所地帯、これを取り巻く新興住宅地と地元農家の集落に大別される。

特にここ数年は、農地から宅地への転用で個人住宅や賃貸マンションが増加、松山市内でも有数の人口増加地区となっている。

その理由として、エリア内には伊予鉄道横河原線福音寺・北久米両駅のほか多数のバス路線があり交通の便のよいこと、大型スーパーが多数出店して生活に便利

ことが挙げられる。平成3年4月には、福音寺駅近くに福音小学校が開校した。

なお、エリア内には、これといった名所や史跡はないが、縄文時代に集落が栄えていた所で、今でも宅地造成の際には必ずといっていいほど遺跡が発見されている。



ユニークな設備で知られる福音小学校

余戸支店 〒790 松山市余戸中6丁目4番36号

■沿革

昭和52. 8. 25 松山市余戸町810番地1に開設

53. 10. 1 松山市余戸中6丁目4番36号と所在地名変更

60. 7. 3 帝人愛媛工場出張所(店舗外CD)を松山市西垣生町2345番地帝人株式会社愛媛工場に開設
平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

田中 貞輝(52. 8. 25) — 西村 仁志(55. 2. 15) — 福田 有良(57. 2. 1) — 渡邊 儀八(59. 8. 1) — 森田 昭一(61. 8. 1) — 福本 慶三(平 1.2.1) — 古谷 健治(3. 8. 1)

当店は、松山市の中心部から西南約4キロメートルの所にあり、余土地区と垣生地区を営業基盤としている。両地区合わせて世帯数は約9,000世帯、人口は約2万8,000人である。

余土地区は、現在松山市のベッドタウンとして著しく変ぼうしようとしている。余土で忘れてはならない人物に、模範村余土村の名を高めた盲目村長、森盲天外もうてんがいがいる。彼は30歳の時目を患い、32歳で両眼とも失

明、再三死を考えたが悟るところがあつて京都比叡山で修業した。34歳の時、村民の懇請で郷里余土村村長に就任、在任中に「余土村是」を著し、小学教育の改善・青年教育の実施・耕地の改良・勤儉貯蓄・共同購入・小作保護・副業の奨励の7カ条の村是を實踐して、必ずしも裕福とはいえない余土村を、全国に名を轟かす立派な村としたのである。「行く秋や手を引きあひし松二木」、これは子規が三嶋神社の境内にある手

引松の姿を詠んだ句であるが、力を合わせ助け合い、勤労に励む当時の村民の姿を偲ばせる。

垣生地区では、俳都松山にふさわしく、子規の友人で渋柿系の俳人村上齋月、五十崎古郷の弟子石田波郷を輩出している。波郷「酒中花」の句。秋いくとせ石鎚を見ず母を見ず



子規の句碑がある三嶋神社

石井支店 〒790 松山市朝生田町42番地3

■沿革

昭和14.11.27 松山市朝生田町42番地3に開設

60. 5.27 セブンスター石井店出張所（店舗外CD）を松山市東石井町327番地株式会社一六セブンスター石井店に開設

62.12.21 ダイエー南松山店出張所（店舗外CD）を松山市朝生田町42番地株式会社ダイエー南松山店に開設

平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

片山 克(54.11.27) — 朝谷 清重(55. 2.15) — 濱田 恭二(57. 8. 1) — 宮川 寛(60. 8. 1) — 岡田 英夫(63. 8. 1) — 月原 佑治(平 2.8.1)

当店は、郊外（ロードサイド）型店舗の連なる南部環状線沿い、ダイエー南松山店に隣接しており、旧石井村の北半分に当たる朝生田・天山・西石井・和泉の地域を営業基盤としている。

旧石井村は、道後平野の中央にあって、北は立花・桑原と、南は重信川を挟んで松前・北伊予地区と接し、東の久米地区、西の余土地区との間に広がる穀倉地帯であった。その地名は大宝律令（701）に由来し、14郡に分けられた伊予の国のなかに「久米郡石井郷」という名がみられる。

純農村であった石井村が住宅地となり、さらに都市郊外型の商圈を形成するに至ったのは、昭和37年4月の松山市との合併以後のことである。とりわけ40年代以降、石井地区の毎年の農地転用は、件数・面積ともに松山市全体の約20%を占める勢いであ

った。現在の人口は4万人を上回り、大洲市や伊予三島市の総人口に匹敵する。

当店前の南部環状線は、松山市に集中する6本の国道を、中心市街地の外周2キロ圏で結ぶ松山環状線の一環であり、当店は、この絶好の立地条件を生かしながら地域の発展を支援する営業を展開している。



変ぼうする南部環状線周辺

椿支店 〒790 松山市越智町257番地 4

■沿革

昭和55. 7.23 松山市越智町257番地 4 に開設

55.10.29 ABC 石井店出張所 (店舗外 CD) を松山市越智町223番地 1 株式会社エービーシー石井店に開設

■歴代営業店長

西林 保幸(55. 7.23) — 大森 昭良(58. 2. 1) — 藤井 美幸(60.11. 1) — 田窪 孝臣(63. 8. 1) — 川野 喬(平 3.2.1)

当店は、最近松山市のベッドタウンとして急速に発展してきている南石井地区にある。

当店の営業エリアの中心である越智町一円は、170年ほど前、度重なる重信川の氾濫によってできた荒地を開墾するため、大三島の農家の二・三男が移住してきた所で、移住者の代表者の姓をとって「越智町」と名づけられたといわれている。現在でもこの地域の姓の大半は、大三島に多くみられる越智・菅・菅原であることからこの言い伝えは信ぴょう性が高い。

当店から西へ、国道33号線を横切って真っ直ぐ進んでいくと、木立に囲まれた赤い大鳥居の神社に突き当たる。俗称「椿さん」で知られる「伊予豆比古命神社」で、祭神は伊予豆比古命・伊予豆比売命・伊予主命・愛媛命である。椿さんは「縁起の神」「商売繁盛の神」として広く親しまれ、旧正月

の7、8、9日の例祭には、境内や参道は参拝者で連日溢れんばかりとなる。

ここ椿神社には、市の指定文化財「木造狛犬」一対がある。この狛犬は銘文がなく塗料もはげ落ちているが、室町時代末期の作品と推定されている。

椿さんが終わると伊予路に春がやってくる。



縁起の神で親しまれている椿さん

久米支店 〒790 松山市南久米町675番地 3

■沿革

昭和56. 6. 4 松山市南久米町675番地 3 に開設

60. 3. 2 コーノ久米店出張所 (店舗外 CD) を松山市南久米町243番地 1 株式会社コーノ久米店に開設

63.12. 1 松山リハビリテーション病院出張所 (店舗外 CD) を松山市高井町1211番地松山リハビリテーション病院に開設

平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

野村 博(56. 6. 4) — 上甲 晴夫(58. 5.27) — 藤田 幸雄(61. 2.10) — 大野 威(平 1.2.1)

当店は、松山市東部の「久米の里」、国道11号線に沿った所にある。「久米」の地名は、

奈良時代の初期に当時の豪族久米直氏がこの地を統治していたことに由来するとい

われている。久米地区は、昭和30年に松山市に編入されるまでは典型的な農村であった。最近では企業の進出と住宅地化の進展が著しく、人口も編入当時の3倍近くに達している。

久米周辺には古代から中世にかけての遺跡が多い。「来住^{きし}廃寺跡」はその一つで、本寺院の創建は7世紀後半の白鳳時代と推定され、最近の発掘調査では講堂跡の基壇や回廊跡が確認されている。東方の山裾には四国霊場49番札所浄土寺がある。天平時代の行基の開基と伝えられ、文明14年(1482)に再建された和様・唐様折衷の建築様式をもつ寺である。本堂に安置されている「木造空也上人立像」は、作者は不明であるが鎌倉時代の秀作である。浄土寺境内には気宇^{べいざん}広大の書風で知られた明治期の書家三輪田米山の墓がある。

久米はかつては教育村とも呼ばれ、明治42年に「久米村通俗文庫」を設立して村民の教養の向上に貢献した歴史をもっており、昭和36年の東道後温泉郷開発の成功は、伝統的な住民の進取の精神に負うところが大きい。



和様・唐様折衷建築様式の浄土寺

味生支店 〒791 松山市北斎院町631番地12

■沿革

昭和58. 3. 18 松山市北斎院町631番地12に開設

63. 4. 26 フジ北斎院店出張所(店舗外CD)を松山市北斎院町698番地1株式会社フジ北斎院店に開設

■歴代営業店長

岡部 倫寛(58. 3. 18) — 高橋 貞喜(60. 2. 1) — 谷本 吉正(平 1. 2. 1) — 林 昌宏(3. 8. 1)

当店は、松山市の西部、市制100周年記念事業で整備が進む大峰ヶ台(松山総合公園)の真西にある。

町の名に味生はなく、小学校2校と公民館にその名を残している。この味生の由来は、明治22年の町村制施行の際に、味酒郷の山西、垣生郷の南斎院、北斎院および別府の計四つの集落を合わせて1村とし、味酒の味と垣生の生とを1字ずつ採って、温泉郡味生村としたのがはじまりである。

また、当店所在の北斎院町は、齋明天皇が友邦百済救援のため海路西征の途中、道後温泉に行幸された時休息された由緒の地で、天皇の齋をその語源とするといわれる。

営業エリアは、別府町、北斎院町、南斎院町の一部で世帯数約4,000世帯、人口約1万2,000人、給与所得者を中心に、年金生活



松山市埋蔵文化財センター

者、専業農家、小売サービス業で構成されている。店周にはまだ田畑が多く、市中心部から4キロメートル以内の近距離にありながら、道路網の未整備から発展が遅れてきた地区である。しかし、近年は松山市埋

藏文化財センターが建設され、近い将来には千舟町空港線のバイパスが当店の近辺を通る予定であり、今後の発展が大いに期待されている

高岡支店 〒791 松山市高岡町435番地4

■沿革

- 昭和60. 8. 7 松山市高岡町435番地4に開設
 60. 8. 19 フジ高岡店出張所(店舗外CD)を空港通支店より移管
 63. 4. 1 ABC空港店出張所(店舗外CD)を空港通支店より移管
 63. 4. 1 帝人松山出張所(店舗外CD)を空港通支店より移管
 平成2. 9. 3 帝人製機松山工場出張所(店舗外CD)を松山市北吉田町1047番地帝人製機株式会社松山工場内に開設
 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

多田 建一(60. 8. 7) - 田中 孝明(63. 2. 1) - 五十嵐 勝(平 2.8.1)

当店は、松山市^{しょうせき}生石地区を重点エリアとしている。町名で記せば、北吉田町、南吉田町、高岡町および久保田町となる。世帯数約4,600世帯、人口約1万4,000人で、この地区の人たちの大部分は帝人(株)や関連企業に勤務している。昭和30年に帝人松山工場、45年に同社愛媛工場がそれぞれ開業した。それまでは、生石八幡神社や弓引八幡宮の周辺に集落のある農村であったが、帝人進出以降、工業地域へと急速な変ほうを遂げた。

松山の空の玄関、松山空港が近い。ここには太平洋戦争中、海軍の第343航空隊が駐屯していて、生石地区には主力機紫電改などを格納する掩体壕が30近くあった。今も南吉田町の水田に四つ残っている。戦後、31年3月に松山～大阪線が民間航空路線として開設され、32年度からの諸施設整備を終えた35年10月にF級第2種空港の指定をうけた。平成3年12月には、滑走路の延長とともにモダンな新ターミナルビルが完成し、四国最大の県都にふさわしい空港に生まれ変わった。

旧高岡村の入口の庄屋の門に、当地の疫病退治に飛来した石鎚山の犬神の面が睨みをきかしている。そんな由来も残る町である。



戦時中紫電改を格納した掩体壕

牛渕支店 〒791-02 温泉郡重信町大字牛渕字上樋1961番地 1

■沿革

昭和62. 8. 6 温泉郡重信町大字牛渕字上樋1961番地 1 に開設

■歴代営業店長

柴田 敏寛(62. 8. 6) — 田井 正臣(平 2.2.1)

「嫁にはやるな野田、牛渕へ、石鎚下ろして吹きもどされる」といわれているように、重信町牛渕地区一帯は、冬期、重信川沿いに北西の季節風が強く吹き通りはするが、比較的気候温暖で、東に霊峰石鎚山、南に皿ヶ嶺連峰が遠望できる豊かな自然景観がある。

また、国道11号線および伊予鉄横河原線沿いの地の利に恵まれ、昭和44年県営牛渕団地建設着工を機に、周辺の宅地造成が行われ、かつての田園も、今や松山市のベッドタウンとして都市化の様相を強めている。

当地はその昔、荒廃河川である重信川の氾濫で幾多の水害をうける一方、扇状地帯ゆえの水不足に苦しんできたと、史料にある。

天和2年(1682)から150年の歳月を要したという「牛渕村の屋敷移り」は、水害を逃れるための集落大移動であった。また、生活・農業用水源として重信川の伏流水を

得るために掘られた泉が、今も各所に残っている。

当店は、この牛渕地区周辺と松山市の一部、世帯数約2,700世帯、人口約8,600人を営業基盤としている。大半は給与所得者か兼業農家で、個人取引中心の店舗である。昭和62年8月の開設で歴史は浅いが、開設以来、地域と共存共栄の店づくりをめざしている。



皿ヶ嶺連峰が望める牛渕団地

古川支店 〒790 松山市古川北3丁目18番16号

■沿革

昭和62. 3. 3 松山市古川町343番地 1 に開設

62.10.30 松山市古川北3丁目18番16号と所在地名変更

平成元 10.20 サニーマーケット出張所(店舗外CD)を松山市古川西2丁目8番30号有限会社サニーマーケット内に開設

3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

矢野 捷利(62. 3. 3) — 岸 新(平 1.2.1) — 續木 英雄(3. 2. 1)

当店は、松山市と伊予市を結ぶ県道松山・伊予線沿いにある、有名な椿神社の西

参道方に位置している。

営業基盤は古川・和泉・市坪地区で、お

おむね北は石手川、南は重信川に挟まれた地域である。世帯数約6,200世帯、人口は約2万人、松山市のベッドタウンとして急膨張した新興住宅地域で、個人が中心の市場である。

当地は、昔から肥沃な耕地に恵まれ、純農村地帯として発展してきたが、一方では、洪水に常に悩まされるなど、自然との戦いが繰り返されてきた歴史をもっている。郷土史に刻まれている逸話の一つを紹介する。

寛永7年(1630)、この年は米1粒の収穫もない凶作であった。庄屋の久兵衛は代官に減租を懇願したが聞き入れられず、これを知った農民が激高して騒動を起こした。藩庁の過酷な追及に対し、久兵衛は決意して自己の一存なりと自訴し、礎になって農民を救った。久兵衛の墓は、長徳寺に祀ら

れている。

現在、地元の有志により、久兵衛の心を汲むべく「古川きゆうべい会」が結成され、住民全員参加をもって、明るく、コミュニケーションのよい町づくりが推進されている。



久兵衛の墓がある長徳寺

原町支店 〒791-21 伊予郡砥部町原町325番地15

■沿革

昭和63. 6.20 伊予郡砥部町原町325番地15に開設

■歴代営業店長

矢野 末広(63. 6.20) — 岡田 一志(平 3.2.1)

当店は、松山市内を南下して旧国道33号線森松橋を渡った所、森松・砥部両支店の中間にある。エリア内の世帯数は約2,700世帯で、松山市側と砥部町側で相半ばしている。

当店は、住宅地の環境にマッチするようグリーンを基調とした明るいガラス張りのユニークな建物で、地域住民から好評を得ている。

昭和63年に開園した「県立とべ動物園」は、県総合運動公園とともに砥部町の新名所となっている。西日本屈指の環境と施設と規模を誇るこの動物園では、約180種の動物が自然に近い状態で観察できる。

松山市側には、四国霊場「46番浄瑠璃寺」

と「47番八坂寺」がある。浄瑠璃寺は、寺伝によれば和銅元年(708)行基の開基と伝えられ、行基の刻んだ本尊薬師如来のおわず浄瑠璃浄土の名をとって命名されたとい



西日本屈指の施設を誇る県立とべ動物園

う。八坂寺は大宝元年(701)に国司越智玉興が八つの坂を切り開いて伽藍を再建したことからこの名がある。その近くの「文珠院」は、四国遍路の始祖伝説として知られ

る衛門三郎ゆかりの寺であり、「荏原城跡」は河野家十八将の首席平岡氏のかつての居城で、現在では戦国時代の築城法の研究資料となっている。

岡田支店 〒791-31 伊予郡松前町大字恵久美字前堤813番地1

■沿革

平成 2.12.12 伊予郡松前町大字恵久美字前堤813番地1に開設

■歴代営業店長

岡崎 年伸(平 2.12.12)

当店のある松前町は、昭和30年3月に旧松前町、北伊予村、岡田村の1町2村が合併して発足したものである。

当町は、かつてその大部分が農漁村であったが、昭和13年の東レ工場誘致以来、産業・教育・文化を中核とした明るい町づくりを目標に躍進を続けてきた。現在では松山市のベッドタウンとしても発展が期待されている。

当店は、松前町の北東部、出合大橋より南500メートルの所にあり、営業基盤は世帯数3,300世帯、人口1万人の都市近郊型農村地帯である。

当店の北には、1級河川重信川がある。重信川は、その源を高縄半島、東三方カ森の麓に発し、その豊かな水は、町内各地に伏流水として泉を点在させ、なかでも大間の泉川は、倉敷市の美観地区倉敷川を彷彿させる。有明橋での納涼は岡田八景の一つ

になっている。

神崎には伊予神社がある。境内の五輪の塔は鎌倉時代後期のもものと推定され、町の有形文化財に指定されている。また中川原には、愛媛亜熱帯植物園がある。ワシントンヤシ、カナリーヤシなど約70種類のヤシが林立しているほか、約56種類の亜熱帯の草花が咲き乱れ、県外からの見学者も多い。



ヤシが林立する愛媛亜熱帯植物園

本町支店城北出張所 〒790 松山市清水町3丁目43番地15

■沿革

昭和55.10.14 機械化店舗として松山市清水町3丁目43番地15に開設

平成 3. 6. 3 松山市清水町3丁目43番地8に移転(仮営業所)

当出張所は、松山市北部の文教地区にある。来店客は、愛媛大学・松山大学の学生が主体で全体の70%を占め、CDの利用率は当行のトップクラスである。

当店の東北、松山城の雄姿が展望できる御幸寺山麓は寺町とも呼ばれ、松山城築城の普請奉行足立重信や杉田玄白に蘭学の指導を受けた青地林宗の墓のある来迎寺、黄

ば、
 榮宗の寺院千秋寺など、15にも達する寺院がある。盆や春秋の彼岸には、この辺り一面線香の香りが立ちこめ、一段と落ち着いた雰囲気を見せている。

またその一画にはロシア兵の墓地がある。松山は日清・日露戦争当時は捕虜の収容地であった。特に日露戦争では延べ6,000人のロシア兵捕虜が収容されていた。捕虜たちは、道後温泉の入浴、市内での散策や買物などが許され、市民もまたロシア兵を温かくもてなしたため、「マツヤマ」の名はロシア陣地内でも知られていたという。明治38年の暮れ、ロシア兵は順次帰国の途についたが、この間98人の兵が病いにより異

郷の地松山で亡くなった。この墓地では、毎年、死没将兵の追悼がねんごろに行われている。



手入れが行き届いているロシア兵墓地

三津浜支店松山水産物市場出張所 〒791 松山市三津ふ頭1番地2

■沿革

昭和56. 9.10 松山市三津ふ頭1番地2 松山中央卸売市場水産市場に開設

当出張所は、松山市の北西部、「三津の朝市」として知られる松山中央卸売市場水産市場内にある。

水産市場は、松山市が卸売市場を青果と水産物に分離することになり、昭和55年に約39億円を投じて完成したものである。

「三津の朝市」は、伊予節にも歌われているほど歴史は古く、その起源には諸説がある。一説には応仁元年(1467)に港山城主であった河野道春が、毎朝城兵の米穀魚菜を近郷の民から買い上げていたのでここに集合市場ができ、それが「朝市」の発祥になったというもので、他説としては元和2年(1616)、松山藩主加藤嘉明の頃、三津の下松屋善衛門が、藩の許可を得て魚を売買したのをはじまりとするものである。

この二説だけをみてもその発祥期に150年の開きがあるが、いずれにしても瀬戸内海の好漁場を背景に、市場での魚の売買は遠い昔から発達していたものであろう。

三方を海に囲まれた当出張所からは、小

は漁船から大は海上自衛艦に至るまで多種多様の船が岸壁に停泊するのが眺められ、またはるか沖合いを見わたせば興居島の「伊予小富士」がやさしいたたずまいで迫ってくる。



「三津の朝市」として知られている水産市場

小栗支店 〒790 松山市小栗3丁目2番19号

■沿革

昭和57. 7. 9 松山市小栗3丁目2番19号に湊町支店小栗出張所として開設
62. 4. 1 支店に昇格

■歴代営業店長

友近 徳幸(62. 4. 1) — 井門 義文(平 1.2.1)

当店は、松山市の南西部、国道56号線に面した新興店舗である。昭和57年7月、湊町支店の出張所として開設、5年後の62年4月、支店に昇格した。

当店の主な担当地区は、小栗・雄郡・和泉北・土居田町・保免上である。この地域は、古くは石手川水系の豊かな水田地帯であった。現在は、その面影を残しつつ、住宅地区として発展し、しゃれたマンションも多い。

当地区は、旧市街と新市街の境界部に当たり、伊予市方面への玄関口でもあった。近年の交通量の増加から、50年3月には石手川をまたいで松山南環状線が新設され、国道11号線と33号線が結ばれた。続いて53年には、南予方面への動脈である国道56号線が開通、南環状線と結ばれた。市内を通っていた車両も、早くて便利な環状線を通

るようになり、56号線と南環状線を結ぶ和泉交差点の役割は、極めて重要なものとなった。

和泉交差点から南へ100メートルに石手川公園がある。石手川沿いに設計された同公園は、休日には家族連れでいっぱいになる。



交通の要衝和泉交差点

川内支店 〒791-03 温泉郡川内町大字南方町裏595番地 1

■沿革

昭和57. 7.12 温泉郡川内町大字南方町裏595番地 1 に横河原支店川内出張所として開設
59. 4. 1 支店に昇格

■歴代営業店長

山内 武(59. 4. 1) — 近藤 博明(61. 8. 1)

当店は、松山市から東へ16キロメートル、川内町の中央を走る国道11号線筋にあり、川内町全域を営業基盤としている。

川内町は、宝泉にある弥生時代中期の古墳群や、大宝2年(702)の医王寺建立の記録から、早くから文化の栄えていた所と推

定される。その後伊予の豪族河野家の統治下に入り、幕末の頃は松山藩に所属していた。

川内町の誕生は、村の合併や地区の編入の終わった昭和31年で、現在の人口は約1万人である。42年には工場誘致条例を制定

して松下寿電子工業をはじめ鉄工・精密機械など約20社を誘致、500人を超える雇用を確保している。

かつてこの辺りは、金毘羅宮や石鎚大権現の講参りの宿場町として、また当時の運送手段である馬・駕籠の往来でにぎわっていたが、今はモータリゼーションの発達により、当時の面影を偲ぶよすがもない。しかし四国縦貫自動車道や川内インターチェンジの建設で、やがて松山市の東玄関口・四国の動脈の要衝地となることが期待されている。

町内には、由緒ある神社・仏閣のほか、白猪の滝・川内公園・滑川溪谷などのすぐ

れた景観や豊かな自然があり、家族連れや若者のハイキングコースとして親しまれている。



旧道金毘羅街道と国道11号線

湊町支店市駅前出張所 〒790 松山市湊町5丁目4番地25 日切ビル1階

■沿革

昭和58. 1. 11 機械化店舗として松山市湊町5丁目4番地25日切ビル1階に開設

当出張所は、伊予鉄電車・バスのターミナル「松山市駅」、大型デパート「いよてつそごう」と四国唯一の地下街「まつちかタウン」を控えた機械化サービス店舗である。来店客は多い日には1,200人を超える。

漱石に「マッチ箱のような汽車」といわれて親しまれてきた伊予鉄道は、明治21年に開通したわが国最初の軽便鉄道で、設立発起人は先見の明と創業の才にたけた小林信近である。小林初代社長は、当行の前身第五十二国立銀行の初代頭取であったこともあり、伊予鉄道と当行とは因縁浅からぬものがある。

当店の隣は、「お日切さん」で市民に親しまれ市駅前のシンボルとなっている善勝寺である。戦災前は竜宮城のような山門が偉容を誇っていて、昔の面影を懐かしむ老人も少なくない。本尊は、平安時代の念仏宗の高徳・恵心僧都の作と伝えられる地藏尊である。元禄年間に当地に悪疫が流行した時、「善勝寺の地藏尊に日を切って(期日を

定めて)願をかければ必ず叶う」との霊夢を見た者が各地に現れ、いつしかそれが「日切地藏」「お日切さん」と呼ばれるようになった。

毎年8月の日切地藏祭は、松山夏祭の最後の締めくくりとして盛大に催される。



ターミナル松山市駅

松山駅前支店宮西出張所 〒790 松山市宮西1丁目2番15号

■沿革

昭和58. 7. 8 機械化店舗として松山市宮西1丁目2番15号に開設
平成元 2.10 いよぎんローンプラザを出張所内に開設

当出張所は、JR松山駅から北へ約500メートル、伊予鉄バス宮西停留所前にある。

重点エリアは宮西1丁目・愛光町で、世帯数約900世帯、人口約2,000人の個人市場である。当出張所の面する県道松山港線沿いには、四国郵政局など官庁出先機関をはじめ、各自動車ディーラー、ホテルなどが軒を連ねている。また隣には、プールやカルチャーセンターなどレジャー施設を備えた「フジグラン松山」があり、ここでの買物客が当出張所の来店客の過半数を占めている。

当出張所から堀之内寄り味酒町2丁目に、天明時代の俳人栗田栲堂の草庵がある。栲堂は寛延2年(1749)に松山松前町に生まれ、松山藩大年寄を務められたわら俳諧の道にはげみ、しばしば上京して俳人加藤暁台の高弟となってから全国にその名が知られるようになった。寛政12年(1800)、そ

の年の干支にちなんで彼の住処の草庵を「こうしんあん庚申庵」と名づけた。かの小林一茶は寛政7年(1795)1月15日にこの庵で句作を楽しみ、翌16日に道後に入浴したと「寛政紀行」に記している。「寝ころんで蝶とまらせる外湯哉」はその時に詠んだものである。庚申庵には今も樹齢200年を誇る藤が残っている。



小林一茶も訪れた庚申庵

道後支店緑台出張所 〒790 松山市道後緑台4番2号

■沿革

昭和58. 7.21 機械化店舗として松山市道後緑台4番2号に開設
平成 3. 8.26 松山市道後町2丁目12番10号に移転(仮営業所)

当出張所の東には、日本最古の道後温泉があり、南には新しい愛媛のシンボルともいべき愛媛県民文化会館が立つ。西は愛媛大学・松山大学などの文教地区であり、北は祝谷の山のふもとまで高級住宅地が続き、そのうしろの市内を一望できる高台には、道後白水台を中心として新しい住宅地が開発されつつある。

県民文化会館と道後温泉街を結ぶ市道は、昭和61年に、「熟田津の道」と呼ぶしゃ

れた街路に生まれ変わった。路面は、歩道が正乱張り、車道がウロコ張りの石畳、街路樹は松山の市花「椿」や街の木「もみじ」で、季節ごとに御影石の石畳の色と美しい調和をみせている。

また、道路の南側の川にかかる橋はアーチ型で気の利いた感じ。そして明治時代のガス燈をイメージして造られた8基の街路燈に灯がともると、ムードは一気に盛り上がるのである。

地区の人々によって名づけられた熟田津の道は、道後の新名所として広く愛されている。



石畳の街路に生まれ変わった熟田津の道

粟井支店 〒799-24 北条市中須賀字新開331番地 1

■沿革

昭和59. 7.16 北条市中須賀字新開331番地に北条支店粟井出張所として開設
62. 4. 1 支店に昇格

■歴代営業店長

三浦 太栄(62. 4. 1) - 西川 建二(平 2.8.1)

当店は、北条市の南部、粟井地区の国道196号線沿いにある。

この地域一帯は、古来、風早の地と呼ばれていたように、海から吹きつける風は強いが、温暖な気候に恵まれて果樹栽培が盛んである。

柳原から河野川に沿って東に40分ばかりの所、おんご めんご雄甲、雌甲の山麓にぜんのおうじ善応寺がある。南北朝時代に、河野通盛によって河野郷土居の居館を利用して創建され、その後江戸時代中期に再建された風格のある寺である。境内の入口に築かれた石垣や、点在する小祠・石仏は古刹の雰囲気漂わせるものがある。ここには河野家ゆかりの古文書が多数保存されている。

子規の句に、「涼しきや馬も海向く粟井坂」があり、北条市と県都松山市とは、この粟井坂を境としている。粟井坂から眺め

る瀬戸内海の景観は素晴らしく、ここにはレストランやホテルが進出し、またマリンスポーツの基地としても脚光を浴びてきている。



河野家ゆかりの善応寺

今治支店 〒794 今治市常盤町4丁目2番地1

■沿革

- 昭和 2. 1. 29 伊豫相互貯蓄銀行今治支店として開設
 19. 12. 15 合併により伊豫合同銀行米屋町支店となる。
 20. 8. 5 戦災により焼失。(旧)今治支店内にて仮営業
 20. 8. 20 今治市寺町大仙寺に移転(仮営業所)
 21. 5. 10 今治市宝来町カトリック教会に移転(仮営業所)
 21. 10. 1 今治市大字今治村甲329番地の1・甲347番地に新築移転、同時に旭町・今治南両支店を併合し、常盤町支店と店名変更
 32. 7. 1 店舗新築のため今治市高堤甲318番地の1に移転(仮営業所)
 33. 6. 23 新築復帰と同時に今治支店と店名変更
 36. 9. 11 両替業務の取扱いを開始
 39. 8. 10 外国為替業務の取扱いを開始
 42. 4. 20 今治市今治村字矢熊甲329番地1と所在地名変更
 43. 5. 1 今治市常盤町4丁目2番地1と所在地名変更
 45. 12. 7 店舗増築
 50. 3. 24 せとうち高島屋出張所(店舗外CD)を今治市大正町1丁目1番地2株式会社せとうち高島屋に開設
 50. 11. 7 今治大丸出張所(店舗外CD)を今治市常盤町4丁目1番地の18株式会社今治大丸に開設
 51. 12. 1 せとうち高島屋出張所(店舗外CD)を今治高島屋出張所と店名変更
 59. 6. 17 今治高島屋出張所(店舗外CD)を廃止
 61. 1. 23 ライフショップ延喜店出張所(店舗外CD)を今治市延喜字畑井田甲244番地1株式会社今治デパートライフショップ延喜店に開設
 61. 7. 18 今治ショッピングパースプラザ出張所(店舗外CD)を今治市旭町1丁目4番地の11株式会社今治デパート今治ショッピングパースプラザに開設
 平成元. 3. 17 ヴィサーージュ出張所(店舗外CD)を今治市本町1丁目1番地18ヴィサーージュ内に開設
 2. 3. 29 済生会今治病院出張所(店舗外CD)を今治市喜田村179番地1済生会今治病院内に設置
 3. 3. 1 J R四国今治駅出張所(店舗外CD)を今治市北宝来町1丁目729-8 J R四国今治駅構内に開設

■歴代営業店長

河上 績(21. 10. 1) — 矢野玄之助(23. 1. 1) — 矢野 一八(25. 6. 1) — 大西金太郎(26. 11. 10) — 阿部伊之一(28. 7. 10) — 榎部 光芳(31. 8. 4) — 大西金太郎(33. 6. 2) — 山田 惣市(34. 3. 2) — 梅村源一郎(36. 4. 15) — 月原 勝明(37. 10. 29) — 小笠原京一(40. 10. 29) — 原 研三(41. 4. 18) — 川崎 修(47. 11. 6) — 忽那 一(49. 8. 1) — 柳原 芳史(51. 7. 1) — 夏井 武則(55. 1. 4) — 相原 昭司(57. 5. 1) — 宮内 省三(60. 2. 1) — 麻生 俊介(63. 2. 1) — 吉久 宏(平 3. 7. 1)

今治地方は、8世紀半ばに、国府・国分寺が富田・桜井地区に存在していたことや、この地越智郡が当時の南海道官道の終着点であったことから、かつては伊予国や瀬戸内海における要衝の地であったことがうかがえる。

慶長5年(1600)の関ヶ原の役の功績で、松山の加藤嘉明とともに伊予半国20万石の太守となった藤堂高虎は、国分山(唐子山)城を廃し、今張の浦を築城の地と定めて地

名を「今治」と改め、慶長9年(1604)、瀬戸内海を制覇する意図のもとに広大な海辺城「今治城」を築いた。寛永12年(1635)、松山藩主松平定行の弟松平定房が今治城3万石に封ぜられ、以降明治維新まで10代にわたり今治は松平家の治下にあった。明治22年には今治町、大正9年には県都松山に次ぐ県下2番目の市制地となり、今日に至っている。

今治市は、「タオルと造船の町」である。

明治19年、野間郡（現・大西町）出身の矢野七三郎が開発した「伊予綿ネル」や、明治27年、阿部平助の創業になる「タオル」、それに大正初期にかけてはじまるとされる「縫製」などの繊維産業の興隆は、今治を「綿業の町」として広く内外に知らしめることになった。その後綿ネルは、需要の減少によりやがて衰退していったが、タオルは多くの先駆者の努力により種々改良が加えられて品質も向上し、今では「今治タオル」は全国一の生産量を誇る産業となっている。

造船業の起源は、瀬戸内海を中心とする海運業の発達に求めることができる。波止浜塩田の塩、菊間瓦の粘土などの運搬が、船の建造・修理にまで産業を拡大させていった。

このように現在では、縫製品・タオルの「繊維産業」と「海運業」および「造船産業」が、今治市の三大産業と呼ばれるまでになっている。

また今治市は、瀬戸内海国立公園の一角で史跡・景勝地が多く、来島海峡・保養施設の集まる桜井海岸・芸予諸島・鈍川温泉

郷などの一大観光拠点である。

当店近くの「今治市河野美術館」は、当地出身の河野信一翁寄贈の建物で、同氏寄贈になる平安朝以降の貴重な書蹟・絵画など1万2,000点が所蔵されており、全国から美術の愛好家たちがはるばる訪れてくる。

今治地方の郷土芸能に「三継獅子」がある。なかでも「三継獅子」は、台・中台・獅子子の3人で高い人柱を築く高度な演技で、これは少しでも天に近づいて五穀豊穡を祈る気持ちと氏子の強い団結力を示すものとされている。



郷土芸能「三継獅子」

中浜支店 〒794 今治市中浜町1丁目2番地7

■沿革

- 明治29. 9. 20 今治市大字風早162番地第3に今治商業銀行本店として開設
 昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行(旧)今治支店となる。
 19. 6. 1 伊豫合同銀行今治中浜支店の廃止によりその業務を継承
 19. 6. 10 今治市大字中浜町21番地に移転(旧第五十二国立銀行今治支店所在地)
 21. 4. 1 伊豫合同銀行今治本町支店の廃止によりその業務を継承
 33. 6. 23 中浜支店と店名変更
 43. 5. 1 今治市中浜町1丁目2番地7と所在地名変更
 平成元. 12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

- 奥村長次郎(16. 9. 1) - 矢野 鹿雄(23. 10. 25) - 眞木 高重(26. 11. 1) - 小島 常一(29. 8. 1) -
 田中 多助(31. 2. 2) - 大西金太郎(31. 11. 27) - 澤田 有水(33. 6. 23) - 瀧野 健一(35. 10. 1) -
 別府 勝(37. 4. 16) - 渡辺 義行(39. 8. 5) - 曾根 滋(42. 2. 1) - 嶽本與喜男(44. 2. 1) -
 夏井 武則(46. 2. 15) - 松友 茂行(47. 11. 6) - 久米 良知(50. 2. 1) - 加藤 博美(53. 2. 1) -
 宮内 省三(54. 10. 1) - 笹本 悟(56. 2. 1) - 山口 城平(58. 2. 1) - 浅海 伍郎(60. 2. 1) -
 西林 保幸(61. 2. 1) - 後藤 公明(63. 8. 1) - 藤原 修(平 2. 8. 1)

当店は、瀬戸内海交通の要衝として重要な役割を果たしている今治港を望む所にあり、個人・商店街および全国的規模を誇るタオル関連産業・海運業などを主たる営業基盤としている。

出船・入船で終日にぎわう今治港は今治市の表玄関である。港の起源は、寛永17年(1640)今治藩主松平定房公が、今治城の北隅に船頭町をつくり護岸を築いたことにはじまるとされる。その後歴代藩主によって埋め立て・防波堤の築造が行われたが、明治初年まではせいぜい小船が出入りする程度に過ぎなかった。大正年間に港湾の大改修が行われてほぼ現状に近いものとなり、四国初の開港場として今日まで成長を続けてきた。毎年10月には港の発展を祈り、みなと祭が盛大に催される。

また当店エリア内には、県指定の史跡今治城跡がある。今治城は、慶長9年(1604)

藤堂高虎によって築城されたもので、堀に海水を導入する全国でも珍しい平城である。しかし明治初年に取り壊されて、内堀と石垣のみとなっていたが、昭和55年市制60周年記念事業で、五層の天守閣が復元された。築城当時を偲ばせるその偉容は今治市民の誇りとなっている。



四国初の開港場今治港

日吉支店 〒794 今治市常盤町5丁目5番33号

■沿革

- 昭和13.10.1 今治市大字日吉字川田甲112番地の1に今治商業銀行日吉出張所として開設
16.9.1 合併により伊豫合同銀行日吉出張所となる。
20.6.1 支店に昇格
25.12.4 今治市日吉字川田甲114番地の6に移転
45.11.2 店舗新築のため今治市日吉字三島地甲117番地の3に移転(仮営業所)
46.9.16 新築復帰
50.9.20 今治市常盤町5丁目5番33号と所在地名変更
61.6.25 サンマート出張所(店舗外CD)を今治市常盤町8丁目2番7号株式会社サンマートに開設
平成元.12.1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

田窪権一郎(20.6.1) — 大村 庄造(21.5.1) — 小島 常一(23.2.1) — 眞鍋脩一郎(25.1.10) —
藤岡 武文(25.10.25) — 矢野 盛雄(28.2.25) — 岡部富一郎(31.2.2) — 矢野 荒吉(32.12.5) —
原 研三(34.9.1) — 西原 稔(36.5.31) — 山田 進(38.2.11) — 水野 孫一(38.10.7) —
佐々木 操(40.2.15) — 村上 照正(42.8.1) — 井上 實(46.8.1) — 日根居源市(48.2.1) —
越智 悦夫(50.2.1) — 村上 學(51.7.1) — 野本 巧(52.8.1) — 大六 敏夫(56.2.1) —
玉井 淳(58.7.1) — 二宮 堅輔(60.8.1) — 渡辺 吉雄(63.8.1)

当店は、今治市街の中心から玉川町に向かって延びる国道317号線沿いにある。

当店のエリア内には、高縄山系を水源と

する蒼社川の分流、泉川が流れており、それにそって綿糸の晒・染色・製織などのタオル関連企業が集まっている。それという

のも、泉川の伏流水の水質が晒や染色に適しているからで、その仕上がりの鮮やかさは他の追随を許さず、これが今治綿業発展の基盤をなしている。

当店の北から西の方面にかけては、短大・公立高校・中学校が集まり、今治市の文教地区と呼ぶにふさわしい地域である。

またこの地域には名所・史跡も多い。

延喜には国指定の重要文化財「乗禅寺の石塔」、阿方には弥生前期のものとされる「阿方貝塚」、そこから遠くない所に、丘陵を利用した前方後円墳「鯨山古墳」がある。そのほか伊予綿ネルの発展に尽くした柳瀬義富や今治藩士の墓のある「観音寺」、緑と四季の花の彩りで市民の安らぎの場となっている「市民の森」がある。

このような環境にある当店の周辺も、今

治尾道ルートの開通を控え、今治バイパスの建設、今治駅裏の再開発、鉄道高架の実現で、やがて新しい都市に変ぼうしようとしている。



今治タオルを支える晒染色工場

波止浜支店 〒799-21 今治市波止浜1丁目1番4号

■沿革

- 明治29. 9. 28 越智郡波止浜村大字波止浜260番地に今治商業銀行波止浜支店として開設
 41. 1. 1 越智郡波止浜町大字波止浜260番地と所在地名変更
 昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行波止浜支店となる。
 24. 9. 15 越智郡波止浜町590番地に移転
 30. 2. 1 今治市大字波止浜590番地と所在地名変更
 41.10. 8 今治市波止浜590番地と所在地名変更
 48.12. 7 今治市波止浜字地堀274番地5に新築移転
 53. 2. 1 外国為替業務の取扱いを開始
 61. 9. 28 今治市波止浜1丁目1番4号と所在地名変更
 平成 2. 9. 5 波止浜スーパー大西店出張所(店舗外C D)を愛媛県越智郡大西町宮脇甲446番3株式会社波止浜スーパー大西店内に開設

■歴代営業店長

白石 熊一(16. 9. 1) - 日野 績一(17. 3. 17) - 阿部伊之一(21. 5. 1) - 芥川 直樹(23.10.25) -
 宮崎 森一(25. 2. 1) - 矢野 盛雄(26.11.10) - 湯山金治郎(29. 1.14) - 中野 吉信(38. 8. 8) -
 月原益一郎(32. 3. 1) - 村上宇佐一(33. 6. 2) - 別府 勝(34. 7.10) - 越智 武一(37. 4.16) -
 村上 正孝(38.10. 7) - 原 正昭(41. 4.18) - 大石 卓三(43. 5.20) - 藤村 正造(46. 2.15) -
 村上 學(50. 8. 1) - 加藤 治隆(51. 7. 1) - 小笠原 清(51.11. 1) - 森 正(55. 2.15) -
 藤田 宣昭(57. 2. 1) - 渡部 晃夫(59. 6. 1) - 篠原 正敏(61. 2.10) - 越智 和男(63. 8. 1) -
 能勢 昌司(平 3.2.1)

当店は、今治市の北の玄関口波止浜にあり、波止浜地区とそれに隣接する波方町を主な営業基盤としている。世帯数6,000世

帯、人口約2万人である。波止浜は、かつては塩の積出し港、急潮流で知られる来島海峡の潮待ち港であった。この関連もあつ

てか、現在大小12の造船所と100社を超える海運会社を擁し、造船・海運の一大メッカを形成している。

波止浜はまた塩の生産地でもあった。波止浜塩田の開祖は、波方村^{うらたて}の浦手役長谷部九兵衛である。九兵衛は、松山藩主松平定直^{さだなお}公の命をうけて単身で広島藩竹原に赴き、苦心のすえ製塩の秘法を探り、天和3年(1683)、当時松山藩の代官で野間郡奉行であった園田藤太夫の協力をえて県内最古の入浜式塩田^{いりばま}を宮潟入江^{みやがた}に築造した。爾來、昭和34年に廃止されるまで塩田の町として栄えてきた。現在では塩田跡は埋め立てられて宅地化しているが、一部に当時の塩田の面影が残されている。

入江の対岸に浮かぶ来島は、室町期以降、水軍の将帥来島氏の居城跡で、島全体が城

郭となり海賊島と呼ぶにふさわしい。来島と並ぶ小島は、明治38年の日露戦争^{にっご}時に芸予要塞小島砲台が築かれた所で、島内を散策すれば各所で赤煉瓦の兵舎・砲台跡に行き当たる。



造船のメッカ波止浜湾

桜井支店 〒799-15 今治市桜井2丁目5番41号

■沿革

- 明治42. 4. 1 越智郡桜井村大字古国分甲2に今治商業銀行桜井支店として開設
大正 6.11. 1 越智郡桜井町大字古国分甲2と所在地名変更
昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行桜井支店となる。
30. 2. 1 今治市大字古国分甲1番地の3と所在地名変更
41.10. 8 今治市古国分甲1番地の3と所在地名変更
51.11.30 今治市桜井字浜ノ上八幡ノ下甲383番地1に新築移転
63.10. 2 今治市桜井2丁目5番41号と所在地名変更
平成元.12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

- 飯尾 雅一(16. 9. 1) — 河上 績(23. 1. 1) — 青野 兼雄(24. 2. 1) — 栗山房太郎(25.11.25) —
村上宇佐一(26. 7.15) — 月原益一郎(28. 1.31) — 別府 勝(29. 8. 1) — 黒河 力男(32. 2. 1) —
玉井 章(33. 6. 2) — 新岡 武夫(35. 8. 1) — 玉井 章(38.10.29) — 小笠原清壽(41. 4.18) —
戀木 政光(42. 2. 1) — 村上 清壽(44.11. 1) — 廣川 啓二(46. 8. 1) — 大六 敏夫(49. 2. 1) —
石川 徹(52. 8. 1) — 浅海 伍郎(55. 1. 4) — 佐々木正男(57. 5. 1) — 池川 賢(58.11. 1) —
川田 雄弘(61. 8. 1) — 藤井 美幸(63. 8. 1) — 佐伯 光健(平 2.2.1)

当店は、今治市の南東、桜井地区にあり、地場産業のタオル・漆器のほか、土木建設・自動車ディーラー・運送会社をはじめとした個人市場を主な営業基盤としている。

当地の伝統産業といえど何といても桜井漆器である。桜井漆器発達の源流は椀船

である。椀船とは帆船交通を利用した漆器の行商であり、行商の隆盛につれて桜井に漆器づくりの機運がしだいに醸成されていった。文化・文政の時代に、行商資本家(椀船の親方)が西条藩から技術者を呼び寄せ、箱膳・重箱などをつくりはじめたの

が桜井漆器の起源とされている。その後天保時代に、月原紋左衛門の考案した櫛指法による堅牢で優雅な漆器が、高く評価されて全国的に知られるようになり今日に至った。長沢の桜井漆器会館は製造工程を見学する人たちでにぎわっている。

生漆などの原料もなく、漆器生産の立地条件に恵まれない桜井に漆器工業が発展したのは、桜井商人の努力に負うところが大きい。

当店の周辺には、菅原道真ゆかりの綱敷天満宮の神域で、国の名勝地でもある志島ヶ原があり、750本の白梅・紅梅の開花時に

は、茶会が催されまた梅の香に誘われて訪れる人も数多い。



菅原道真ゆかりの志島ヶ原

菊間支店 〒799-23 越智郡菊間町浜500番地

沿革

- 明治41. 3. 1 越智郡菊間町大字浜甲1889番地に今治商業銀行菊間支店として開設
- 昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行菊間支店となる。
- 30. 8. 1 店舗新築のため越智郡菊間町大字浜甲1664番地に移転（仮営業所）
- 30.12.19 越智郡菊間町大字浜甲1889番地に新築復帰
- 38. 9. 2 両替業務の取扱いを開始
- 42. 4.20 越智郡菊間町大字浜字菊間甲1889番地と所在地名変更
- 57. 3. 9 越智郡菊間町浜500番地と所在地名変更
- 61. 6.19 越智郡菊間町浜500番地に新築

歴代営業店長

横田 友常(16. 9. 1)	—	矢野 一八(21. 1.30)	—	阿部 武憲(23. 1. 1)	—	栗山房太郎(24. 8.10)	—
玉井吉五郎(25.11.15)	—	広瀬 要(26.11.30)	—	宮内 宏(29. 1.28)	—	月原益一郎(31. 2. 2)	—
藤野 正敏(32. 3. 1)	—	末長 俊平(34. 2.14)	—	藤岡 稔(36. 5.20)	—	濱野 治清(38. 5.20)	—
菊池 文雄(41. 4.18)	—	宮田 鷹雄(43. 5.20)	—	菅野 智見(47. 2. 1)	—	平家 重幸(49. 2. 1)	—
岡田 幸雄(51. 7. 1)	—	濱田 辰美(53. 8.14)	—	眞鍋 哲(56. 8. 1)	—	村上 孝志(59. 2. 1)	—
山内 武(61. 8. 1)	—	菅 嘉照(平 1.8.1)	—	藤本 石根(3. 8. 1)			

当店は、松山市と今治市の中間に位置する菊間町の中心部にある。

菊間町は、温暖な気候に恵まれ、冬でも粘土や水が凍らないことから、昔から瓦の生産地として発展し、今では全国五大生産地の一つとなっている。古くは、加藤嘉明の松山城に納入されたことが、慶長9年(1604)の古文書に記録されており、また、いぶし銀に輝く品質のよさで、御用瓦として皇居にも使用されている。

柑橘栽培と海産物、それに精油は、菊間瓦と並んで町の経済を支える柱である。葉山の精油所では、現在全国でも数少ない石油地下備蓄基地の建設が進められている。

観光面では、毎年10月10日の加茂神社祭礼の「お供馬の走りこみ」が有名で、当日の加茂神社は歓声と華やかな色どりに包まれる。

菊間川の上流にかかる歌仙の滝は、春は桜、秋は紅葉で美しく映える。春の彼岸の

縁日には「お滝まつり」が催され、訪れる人々でにぎわいをみせる。また厄除大師としての遍照院では、毎年2月の節分時に厄除けの法要が行われる。61歳の厄年の男が「福は内、鬼も内」の掛け声とともに餅や豆をまくのも、鬼瓦の生産地という土地柄によるものであろう。



加茂神社の祭礼「お供馬の走りこみ」

吉海支店 〒794-21 越智郡吉海町大字幸新田84番地

■沿革

- 大正 2. 8.25 越智郡津倉村大字幸新田35番地に伊豫周桑銀行津倉支店として開設
 4. 5.31 越智郡津倉村大字幸新田20番地第1に移転
 12.11. 5 合併により五十二銀行津倉支店となる。
 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行津倉支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行津倉支店となる。
 29. 3.31 越智郡吉海町大字幸新田20番地第1と所在地名変更
 52. 8. 4 越智郡吉海町大字幸新田84番地と所在地名変更
 57.12.27 越智郡吉海町大字幸新田84番地に新築と同時に吉海支店と店名変更

■歴代営業店長

- 黒田芳次郎(16. 9. 1) — 木村 通雄(17. 6. 3) — 友澤 清(21. 5. 1) — 村上宇佐一(24. 2. 1) —
 湯山金治郎(26. 7.15) — 山路千代重(29. 1.14) — 西原 稔(30.12.31) — 藤田 勲(32.12. 5) —
 村上 一郎(34.12. 1) — 矢内 禮二(37.12.25) — 山下 教通(40. 8.10) — 村上 學(41.12. 1) —
 越智 清(44.11. 1) — 安藤 嶋行(47. 8. 1) — 濱田 辰美(49. 8. 1) — 渡邊 功(53. 8.14) —
 浮田 巖(55. 8. 1) — 高橋 清馬(58. 2. 1) — 田窪 孝臣(60. 8. 1) — 佐藤 雄三(63. 8. 1) —
 猪木 克昭(平 3.8.1)

吉海町は、今治市の東北、大島の西半分を占める世帯数約2,000世帯、人口約6,000人のミカン・漁業・縫製と観光に生きる町である。

当町は、隣の宮窪町とともに春の「四国八十八カ所ミニ霊場巡り」で有名である。このミニ霊場巡りは、文化4年(1807)に創始されたもので約200年の伝統をもつ。全国でも珍しい「お接待」と「善根宿」の習俗は、外来者歓待の思想によるもので、大阪以西の各地から、信仰とふれあいを求めて多くの参拝者が訪れてくる。



200年の伝統がある四国八十八カ所ミニ霊場巡り

八幡山は国の名勝地で、そのふもとはは弥生時代の古墳のほか伊予水軍の史跡も多い。また亀老山からは瀬戸内海に散在する大小の島々や霊峰石鎚山を一望することができる。

軽妙なタッチと珠玉の色彩で異彩を放った洋画家野間仁根は当地の出身である。瀬

戸内海の風景や魚・貝などをモチーフとした彼の作品は、「郷土文化センター」に展示され、愛好者の来館を待っている。

「来島大橋」と「マリリゾート構想」が完成する今世紀末には、この地域が「日本の地中海」に生まれ変わるものと、熱い期待が寄せられている。

宮窪支店 〒794-22 越智郡宮窪町大字宮窪2881番地

■沿革

- 大正 5. 1. 4 越智郡宮窪村大字宮窪甲2283番地に伊豫周桑銀行宮窪出張所として開設
 12.11. 5 合併により五十二銀行宮窪出張所となる。
 15. 7. 1 支店に昇格
 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行宮窪支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行宮窪支店となる。
 16.10. 6 店舗改築
 45. 5. 1 越智郡宮窪町大字宮窪2881番地と所在地名変更
 62. 6.15 店舗新築により越智郡宮窪町大字宮窪2885番地1に移転（仮営業所）
 62.12. 7 新築復帰

■歴代営業店長

桑原 節三(16. 9. 1) — 木村 通雄(17. 6. 3) — 藤田 勲(19. 7.20) — 西原 稔(24. 2. 1) —
 別府 膳(27. 2.29) — 長野 一郎(29. 8. 1) — 藤岡 稔(34. 3. 3) — 大鳴 時雄(36. 5.20) —
 田窪 康彦(40.12.10) — 谷淵 満(44. 2. 1) — 永井 速雄(48. 2. 1) — 神野 勉(50. 2. 1) —
 井出 一彦(52. 8. 1) — 玉井 淳(54. 8.23) — 田中 運生(56. 8. 1) — 篠浦 喬(59. 2. 1) —
 加地 成美(61. 2.10) — 阿部 正(平 1.8.1) — 山本 満(3. 8. 1)

当店は、今治市の向かい、大島の北東半分を占める人口約4,500人の宮窪町を営業基盤としている。

当地の産業は、石材業・農業・漁業で、なかでも石材業は大島石として全国的に知られている。

大島石は、産出量の少ない香川県の庵治石を除けば、多くの御影石のなかで最も品質が高く、灰黒色・細粒質・ち密・堅硬で、「風化に強い」「堅くて光沢が落ちない」「変色しない」という優れた石材の3要素を満たした銘石である。採石の歴史は古く、藤堂高虎が今治城築造の際に用いたと伝えられるが、事業としての採石がはじまったのは明治初期である。記録に残っている納入先には、奈良帝室博物館・大阪心斎橋・東

宮御所・赤坂離宮・出雲大社などがみうけられる。



大島の採石場

町の北方海上にある国の史跡能島城跡は、村上雅房以降の村上水軍の根拠地で、今日まで城塞の遺構がよく残っており、戦国時代の城郭の形状をみることができる。

友浦薬師堂にある国の重要文化財宝篋印塔は、嘉暦元年（1326）の年紀銘をもつ鎌倉時代の石造美術品で、ほぼ完全な姿で残っている。

伯方支店 〒794-23 越智郡伯方町大字木浦字樋之口甲1681番地の第2

■沿革

- 昭和15. 9. 1 越智郡東伯方村大字木浦甲1530番地の第1に松山五十二銀行伯方出張所として開設
15.11. 1 越智郡伯方町大字木浦甲1530番地の第1と所在地名変更
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行伯方出張所となる。
19. 6. 1 支店に昇格
19.10. 1 越智郡伯方町大字木浦字浜床1505番地に移転
24.10.10 越智郡伯方町大字木浦字羽田甲1297番地の1に移転
31.12. 1 越智郡伯方町大字木浦字樋之口甲1681番地の第2に移転
51. 4. 5 店舗新築により越智郡伯方町大字木浦甲1234番地に移転（仮営業所）
51.12.13 新築復帰
平成 2. 2. 1 外国為替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

村上宇佐一(19. 6. 1) — 友澤 清(24. 2. 1) — 矢野 盛雄(25. 7. 1) — 岡部富一郎(26.11.10) —
岡崎 正恒(28.12.21) — 村上宇佐一(31. 2. 2) — 越智 武一(33. 6. 2) — 村上 照正(34. 4.16) —
黒河 力男(39. 2.10) — 玉井 章(41. 4.18) — 藤村 正造(43. 5.20) — 関谷 暉(46. 2.15) —
村上 學(47. 8. 1) — 柚山 拓郎(50. 8. 1) — 井上 武(52. 8. 1) — 渡部 晃夫(55. 2.15) —
渡邊 功(57. 8. 1) — 渡邊 清(59. 8. 1) — 田多 靖三(63. 2. 1) — 有田 新一(平 2.2.1)

当店は、瀬戸内海芸予諸島の中央に位置する伯方島にある。

一島一町の伯方町は、温かな気候と瀬戸内海の美しい自然に恵まれた人口約9,000人の島で、古くから海運の町として栄えてきた所である。

町の資料によれば、全盛期には鋼船300隻と関連会社125社、造船所7社があったといわれる。伯方海運の創始は、中世に瀬戸内海の来島・能島・因島に本拠を構え、来島海峡・宮窪瀬戸・三原瀬戸で活躍していた村上水軍にさかのぼる。近年に至り、塩田の築造資材や製塩燃料としての石炭の運搬、塩積みを経て、瀬戸内海沿岸の工業発展に対応した機帆船の興隆、昭和30年以降の鋼船の登場と、その発展の歴史は長い。

本来地元の主要産業であった製塩の斜陽化で、造船がこれにとって代わり、最近では塩田跡地でのクルマエビの養殖が盛んに

なっている。

町の周辺には、鶏小島・鼻栗瀬戸・宝股山・船折瀬戸・開山など瀬戸内海国立公園に指定された景勝地があり、展望台に立てば伯方八景が一望できる。そのほか水軍の船の模型がある喜多浦八幡神社、能島城主が開基した禅興寺など水軍にまつわる史跡がある。



塩田跡地のクルマエビ養殖場

宮浦支店 〒794-13 越智郡大三島町大字宮浦5402番地

■沿革

- 昭和15. 9. 5 越智郡宮浦村大字宮浦字榊山1番耕地3136番地に今治商業銀行宮浦支店として開設
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行宮浦支店となる。
 25.11.20 越智郡宮浦村大字宮浦字新地1番耕地3009番地の1に新築移転
 30. 3.31 越智郡大三島町大字宮浦字新地1番耕地3009番地の1と所在地名変更
 31. 6. 1 盛口支店の廃止によりその業務を継承
 48. 6.12 越智郡大三島町大字宮浦5540番地と所在地名変更
 54. 2.19 越智郡大三島町大字宮浦5402番地に新築移転

■歴代営業店長

兼務
 芥川 直樹(16. 9. 1) - 藤原 住市(16.11.17) - 阿部 武憲(21. 5. 1) - 廣川 信行(23. 1. 1) -
 気田 半三(27. 2.29) - 越智 武一(30. 6.13) - 黒河 力男(33. 6. 2) - 曾根 勲(36. 5.20) -
 松田萬亀男(38. 8.15) - 山下 教通(41.12. 1) - 村上 正孝(43. 5.20) - 木村 市孝(48. 2. 1) -
 吉本 昭三(50. 2. 1) - 浅野 正高(52. 8. 1) - 渡邊 清(55. 2.15) - 大西 博(57. 2. 1) -
 川田 雄弘(59. 2. 1) - 大野 威(61. 8. 1) - 藤原 敬博(平 1.2.1)

当店は大三島町にあり、営業エリアは大三島と上浦の2町全域で、世帯数約4,000世帯、人口約1万人、世帯数の約8割が柑橘農家である。

大三島は、水軍のロマンを秘めた島である。県の史跡、鼻栗瀬戸の北にある甘崎古城島は、中世の雄大な水軍城のあった所で



国宝級の甲冑を所蔵する大山祇神社

島全体が城跡となっている。

大三島は、また古くから「信仰の島」「国宝の島」として全国に知られた島である。

旧国幣大社として格式高い大山祇神社は、大山積大神（天照大神の兄神）を祭神とし、「海と武人の守護神」として歴代朝廷や武将たちから変わらぬ尊崇をうけ続けてきた。

奉納の動機はさまざまであるが、国宝館には全国の国宝、重要文化財クラスの武具・甲冑の約8割が所蔵されている。国宝では、斉明天皇の奉納と伝えられる禽獸葡萄鏡きんじゆうぶどう、源義経の奉納といわれる赤糸緘あかいと、大森彦七愛刀の大太刀など8点、国指定の重要文化財では美術工芸75点がある。そのほか「お田植祭」「秋の大祭のオタビ行列」の行事は、全国にも類をみないものである。

今治南支店 〒794 今治市郷本町2丁目2番14号

■沿革

- 昭和53. 8.28 今治市郷本町2丁目2番14号に開設
 平成元.12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

清洲 正三(53. 8.28) - 篠原 正敏(55. 2.15) - 門屋 恭三(57. 4. 1) - 佐伯 滋則(60. 2. 1) -

当店は、今治市中心部から南東2キロメートル、蒼社川を渡った住宅地域にあり、立花・清水両校区を営業基盤としている。

旧市街に対し、当地区は農家が散在する農業地帯であった。しかし、昭和42年頃からの都市ドーナツ化現象により人口が急増した。53年8月の当店開設後も、店周に郊外型大型店の進出が相つぎ、書店、家電店、ディスカウントストアなどが立ち並び、また中寺・八町を横断する国道バイパスも開通して、ますます発展が期待される地域となった。

当店から100メートル南の交差点の一角に附囑寺がある。寺の由来が地元語り継がれている。昔、立花村の庄屋の女中が庭仕事をしていると、1羽の鷹が舞い降りてきた。女中は鷹を捕えようとして、誤って殺してしまった。この鷹は来島山の城主が鷹狩りに使っていたものであった。城主



郷のお地藏さんとして親しまれている附囑寺は怒って女中の打首を命じた。が、女中は少しも恐れず懐から地藏を出して伏し拝むのであった。首斬り役人の手が震え、切れなかった。刑は許され、以後、城主は地藏を崇拝し、本堂を建立して来島山地蔵院附囑寺と名づけた。地藏は行基の作とされる。郷のお地藏さんとして親しまれ、縁日には大勢の参詣人でにぎわう。

菊間支店亀岡特別出張所 〒799-23 越智郡菊間町種74番地

■沿革

昭和55. 2. 1 越智郡菊間町種74番地に菊間支店亀岡出張所の業務を継承して開設
63.10.31 越智郡菊間町種74番地に新築

当出張所は、菊間瓦で全国的に知られている菊間町の東部、種川・佐方川流域の旧亀岡村地区にある。

亀岡の地名は、明治22年の町村制実施で種村と佐方村が合併して新村が誕生する際、両村の氏神が鎮座する丘陵名、「出亀(種)」「入亀(佐方)」から「亀山村」として申請したところ、先に大島で同名の届け出があったため、山を岡と変えて「亀岡村」と命名されたものである。その後昭和30年に旧菊間町と合併し現在の「菊間町」として発足した。

当亀岡地区の産業は、農業を主に精油および旧菊間町から伝わり明治初期から盛ん

になった製瓦である。

当地の太陽石油菊間精油所構内に、わが国で最初の「石油地下備蓄実証プラント」



地下備蓄施設のある太陽石油

が竣工した。地質的にこの地域一帯が硬い花崗岩でおおわれていることから実験地として選ばれたのであろう。

旧跡では、その昔弘法大師が四国八十八カ寺建立行脚の途次、通りかかったこの地

方の干ばつを憂い杖で示したところ、そこから水がわき出たという伝説の泉がある「龍の口青木地蔵」や、斎灘を一望千里に見渡せ、また春には桜の名所ともなる「高仙山城跡」がある。

波方支店 〒799-21 越智郡波方町大字波方甲2265番地

■沿革

昭和44. 7. 1 越智郡波方町大字波方甲2265番地に波止浜支店波方出張所として開設
57.10. 1 支店に昇格

■歴代営業店長

大澤徳一郎(57.10. 1) — 有田 常樹(60. 2. 1) — 南條 等(63. 8. 1) — 向井 暎二(平 3.8.1)

当店は、波方公民館の1階で営業している。波方町の約3分の1を占める世帯数約1,000世帯、人口約3,400人の波方・西浦両地区が営業基盤となっている。

当地は、古くから村上水軍の流れを受け継いだといわれる海運業が盛んであり、当店裏手の波方港は、内航海運では日本一といわれる波方町の花の根拠地である。

帆船、機帆船、鋼船へと船舶の近代化にいち早く対応して船腹を増やし、現在では内航船25万重量トン、近海・遠洋船200万重量トンとなっている。

眼前の来島海峡にはいつも釣舟が点在し、また商船の往き来も絶えることがない。

近くには、海運の神様、玉生八幡神社があり、地元の信仰が厚い。来島海峡を一望できる塔の峰からの眺めは素晴らしく、桜の季節には多くの人々が訪れる。また、愛媛県内陸の最北端である大角鼻は、建設中の

来島大橋を真横から眺望できる位置にあるため、将来の観光地として有望視されている。史跡も多く、水軍城跡や、秀吉が舟待ち時に使ったと伝えられる「太閤の井戸」等が保存されている。

なお、昭和38年からは、波方～竹原（広島県）間にフェリーが就航している。



愛媛県内陸の最北端大角鼻

中浜支店今治市場出張所 〒794 今治市天保山町3丁目1番地の2

■沿革

昭和48.10.15 今治市天保山町4丁目3番地の1に開設
50.10.16 今治市天保山町3丁目1番地の2に新築移転

当出張所は、今治市公設地方卸売市場入口の正面角地にあり、店名どおり市場関連

業者に重点をおいた営業を展開している。卸売市場は、敷地面積2万1,000平方メー

トルで、野菜・果実・花きを、今治市を中心とした周辺1市10町5村の21万人に提供している。春秋の遠足シーズンには、見学に訪れる小学生たちの甲高い声が市場内にこだまして、競りを一層活気あるものになっている。

当出張所から400メートル、市中心部に通じる一本道を西進した所に、内濠に囲まれてそびえ立つ今治城がある。関ヶ原合戦後20万石となって入府した藤堂高虎公が、慶長7年（1602）から2年の歳月をかけて海浜の地に海水を引き入れ、三重濠で築城した他に類例のない海岸平城である。この海水による防備は、オランダ人が築いた台湾のゼーランジア城の手法を模したものとされている。

明治8年頃、城郭は撤去されたが、本丸

・二の丸の城塁と内濠は今もなお当時の面影をとどめている。現在の天守閣は、昭和55年今治市制60周年記念事業として市民の協力を得て復元されたもので、そこから遠望する瀬戸内海・来島海峡はまさに絶景である。



昭和55年に復元された今治城

今治支店今治市役所出張所 〒794 今治市別宮町1丁目4番地1

■沿革

昭和50.12.3 今治市別宮町1丁目4番地1 今治市庁舎に開設

当出張所は、人口12万人の市政を司る今治市庁本館のロビーにあり、市金庫業務を主体に営業を行っている。

今治市庁舎は、現在世界を舞台にめざましい活躍をしている建築家丹下健三の設計によるもので、庁舎本館・公会堂が昭和33年に完工した。庁舎本館は、「折版構造法」を採用し、鉄筋コンクリートの外壁を屏風のように折り曲げてこれを柱がわりにした、全国でもユニークな建物である。その後40年に市民会館、47年には市制50周年記念庁舎別館が竣工した。

市の中心地のこの辺りは、同氏設計による独創的な建築物が集まっており、全国の建築研究家の視察が絶えることがない。

ちなみに、丹下健三は当地今治市の出身で、かつては東京大学教授として活躍し、これまでも数々の功績により文化勲章の

ほか、フランス文化勲章、ユーゴ星条勲章の受章など、各国の名誉ある勲功に輝く都市設計の世界的権威者である。

今治市は、今世紀末の来島大橋の開通を控えて「健康福祉」「教育文化」「産業・流通・観光の拠点づくり」をテーマに、近代都市の創造をめざして一路邁進している。



折版構造法建築の今治市庁舎

桜井支店唐子台出張所 〒799-15 今治市唐子台東2丁目6番地1

■沿革

昭和51.11.12 今治市唐子台東2丁目6番地1に今治支店唐子台出張所として開設
52.10.1 桜井支店唐子台出張所と店名変更

当出張所は、今治市の南東部、唐子浜に近い約1,000世帯の唐子台住宅団地の中心部にある。

四国最大のこの団地は、105メートルの唐子山の裾野に広がる27万平方メートルの丘陵地に誕生した。この裾野一帯には、弥生時代後期からみられる土壙墓や石棺墓などの墳墓群があった。団地開発前の発掘調査で発見された石蓋土壙墓・粘土槨や箱式石棺などは、当店近くの古墳公園に復元保存されている。

唐子山は、かつては伊予水軍の村上武吉の居城であったが、のち藤堂高虎が今治城を築城する際、資材や石垣の石を運び去ったといわれる。瀬戸内海を見下ろす唐子山麓の台地には、今治藩主松平定房・定陳・定基の3基の巨大な墓石がある。石畳の参道の両側には60基の灯籠が並び、荘厳の気を漂わせている。

団地近くの四国霊場59番札所国分寺は、

天平13年(741)に創建され、のち失火や兵火に遭い寛政元年(1789)に再建されたものである。その東にある天平時代の建立と伝えられる国分寺東塔の遺跡には、13個の巨大な礎石が残されている。さらにこの東には南朝の忠臣で新田義貞の弟、脇屋義助の墓所もある。このように当店の周辺は、今治郷土史が探究できる格好の史跡めぐりコースとなっている。



四国最大の唐子台住宅団地

近見支店 〒794 今治市鐘場町1丁目3番8号

■沿革

昭和61.6.16 今治市鐘場町1丁目3番8号に開設

■歴代営業店長

菅 嘉照(61.6.16) — 重松 彰(平 1.8.1) — 木村 隆志(3.8.1)

当店は、今治市の中心部から国道317号線を波止浜方面に約2キロメートル北上した所にある。営業エリアは、大新田・石井・鐘場・近見・湊・大浜の6町の南北に細長い地域である。

大新田は、戦国時代末期から江戸時代初期にかけて湿地帯を干拓した新田であった

が、現在では新興住宅地と化し新田の面影を見ることができない。石井は、石井浜の戦いで知られるように南北朝時代の古戦場であった。今では近見・大新田と同様、今治市のベッドタウンに発展、背後の谷あいではイチゴや野菜の促成栽培が盛んである。湊から大浜・近見にかけては県内最大

の前方後円墳である相ノ谷古墳がある。大浜は、来島海峡の岩礁に回遊するタイ・スズキなど高級魚の一本釣りの代表的な漁場として有名である。

瀬戸内海国立公園の一角にある近見山は、今治地方を代表する山で、展望台に立てば東は燧灘、北は来島海峡と芸予諸島、南は石鎚連峰を一望できる。また来島大橋の架橋地点糸山は、眼下に来島海峡が見下ろせる景勝地で句碑も多い。逆巻く渦潮、潮流に乗りまたは逆らいながら行き交う船、緑の島と紅白の灯台はまさに筆舌に尽くし難い眺めである。

戻り来て瀬戸の夏海絵の如し 虚子



架橋地点糸山から眺めた来島海峡

富田支店 〒799-15 今治市上徳乙368番地1

■沿革

昭和61. 6. 10 今治市上徳乙368番地1に開設

平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

藤原 光保(61. 6. 10) — 渡邊 治彦(平 1. 2. 1) — 山本 詔二(3. 2. 1)

当店は、今治平野の南部、頓田川下流の北岸にあり、旧富田村に当たる上徳・高市・町谷・松木および朝倉村などを営業基盤としている。世帯数は約4,000世帯で、小規模団地と農家の混在する個人市場である。

当地一帯は、伊予の国府の所在地を巡って郷土史家の興味をそそった所である。大化の改新(645)で都には中央政府、地方には国府をおき、国府の近くには国分寺が建てられた。伊予の国府が、国分寺の位置関係から桜井・富田辺りにあったと推定できるものの、その所在地については史家から多くの説が出された。そのなかで富田の町谷あるいは上徳とする説が有力となったこともある。現在に至っても遺物・遺構による国府跡の確認はできていないが、いずれにしてもこの富田周辺がかつては伊予の政治・経済・文化の中心地として華やいていたといえそうである。

頓田川上流の朝倉郷には、縄文や弥生時代の出土品が多く、また古墳時代後期の古墳群もあることで知られている。なかでも野々瀬古墳群は最大規模のもので、そのうち大型の横穴式石室のある「七間塚」は県の史跡である。

東京大学総長であった矢内原忠雄は、松木の生まれで富田小学校の卒業生である。



国分寺近くの東塔跡

日高支店 〒794 今治市小泉字横丁245番地4

■沿革

平成元. 3.17 今治市小泉字横丁245番地4に開設

■歴代営業店長

藤本 石根(平1.3.17) — 篠原 正容(3.8.1)

当店は、国道196号線の今治バイパスと玉川町に向かう国道317号線との交差点近くにあり、玉川町および今治新都市構想の最適地と目されている日高地区を営業基盤としている。

この地域には、古くからの由緒ある神社・寺院が数多い。かつて玉川町のなみぼろ檀原山頂にあった「奈良原神社」は、大宝元年(701)、徳藏上人が開基した社といわれ、昭和9年8月、境内で雨乞いの場所を清掃している際に発見された出土品は、「伊予国奈良原山経塚出土品」として国宝に指定されている。桂にある「宝蔵寺」の本尊「釈伽如来立像」は、鎌倉時代の仏師興慶の作で、逸品として知られている。蒼社川中流を挟んで、四国八十八カ寺のうち3カ寺もの霊場が集まっている。「56番泰山寺」「57番栄福寺」「58番仙遊寺」がそれである。これらの寺には、弘法大師じゆんしやく巡 錫をめぐっての伝説が今も生

き続けており、信仰にロマンの香りを添えている。

泰山寺近くの「大熊寺」は、樹齢200年と推定される「のだふじ」で有名である。

玉川町大野の「玉川近代美術館」(徳生記念館)では、黒田清輝やピカソなど、小品ながらも多彩な異色画家の作品が観賞できる。



異色の作品が揃う玉川近代美術館

鳥生支店 〒794 今治市南高下町3丁目1番9号

■沿革

昭和57.10.4 今治市南高下町3丁目1番9号に開設

平成元.12.1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

能勢 昌司(57.10.4) — 佐藤 学(60.2.1) — 八木 正徳(63.2.1) — 泉 昌作(平3.2.1)

当店の営業エリアは、西に今治市のほぼ中央を流れる蒼社川、東は桜井地区に接する頓田川を境界とする準工業・住宅地域である。この地域は近年国道196号線を中心に幹線道路の整備・拡張が進むにつれて事業所の進出が期待されている所である。

当地特有の農産物にレンコンがある。近時耕作面積は減少してきているが、質がよく美味であるところから市民の食卓をにぎわせている。

蒼社川のほとりにあり、地元の人から祇園さんと呼ばれて親しまれている「祇園神

社」は、京都祇園の須賀神社を勧請したもので、旧暦の6月14日には今治を代表する夏祭が催される。社伝によれば、この付近の木の枝に多くの白鳥が巣を営んだので、この社を鳥生の宮と呼び、これが「鳥生」という地名になったといわれている。

当店から桜井寄りに「衣干神社」がある。この神社のある衣干山は老松の生い茂る水田中の小丘で、その昔藤堂高虎が今治城築城に当たって唐子山城の石材・土砂運搬の中継所となり、その際不要の土砂が堆積してできたものと伝えられている。衣干の地名は、海から竜登川をさかのぼり作礼山に

登っていった竜女が衣を干した所とする伝説からきている。



鳥生地区の風物レンコン畑

新居浜支店 〒792 新居浜市繁本町5番20号

■沿革

- 昭和52. 3.22 新居浜市繁本町5番20号に(新)新居浜支店として開設
 52. 3.22 南海百貨店出張所(店舗外C D)を登道支店(旧新居浜支店)より移管
 52. 3.22 (旧)新居浜支店(登道支店)より外国為替業務を継承
 52. 3.25 新居浜大丸出張所(店舗外C D)を新居浜市西原町3丁目1番26号株式会社新居浜大丸に開設
 57.11. 1 フジ新居浜店出張所(店舗外C D)を新居浜市新須賀町2丁目10番7号株式会社フジ新居浜店に開設
 60. 3.11 愛媛労災病院出張所(店舗外C D)を新居浜市南小松原町13番27号愛媛労災病院に開設
 62.12. 4 住化生協東雲店出張所(店舗外C D)を新居浜市東雲町2丁目5番16号住友化学新居浜生活協同組合東雲店に開設
 63.12.13 住化生協金子店出張所(店舗外C D)を新居浜市一宮町2丁目6番57号住友化学新居浜生活協同組合金子店に開設
 平成 2. 9.11 新居浜テレコムプラザ共同出張所(店舗外C D)を新居浜市坂井町2丁目3番17号新居浜テレコムプラザ内に開設

■歴代営業店長

今井 時政(52. 3.22) — 相原 昭司(53. 2. 1) — 加藤 博美(54.10. 1) — 達川 光作(58. 7. 1) — 青野 和夫(62. 3. 1) — 河野 俊彦(平 2.2.1)

当店は、世帯数約4万7,000世帯、人口約13万人の新居浜市の中心部、市役所などの立ち並ぶ官公庁街の一角に位置している。

ここでは、南部観光レクリエーション開発事業と新居浜太鼓まつりを通して、新しい新居浜、古い新居浜、歴史と文化を紹介する。

新居浜市は別子銅山開坑以来、住友グループの企業城下町として発展してきたが、産業構造の転換が急務となり、人々の余暇

活動、アメニティ欲求が高まる一方、瀬戸大橋あるいは新交通体系の形成によって新しい四国の時代が到来する基本コンセプトのもと、別子銅山跡や山岳自然資源を利用した南部観光レクリエーション開発事業をスタートさせた。事業の推進母体は、第3セクター「マイントピア別子」で、この名はマイン(鉱山)とユートピア(理想郷)から採っている。

当面の開発拠点となる端出場は、国領川

上流、別子ラインのなかほどに位置する。ここに、旧発電所、火薬庫跡を利用したビジュアルレストランや歴史坑道のほか、鉾山鉄道の復元、ハーブ薬湯などの浴室群、四国手作り工芸館、芝生公園などの施設を造る計画である。

同地域へは、市の中心街から車で約15分、四国縦貫自動車道新居浜インターチェンジから約2キロメートルと近く、将来的には四国のみならず中国・関西をも市場とする産業文化観光都市を構築しようとするものである。

一方、新居浜と言えば「新居浜太鼓まつり」である。盆や正月には帰らなくても、まつりには帰郷するというニイハマツギが多い。

そもそも太鼓台の起源は、遠く平安時代にさかのぼるといわれ、豊穰の秋を感謝して氏神に奉納される神輿渡御に供奉する山車（やまぐるま）の一種である。

その伝統の太鼓まつりは、毎年10月16日～18日の3日間である。総台数32台による

かき競べ（かきあそび）が市内3地区で行われるが、なかでも、山根運動公園(上部地区)、一宮神社(川西地区)、八幡神社(川東地区)でのかき競べは、男まつりの異名にふさわしく勇壮華麗である。

重さ2トンの太鼓台を150人のかき夫が支え、「そうりゃ、そうりゃ」の掛け声とともに、男の心意気が一つになって金糸飾りの胴体が宙に舞う時、かき夫、そして見る者の胸は限りなく熱くなる。こうして3日の間、全市はまつり一色と化すのである。



勇壮華麗な新居浜太鼓まつり

角野支店 〒792 新居浜市喜光地町1丁目11番15号

■沿革

- 大正 7. 1. — 新居郡角野村大字角野1996番地に今治商業銀行角野出張所として開設
- 14. 1. — 支店に昇格
- 14.10. 1 新居郡角野町大字角野1996番地と所在地名変更
- 昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行角野支店となる。
- 22. 8.25 新居郡角野町大字角野1998番地第3・1999番地・2000番地に新築移転
- 34. 4. 1 新居浜市角野1998番地の3・1999番地・2000番地と所在地名変更
- 36. 1.23 店舗新築のため新居浜市泉川4735番地に移転（仮営業所）
- 36. 8.21 新築復楯
- 49.10. 1 新居浜市喜光地町2丁目6番1号と所在地名変更
- 61. 5.12 新居浜市喜光地町1丁目11番15号に新築移転
- 61.11.25 サンプラザ喜光地出張所(店舗外C/D)を新居浜市喜光地町2丁目6番3号サンプラザ喜光地に開設
- 平成元.12. 1 両営業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

- 宮崎 森一(16. 9. 1) — 白石 熊一(19. 6. 1) — 谷崎 和吉(22.10. 1) — 平田要太郎(25. 1.10) — 中廣市太郎(25. 8.15) — 吉本 幹一(27. 2.29) — 高井幸太郎(28. 1.31) — 山路千代重(30.12.31) — 渡辺 義行(32.12. 5) — 長井 勇(36.12. 9) — 嶋村 正信(38. 5.20) — 和田 一(40. 2. 5) — 村上 聡(40.12.10) — 安藤喜四郎(43. 5.20) — 平家 重幸(44. 8. 1) — 白方 利明(46. 8. 1) —

加藤 博美(48. 6. 1) — 井上 英雄(50. 8. 1) — 越智 清(52. 2. 1) — 津田 浩己(52. 9.10) —
山村 泰彦(56. 2. 1) — 佐伯 眞康(58. 7. 1) — 浅野 誠雄(60. 5.13) — 渡部 修二(63. 2. 1) —
門屋 恭三(平 2.8.1)

当店は、四国屈指の工業都市、新居浜市の上部地区の国道11号線に面している。南には当市の代表的観光地である別子ライン、また、繁栄の礎となった別子銅山跡がある。

当店の営業エリアは、上部地区の東部で、世帯数約1万1,000世帯、人口約3万3,500人と、市内の約25%を占めている。

当地一帯は、緑が豊かで自然環境にも恵まれ、シルバー層にも最適の住宅地として発展している。当店から車で5分の別子ラインは、生子橋から鹿森ダムを経て清滝に至る延長15キロメートルに及び、その間の巨石と清流は素晴らしい眺めである。

また、新居浜市の発展に貢献し、住友関連諸事業の興隆に大きな役割を果たした別子銅山は、昭和48年に閉山し、元禄4年(1691)の採掘開始以来282年にわたる歴史の幕を閉じた。しかし、市では現在、この

銅山跡を中心に観光地として売り出すべく第3セクター「マイントピア別子」を設立し、開発を進めるとともに往時の姿を後世に伝えようとしている。



巨石と清流で美しい別子ライン

新居浜東支店 〒792 新居浜市松神子2丁目9番15号

■沿革

- 大正15. 4. 2 新居郡神郷村大字松神子538番地第3に五十二銀行神郷出張所として開設
昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行神郷出張所となる。
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行神郷出張所となる。
21. 4.11 支店に昇格
28. 5. 3 新居浜市大字松神子538番地第3と所在地名変更
42. 4.20 新居浜市松神子字孫兵衛新田1025番地と所在地名変更
44. 6.16 新居浜市松神子字孫兵衛新田1025番地に新築移転と同時に新居浜東支店と店名変更
52. 8. 1 新居浜市松神子2丁目9番15号と所在地名変更

■歴代営業店長

神郷支店 岡部富一郎(21. 4.11) — 矢野 勲(25. 8.15) — 平田要太郎(27. 7.29) — 和田 一(31. 5.14) —
村上 聡(34. 7.10) — 武村 章(36.12. 9) — 月原 廣(38.10.29) — 新居浜東支店 袖山 拓郎(41. 8.15) —
加藤 治隆(48. 2. 1) — 藤原 博雅(49. 8. 1) — 赤松幹一郎(51. 7. 1) — 山口 城平(54. 2. 1) —
永易 謙一(56. 2. 1) — 加藤 安見(57. 8. 1) — 光宗 貞敏(59. 8. 1) — 真鍋 茂樹(62. 3. 1) —
山田 甯彦(平 2.2.1)

当店は、新居浜市の東部に位置している。新居浜市では、従来から市内を川西・川東

・上部の3地区に分けて、各種の行事や祭などが行われている。当店は開設以来、川

東地区をエリアとして活動してきた。現在は、高津支店の開設もあり、川東地区を二分し、世帯数6,200世帯、人口1万8,400人をテリトリーとしている。

当店の属する川東地区は、宝永元年(1704)以降に塩田や新田の開拓によって造成されたもので、特に多喜浜塩田は、幕末には240町歩に及ぶ大塩田であった。昭和初期には、多喜浜の農・漁業のほとんどの人が塩田の浜子として働いていた。この260年の歴史をもった塩田も、昭和34年ついに廃田となった。その跡地は、工業団地として埋め立てられ、また新居浜東港の整備も進んできたため、現在は当地工業地域の中心、流通の拠点となっている。

標高23メートルの久貢山の中腹には、塩田を完成させた天野喜四郎の墓があり、塩田事業の発展から衰退、そして現在の工業・流通の成長ぶりを見守っている。



塩田跡地の工業団地

三島支店 〒799-04 伊予三島市中央1丁目5番16号

■沿革

- 大正 5. 2.25 宇摩郡三島町字神ノ元1134番地に五十二銀行三島支店として開設
- 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行三島支店となる。
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行三島支店となる。
- 20. 3. 7 宇摩郡三島町大字三島字神ノ元1134番地と所在地名変更
- 20. 3.17 三島東支店の廃止によりその業務を継承
- 29.11. 1 伊予三島市三島町1134番地と所在地名変更
- 34.11. 4 伊予三島市三島町字陣屋1882番地の9に新築移転
- 40.11. 1 伊予三島市中央1丁目5番16号と所在地名変更
- 49.11.11 両替業務の取扱いを開始
- 59. 8. 1 大王製紙三島工場出張所(店舗外C D)を伊予三島市紙屋町5番1号大王製紙株式会社三島工場に開設
- 61. 3. 3 外国為替業務の取扱いを開始
- 平成 2.10. 5 フジ三島店出張所(店舗外C D)を伊予三島市中央1丁目1番85号株式会社フジ三島店内に開設
- 3. 4. 1 伊予三島市役所出張所(店舗外C D)を伊予三島市宮川4丁目6番55号伊予三島市役所内に開設

■歴代営業店長

- 宮崎 達雄(16. 9. 1) — 芥川 直樹(21. 4.11) — 眞鍋脩一郎(23. 2. 1) — 小島 常一(25. 1.10) —
- 矢野 一八(26.11.10) — 井原 泉(29. 1.14) — 井関 年光(31. 8. 4) — 矢野 荒吉(34. 9. 1) —
- 山路千代重(36.10.10) — 田中 良孝(40. 7.20) — 菊池 守(42. 4. 1) — 田坂 博能(44. 8. 1) —
- 曾根 通就(46. 2.15) — 澤口 一雄(49. 2. 1) — 藤田 虎夫(51. 7. 1) — 関谷 暉(53. 4. 1) —
- 加藤 治隆(56. 2. 1) — 玉井 清司(58. 2. 1) — 上坂 博章(60. 2. 1) — 田坂 護(63. 2. 1) —
- 後藤 公明(平 2.8.1)

当店の営業基盤である伊予三島市は、北四国のほぼ真ん中、宇摩平野の中央部にあり、北は波静かな燺灘に臨み、南は険しい法皇山脈を背にする全国屈指の「紙の町」

である。世帯数は約1万3,000世帯、人口は約4万人である。

当店の現在地は、元禄11年(1698)今治藩三島陣屋敷がおかれ、明治30年には三島

村役場が建てられた所で、当市の史跡に指定されている。

当市の紙・紙加工品は、全国第2位のシェアを占め、なかでも水引加工では川之江市と合わせて全国第1位の産地となっている。

四国山地と法皇山脈との間には、吉野川の支流銅山川の清流が横たわっている。

断崖・深淵の多いこの銅山川には、愛媛県が名勝として指定する金砂湖・富郷溪谷とみさと戻ヶ崖もどりがたきなどの景勝地がある。また法皇山脈頂上付近の翠波高原は、スカイラインの開通で、春は山桜、秋はコスモス、冬は雪景色と、四季を通じた観光地として近時一躍脚光を浴びている。法皇山脈から宇摩平野

に吹き下ろす「やまじ風」は山形県の「清川だし」、岡山県の「広戸風」と並ぶ「日本三大局地風」として有名である。



伊予三島市の製紙工場群

川之江支店 〒799-01 川之江市川之江町神ノ木1856番地7

■沿革

- 昭和16. 9. 1 宇摩郡金生村大字下分553番地に伊豫合同銀行下分出張所として開設
22. 3. 1 宇摩郡川之江町1894番地に移転し、川之江出張所と店名変更
22.10. 1 支店に昇格
29.11. 1 川之江市川之江町1894番地と所在地名変更
34. 8.24 店舗新築のため川之江市川之江町字本陣1890番地の5に移転（仮営業所）
35. 3. 7 新築復帰
51.11.15 川之江市川之江町神ノ木1856番地7に新築移転
56. 4. 1 両替業務の取扱いを開始
62. 3. 3 外国為替業務の取扱いを開始
平成元. 4.14 四国中央病院出張所(店舗外C D)を川之江市川之江町2233番地公立学校共済組合四国中央病院内に開設

■歴代営業店長

平田要太郎(22.10. 1) — 吉本 幹一(25. 1.10) — 中廣市太郎(27. 2.29) — 仙波澤之助(28. 7.10) —
薬師寺勝光(30. 6.23) — 別府 勝(32. 2. 1) — 安藤喜四郎(34. 7.10) — 上田 一雄(36. 8. 2) —
今井 時政(38. 1.21) — 田中 稔(40. 7.20) — 山本 昇(42. 8. 1) — 藤田 虎夫(45. 8. 1) —
安永 俊輔(49. 2. 1) — 菅野 智見(51. 4. 1) — 森 正(53. 2. 1) — 松下 和夫(55. 2.15) —
門田 捷(57. 5. 1) — 山口 城平(60. 2. 1) — 加地 弘(63. 8. 1) — 塩田 賢(平 1.8.1)

当店は、愛媛県の最東端に位置する「紙の町」川之江市を営業基盤としている。世帯数約1万2,000世帯、人口は約4万人である。

当市は、古来、隣接する3国（3県）を結ぶ讃岐道・阿波道・土佐道の要衝として栄え、現在においても四国縦貫・横断自動

車道の交差点に予定されている。

このような交通の要衝の町に、土佐や伊予大洲の紙すき技術が伝えられたのも自然の理であろう。四国山地を分水嶺とし、その支脈法皇山脈の狭間を流れる銅山川や川之江へ通ずる金生川の「水」と、四国山地・法皇山脈の山間に自生する「三椏みつまた・楮こうぞ」を

原料として、手すき製紙が農家の副業として盛んになった。

その後の製紙技術の革新、機械化によって、今日、当市および隣接の伊予三島市を合わせた紙・板紙の生産量は、実に全世界の1%強を占めるに至っている。

また、市内には、土佐を追放され当地で生涯を閉じた「よさこい節」で著名な五台山竹林寺の僧純信を供養する堂庵「純信堂」があり、川之江城も城山公園に復元されている。

特産品として、当地の地酒は、全国的に

も「うまい」と高位にランクされている。



川之江市の製紙工場群

西条支店 〒793 西条市大町字弁財天681番地の1

■沿革

- 明治45. 7. 20 新居郡西条町大字栄町265番地に五十二銀行西条支店として開設
 昭和12. 12. 10 合併により松山五十二銀行西条支店となる。
 16. 4. 29 西条市栄町265番地と所在地名変更
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行西条支店となる。
 19. 6. 1 西条栄町支店の廃止によりその業務を継承
 19. 6. 10 西条市栄町258番地に移転
 35. 1. 4 西条本通支店の廃止によりその業務を継承
 35. 10. 24 西条市大町字弁財天681番地の1に新築移転
 54. 7. 9 南海百貨店西条店出張所(店舗外C D)を西条市大町字新町1727番地1株式会社南海百貨店西条店に開設
 55. 9. 1 両替業務の取扱いを開始
 57. 12. 21 フジ西条店出張所(店舗外C D)を西条市大町字登り道1585番地の2株式会社フジ西条店に開設
 59. 3. 14 三菱電機西条出張所(店舗外C D)を西条市ひうち字西ひうち8番地6号三菱電機株式会社西条工場に開設
 59. 8. 27 クラレ西条出張所(店舗外C D)を西条市朔日市892番地株式会社クラレ西条工場に開設
 59. 10. 23 松下寿電子工業西条出張所(店舗外C D)を西条市福武字持田甲247番地松下寿電子工業株式会社西条事業部に開設
 61. 2. 1 西条中央病院出張所(店舗外C D)を西条市朔日市804番地1西条中央病院に開設
 63. 10. 4 済生会西条病院出張所(店舗外C D)を西条市朔日市269番地1済生会西条病院に開設
 平成 2. 4. 2 西条市役所出張所(店舗外C D)を西条市明屋敷164番地西条市役所内に開設

■歴代営業店長

金子 幸親(16. 9. 1) — 星加 甚藏(19. 6. 1) — 浅井 重光(21. 5. 1) — 松永 鐵一(23. 1. 1) —
 田中 多助(26. 11. 10) — 矢野 一八(28. 7. 10) — 木村 惣藏(31. 12. 8) — 宮脇 季雄(32. 7. 8) —
 瀬川 勇(34. 9. 29) — 櫛部 光芳(36. 9. 21) — 和氣 勇(38. 12. 20) — 菊山 久(39. 8. 5) —
 近藤 郁男(41. 2. 10) — 川崎 修(42. 8. 1) — 岩佐 順平(44. 2. 1) — 日淺 義輝(47. 8. 1) —
 武智 温(49. 12. 9) — 小笠原清壽(51. 7. 1) — 砂田 剛毅(54. 8. 1) — 藤原 博雅(57. 8. 1) —
 二宮 豊吉(60. 2. 1) — 曾我圭次郎(63. 2. 1) — 森信 勝俊(平 2. 8. 1)

当店のある西条市は、東予地方の中央部にあり、北は燧灘に面する西条平野から南

は石鎚山脈の山岳地帯にまで及ぶ。世帯数は約2万世帯、人口は約5万8,000人であ

る。

西条の歴史は古く、武丈公園近くの八堂山頂上の高地性遺跡住居跡からは、弥生時代の土器・石包丁・石鏃などが発見されている。

城下町としての西条は、寛永13年(1636)に入国した一柳直重3万石の西条陣屋からはじまる。のち寛文10年(1670)に、紀州藩徳川頼宣の次男、松平頼純よりずみが松平西条藩初代当主となってから明治維新まで10代200年間、天守閣のない城下町として栄えた。明治4年の廃藩置県で西条県となり、22年には西条町、昭和16年に周辺町村を合併して西条市に発展、この地方の政治・経済・文化の中心としての役割を果たしてきた。

西条市は霊峰石鎚山系を源流とする豊かな加茂川の水量と自噴水に恵まれ、古くか

ら「水の都」とも呼ばれてきた。春は桜の武丈公園、夏は清流の加茂川、秋は絢爛の西条祭、冬は白銀の石鎚と四季折々の表情をもつ西条市は、さらに大規模な臨海工業用地を軸に、水と緑の田園工業都市をめざして大きく前進しようとしている。



豊かな湧水を生かしたアクアトピア計画

大町支店 〒793 西条市大町字北ノ町1504番地の23

■沿革

- 大正11. 2. 13 新居郡西条町大字大町字本郷1448番地に今治商業銀行大町出張所として開設
昭和16. 4. 29 西条市大町字本郷1448番地と所在地名変更
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行大町出張所となる。
21. 4. 11 支店に昇格
22. 10. 1 出張所に変更
26. 1. 4 支店(預金専門店)に昇格
33. 1. 4 普通支店に昇格
35. 8. 8 西条市大町字北ノ町1504番地の23に新築移転
63. 4. 18 村上病院出張所(店舗外C D)を西条市大町739番地医療法人社団更生会村上病院に開設

■歴代営業店長

谷崎 和吉(21. 4. 11) — 佐藤 登(22. 10. 1) — 日野 憲昌(25. 1. 10) — 松永 鐵一(26. 1. 4) —
田中 多助(26. 11. 10) — 矢野 一八(28. 7. 10) — 木村 惣藏(31. 12. 8) — 宮脇 季雄(32. 7. 8) —
安藤喜四郎(32. 10. 1) — 長井 勇(34. 7. 10) — 村上 正孝(36. 8. 2) — 中村 章(38. 10. 7) —
松村 一男(42. 8. 1) — 武村 章(44. 8. 1) — 森松卯之助(47. 2. 1) — 永井 速雄(50. 2. 1) —
宮内須美男(51. 7. 1) — 中村 昇(52. 9. 10) — 眞鍋 哲(54. 2. 1) — 神野 式堂(56. 8. 1) —
藤原 容久(58. 5. 1) — 藤原 浩(61. 4. 1) — 節田 安生(平 1. 8. 1)

当店は、西条市の駅西商店街の中央にあり、営業エリアは、加茂川を挟んだ西条市の南部一円である。

四国山地石鎚山系を源とし、豊かな水を燧灘に注ぐ加茂川は、西条市が誇る「母な

る川」である。市民生活になじみの深い「打抜き」と呼ぶ自噴水は、この加茂川の伏流水である。また豊富な天然の湧水を生かして、市民の憩いの場とする「アクアトピア計画」は西条市の一大事業となっている。

武丈公園に近い「八堂山遺跡」は、山頂に弥生時代の遺構のある高地性遺跡である。なぜ、当時、耕地も飲料水もない山頂に住居を構えていたかを知るのには興味のあることで、一説には古代の祭祀に関連があるという。

加茂川の西、樹齢数百年の老松古杉の森に鎮座する「伊曾乃神社」は、旧国幣中社で祭神は天照大神と伊予御村別の始祖武国凝別命（景行天皇の皇子）である。毎年10月中旬に繰り広げられる絢爛の西条祭は、この神社の祭礼で、その起源は不明であるが、約200年前の宝暦年間の文献には「だんじり」の記録がみえる。社宝で国指

定の重要文化財「与州新居系図」は、御村別の子孫新居氏の300年間の横家系図として有名である。



神明造りの伊曾乃神社

三芳支店 〒799-14 東予市三芳1234番地の2

沿革

- 大正 9. 1. 1 周桑郡三芳村大字三芳1604番地に伊豫周桑銀行三芳出張所として開設
- 12.11. 5 合併により五十二銀行三芳出張所となり、同時に周桑郡三芳村大字三芳字上河原1238番地に移転
- 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行三芳出張所となる。
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行三芳出張所となる。
- 21. 4.11 支店に昇格
- 30. 1. 1 周桑郡三芳町大字三芳字上河原1238番地と所在地名変更
- 30. 2.23 周桑郡三芳町大字三芳1234番地の2に新築移転
- 46. 1. 1 周桑郡東予町大字三芳1234番地の2と所在地名変更
- 47.10. 1 東予市三芳1234番地の2と所在地名変更
- 55.11.17 店舗新築のため東予市三芳1076番地1に移転（仮営業所）
- 56. 7.13 新築復帰

歴代営業店長

- 藤岡 武文(21. 4.11) — 矢野 荒吉(22. 5.23) — 井村 亮爾(25. 8.15) — 三宅善五郎(28. 7.10) —
- 青野 兼雄(31. 8. 4) — 中村 章(34.12. 1) — 今井 時政(36. 1.12) — 武智 温(38. 1.21) —
- 坂本與三郎(40. 2.15) — 渡辺 良之(41.12. 1) — 月原 廣(43. 5.20) — 佐伯 眞康(47. 2. 1) —
- 安藤 嶋行(49. 8. 1) — 吉本 昭三(52. 8. 1) — 飯尾 義延(56. 8. 1) — 白石 安彦(58. 7. 1) —
- 福田 龍司(60. 8. 1) — 日野 清彦(63. 8. 1) — 阿部 正(平 3.8.1)

当店の営業エリアである三芳地区は、東予市の北西部にあり、世帯数2,900世帯、人口約9,000人の平坦地である。中央を走るJR予讃線の三芳駅を基点として、以東は農業地域であり、以西は商店街、住宅地、農家、非農家が混在している。駅前からはT字型の商店街が形成され、そのなかに当店

がある。

当店から北西方面に、俳人小林一茶が訪れたという実報寺がある。寛政7年(1795)33歳の時、伊予路の旅に出かけた一茶は松山よりの帰途にこの寺を訪ねた。その時境内の壹樹桜を見て、「思いきやこの桜木の常ならで折しも花に巡り来んとは」と詠み感

激している。境内には「遠山と見しはこれなり花一木」と詠まれた句碑がある。

この実報寺から北方向には、土用丑の日の「きうり封じ」で知られる世田薬師（梅檀寺）がある。300年の伝統をもつきうり封じは、農作物や人体に悪い影響を及ぼす虫を神仏の加護威光によって退治する行事で、県内はもとより広く県外からも大勢の参拝者が訪れる。現在では病気全快のほか、家内安全・商売繁盛・合格祈願など多岐にわたり、毎年テレビ・新聞などで紹介され有名となっている。



実報寺の壹樹桜

壬生川支店 〒799-13 東予市三津屋187番地の1

■沿革

- 明治25. 5. 1 周桑郡壬生川村大字壬生川字古子55番地に今治商業銀行壬生川支店として開設
34. 一. 一 周桑郡壬生川町大字壬生川字古子55番地と所在地名変更
昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行壬生川支店となる。
17. 3. 2 壬生川本町支店の廃止によりその業務を継承
20. 3. 17 壬生川西支店の廃止によりその業務を継承
40. 8. 16 周桑郡壬生川町大字三津屋字古河187番地の1に新築移転
46. 1. 1 周桑郡東予町大字三津屋187番地の1と所在地名変更
47. 10. 1 東予市三津屋187番地の1と所在地名変更
58. 4. 1 両替業務の取扱いを開始
60. 5. 30 フジ東予店出張所（店舗外C D）を東予市三津屋南2番25号株式会社フジ東予店に開設

■歴代営業店長

芥川 直樹(16. 9. 1) — 松永 鐵一(20. 7. 17) — 矢野 一八(23. 1. 1) — 仙波澤之助(24. 2. 1) —
三好 磯市(25. 10. 25) — 上野 秋一(26. 11. 10) — 瀬川 勇(29. 8. 25) — 高橋 柳市(31. 12. 8) —
湯山金治郎(33. 7. 21) — 三好 晋(35. 2. 15) — 近藤 郁男(37. 6. 15) — 柳原 芳史(41. 2. 10) —
中島 衛(42. 2. 1) — 玉井 章(43. 5. 20) — 夏井 武則(44. 8. 1) — 武智 甫(46. 2. 15) —
高岡 壽郎(48. 4. 2) — 大仲 隆(51. 7. 1) — 吉見 和男(53. 9. 8) — 荻家 秀範(56. 8. 1) —
青田 堅治(58. 7. 1) — 藤原 容久(61. 4. 1) — 福山 義光(平 1. 2. 1) — 河野 孝雄(3. 8. 1) —

当店は、東予市を南北に横断する国道196号線の中間地点にある。

東予市は、古くは桑村郡壬生川村で、松山藩の港市として栄えていた。明治22年、町村制施行後幾多の合併や変遷を経て、昭和47年、県内12番目の市制地となり現在に至っている。

燧灘一帯の海岸線には、県の天然記念物である「カブトガニ」が生息しているが、近時海の汚染により、2億年のロマンを語

る生きた化石も、めっきりその数を減らしている。

この地方特産の周桑手すき和紙は、天保年間にはじまり150年の歴史がある。現在、国安と石田の2地区で17業者が、伝統の「引流し漉き」の技法をとり入れて、最上級の奉書紙・檀紙・書道用紙をすいている。そのあざやかな手さばきは、歴史と伝統の重みを感じさせる。

市内には、足利尊氏禁制書などの古文書

のある観念寺、朝鮮鐘風の梵鐘のある長福寺などがある。いずれも13世紀の創建と伝えられる名刹で、古文書・梵鐘ともに県の文化財に指定されている。

東予市では、瀬戸大橋の開通とともに、長年の夢であった自動車専用道路計画が急ピッチで進められており、四国縦貫自動車道と結ぶルートとしてその完成が待たれている。



2億年の生きた化石カブトガニ

丹原支店 〒791-05 周桑郡丹原町大字丹原249番地

沿革

- 明治30. 7.19 周桑郡福岡村大字丹原249番地・250番地に伊豫周桑銀行本店として開設
 大正 2. 1. 周桑郡丹原町大字丹原249番地・250番地と所在地名変更
 12.11. 5 合併により五十二銀行丹原支店となる。
 昭和12.12.10 合併により松山五十二銀行丹原支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行丹原支店となる。
 平成元.12.18 周桑郡丹原町大字丹原249番地に新築

歴代営業店長

- 堀 正三(16. 9. 1) — 三好 磯市(24. 2. 1) — 木村 惣藏(25.10.25) — 阿部 武憲(28. 7.10) —
 三宅善五郎(31. 8. 4) — 西原 稔(34. 7.10) — 井上 芳武(36. 5.31) — 湯山金治郎(38. 2.11) —
 大鳴 時雄(40.12.10) — 越智 悦夫(43. 2. 1) — 村上 學(44.11. 1) — 越智 義和(46. 2.15) —
 重松 信夫(46. 3.10) — 青野喜三郎(48. 8. 1) — 尾中 一郎(51. 4. 1) — 大田 建(53. 2. 1) —
 宇佐美博人(55. 2.15) — 菅 勝久(58. 2. 1) — 大森 昭良(60.11. 1) — 大石 勝弘(63. 8. 1) —
 黒田 徹三(平 3.2.1)

当店は、東予地方最大の穀倉地帯、道前平野のほぼ中心にある丹原町を営業基盤としている。



紅葉の名所西山興隆寺

丹原町は、人口約1万5,000人で、古くは松山藩が、桜樹方面の物産集散地として町づくりをした所で、東予の市場町として発展してきた。産業面では農業が中心で、米と麦づくり・柑橘栽培・ハウス園芸・畜産が行われ、他に物産として茶・柿があり、なかでも丹原町章にもデザインされている「あたご柿」は、町の特産品としてその名が広く知られている。

西山の山麓に、桜・紅葉の名所となっている西山興隆寺がある。特に紅葉の季節には、「錦織りなす」の文字どおりきらびやかな景観を繰り広げる。また庫裏の前庭からの眺望は、俗に「扇面の景」と呼ばれ、霊

峰石鎚山を指呼の間に仰ぎ、周桑平野と燧灘も一望できる、まさに県指定の名勝地の名に恥じないものである。

宝篋印塔・銅鐘とともに国の重要文化財に指定されている興隆寺本堂は、室町時代

の建立とされている。宝篋印塔は源頼朝の供養塔と伝えられ、弘安九年銘の銅鐘は、「西山の御寺の秋の深うして弘安の鐘の音のさやけき」と、吉井勇の歌に詠まれている。

小松支店 〒799-11 周桑郡小松町大字新屋敷字中町裏甲448番地の1

■沿革

- 大正12. 2. 22 周桑郡小松町大字新屋敷甲364番地第1に五十二銀行小松出張所として開設
昭和10. 3. 1 支店に昇格
12. 12. 10 合併により松山五十二銀行小松支店となる。
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行小松支店となる。
24. 8. 11 氷見支店の廃止によりその業務を継承
38. 10. 1 石根支店の廃止によりその業務を継承
39. 8. 10 周桑郡小松町大字新屋敷字中町裏甲448番地の1に新築移転
57. 9. 13 ヤマサンセンター出張所(店舗外C/D)を周桑郡小松町大字南川甲52番地2株式会社ヤマサンセンター小松店に開設
平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

松永 鐵一(16. 9. 1) — 飯尾 巖(18. 7. 12) — 吉本 幹一(22. 10. 1) — 高井幸太郎(25. 1. 10) —
井村 莞爾(28. 1. 31) — 矢野 荒吉(29. 8. 1) — 西原 稔(32. 12. 5) — 和田 一(34. 7. 10) —
吉見 照男(37. 8. 6) — 橋口 正三(39. 8. 5) — 澤口 一雄(43. 2. 1) — 竹内 重年(45. 4. 6) —
富士森保忠(48. 8. 1) — 渡部 訓行(51. 2. 1) — 岩田 克之(54. 2. 1) — 玉井 淳(56. 8. 1) —
船田 薫(58. 7. 1) — 愛久澤克敏(61. 8. 1) — 高橋 貞喜(平 1. 2. 1)

当店は、小松町の中心にあり、小松町全域と西条市の一部が営業エリアである。世帯数は約3,500世帯、人口は約1万人で大部分が兼業農家中心の農村地帯である。

小松町は、伊予の豪族河野氏の子孫、西条藩一柳直盛から分家した直頼1万石の陣屋町として古くから栄えてきた。現在小松藩の面影をとどめるものはほとんどなく、わずかに当時私塾を開いて藩士の子弟や庶民の教育に当たり、ついに伊予聖人として慕われた近藤篤山の旧宅が残るのみである。

町から西にはずれた所に、愛媛県下の国指定史跡第1号である「法安寺跡」がある。聖徳太子が、道後温泉入浴に行啓された時に豪族越智益躬が創建したと伝えられる県下最古の寺院跡である。34個の礎石の配置からみて、四天王寺式伽藍配置と推定され

ている。

このほか横峰寺・宝寿寺・子安大師として親しまれている香園寺の四国霊場札所、石鎚山中腹の石鎚神社成就社など文化的財



法安寺跡のぼたん

産も多い。なかでも毎年7月初旬の石鎚神社夏期大祭中の成就社は、全国各地から参集する信者で大変なにぎわいをみせている。

小松町は、高速自動車道時代を迎え、交通の拠点としてさらに発展が期待されている。

登道支店 〒792 新居浜市泉池町9番26号

■沿革

- 大正 6.11.14 新居郡新居浜町大字西町甲1006番地に五十二銀行新居浜出張所として開設
 14. 7. 1 支店に昇格
 昭和12.11. 3 新居浜市西町甲1006番地と所在地名変更
 12.12.10 合併により松山五十二銀行新居浜支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行新居浜支店となる。
 19. 7. 1 (旧)新居浜東支店の廃止によりその業務を継承
 21.10.21 新居浜宮前支店の廃止によりその業務を継承
 32. 5.27 新居浜市字殿の前甲919番地の3に新築移転
 40. 5. 1 新居浜市泉池町9番26号と所在地名変更
 50. 5. 1 外国為替業務の取扱いを開始
 50.11. 4 南海百貨店出張所(店舗外CD)を新居浜市若水町2丁目6番5号株式会社南海百貨店新居浜店に開設
 52. 3.22 登道支店と店名変更
 52. 3.22 店名変更により南海百貨店出張所(店舗外CD)を(新)新居浜支店に移管
 56. 4. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

壺内 仲雄(16. 9. 1) - 金子 幸親(19. 6. 1) - 眞鍋脩一郎(21. 5.31) - 宮崎 森一(23. 2. 1) - 阿部伊之一(25. 2. 1) - 梅村源一郎(27. 8.16) - 岡本新一郎(30.11. 5) - 山口守之助(32. 9.30) - 月原 勝明(34. 9. 1) - 瀧野 健一(37. 4.16) - 曾根 滋(39. 8. 5) - 湯山 正男(41. 2.10) - 近藤 郁男(42. 8. 1) - 川崎 修(44. 2. 1) - 夏井 武則(47.11. 6) - 柳原 芳史(50. 8. 1) - 今井 時政(51. 7. 1) - 木村 市孝(52. 3.22) - 明比 久(54. 8. 1) - 戒田 政雄(56. 8. 1) - 徳永 恭亮(59. 6. 1) - 福本 慶三(61. 2.10) - 後藤勇多賀(平 1.2.1)

当店は、新居浜市の北部、登道商店街と昭和通り商店街の交差点にあり、両商店街と周辺の中小企業や個人が営業基盤である。

かつての登道は、約290年前の元禄15年(1702)、別子銅山の分店であり元締めだった口屋(浜宿。現在は公民館になっている)のある港から、銅山へ登っていく道として造られたものである。今の登道はその名残であるが、新居浜の産業道路の第1号ともいべき歴史をもっている。ともあれ、この登道こそ、新居浜が四国一の工都として発展した原動力となった大切な道なのである。



かつては銅山への登山道 今は市内の繁華街

当地には、大正末期までは、新居浜小学校と愛星醤油会社のほかには、ほとんど家らしいものはなかったが、昭和23年頃から

映画館、パチンコ店、スーパーマーケットが相ついで進出し、特に新居浜小学校の跡地処理として商店街が形成された。

現在は、登道商店街が120店、昭和通り商店街が200店と、市内1番の繁華街になっているが、近年、住友グループの経営合理化、

大型店の進出、駐車場問題等により、商店街の売上げが伸び悩みをみせている。そのなかで、昭和55年からはじまった商店街連盟主催の夏祭は、年々5万人以上の人出でにぎわっている。

土居支店 〒799-07 宇摩郡土居町大字小林字南本郷1197番地1

■沿革

昭和54. 3. 2 宇摩郡土居町大字小林字南本郷1197番地1に開設

■歴代営業店長

曾我圭次郎(54. 3. 2) — 日野 清光(55.12. 3) — 越智 和男(58. 2. 1) — 曾我 清(60. 2. 1) — 白石 友一(62. 3. 1) — 松本 勲(平 1.8.1) — 佐藤 雄三(3. 8. 1)

当店のある宇摩郡土居町は、北四国のほぼ中央に位置し、世帯数約5,300世帯、人口約1万7,000人の純朴で勤勉な気風をもつ人情豊かな町である。南に連なる法皇山脈と北の燧灘の間には、肥沃な宇摩平野が広がっている。土居町は、農業を中心に発展してきたが、近年は、隣接する製紙の町伊予三島市・川之江市、工業都市新居浜市のベッドタウンとしての様相を呈している。

土居町では、国道11号線とJR予讃線が並走し、11号線の南の山際には四国縦貫自動車道が走っている。

この町を、寛政7年(1795)に俳人小林一茶が訪れている。「梅が香をはるばる尋ね入野哉」。入野とは、土居町南東部の小字で、その地の庄屋山中家の住居である暁雨館を訪れて詠んだ句である。一茶は、暁雨館の

すぐ南側の「すすきが原」にも寄っている。

すすきが原は、土居神社外苑に当たり、今は桜の名所になっている。暁雨館は庭園だけを残し、跡地には役場と農村改善センターが建てられた。暁雨館庭園と役場との間に、一茶の句碑が建立されている。



桜の名所すすきが原

中萩支店 〒792 新居浜市中萩町1番41号

■沿革

昭和57. 8. 9 新居浜市中萩町1番41号に開設

■歴代営業店長

田坂 護(57. 8. 9) — 田辺 幹彦(60. 2. 1) — 河野 孝雄(63. 8. 1) — 藤尾 典之(平 3.8.1)

当店は、新居浜市中萩町の国道11号線に

面する所にあり、市の南西部、上部地区西

部を営業基盤としている。中萩町の地名は、この町が中村町と萩生の間にあることに由来している。

当店から西の方角、国道の南側に2.3キロメートルにわたって広がる萩生台地がある。この台地は、縄文・弥生・古墳時代を通じて栄えた地域で、大師泉 周辺では多くの石器・土器が出土しており、「大師泉縄文式遺跡」は市の指定文化財になっている。またこの泉は、弘法大師が杖で突いたら水がわき出たという伝説のある所で、ていれぎが自生している。県下でも、ていれぎの自生している所は極めて少なく、当地の自慢の一つである。

当店の周辺には、歴史の町らしく昔日をしるばせる社寺や、別子銅山の功労者広瀬

宰平の旧邸（現・広瀬公園）がある。大生院・大永山・御蔵町など周辺の地名も由緒あり気で、且の上は奈良時代伊予3軍団の一つが配置された所と推定されている。



広瀬宰平の旧邸広瀬公園

中之庄支店 〒799-04 伊予三島市中曾根町2655番地の2

沿革

昭和60. 3.14 伊予三島市中曾根町2655番地の2に開設

歴代営業店長

佐伯 光健(60. 3.14) - 越智 勲(63. 2. 1) 宇野 敏詳(平 2.8.1)

当店は、伊予三島市内の第2店舗として開店したもので、市の西部地域を営業エリアとしている。エリア内の世帯数は4,500世帯、人口は約1万6,000人で、市全体の約4割を占めている。事業所数は約450社と少ないが、給与所得者と兼業農家の混在する個



人造の金砂湖と平野橋

人市場である。

伊予三島市は、8世紀の奈良時代には、大領越智玉澄が大三島に鎮座する大山 祇神を奉還して創建したとされる三島神社を背景にして栄えた。江戸時代になると、ミツマタを原料に手すき和紙業が盛んとなり、それ以降「紙の町」として発展してきた。現在では、効率のよい機械すきが手すきにとって代わり、銅山川の用水や交通至便の瀬戸内海にも恵まれて、全国でも屈指の製紙工業地帯となっている。このほか、エリア内では豊かな水を利用した里芋の栽培や、海老ちくわ・干物・イリコなどの水産加工品の出荷が盛んである。

また、当店から南へ法皇トンネルを抜けると、柳瀬ダムによってできた人造湖の「金砂湖」に出る。ここに架かるアーチ型の平

野橋と吊り橋の翠波橋が、周囲の山ともども湖面に映え、県立自然公園の名に恥じな

い、美しい装いをみせてくれる。

飯岡支店 〒793 西条市飯岡1999番地の2

■沿革

平成元.11.21 西条市飯岡1999番地の2に開設

■歴代営業店長

相原 倫朗(平 1.11.21)

当店は、西条市東部の飯岡地区にあり、営業エリアは、飯岡地区、下島山地区および新居浜市大生院地区の一部から成っている。世帯数約3,000世帯、人口約1万1,000人の静かな田園地帯である。

飯岡は、西条市のなかで最も古い文化の発祥地の一つといわれている。半田山古墳群、岡古墳群、半田山古墳、飯積古墳など数多くあり、今も半田山のミカン園からは弥生式の土器の破片、また石鏃、石斧などの石器が出土する。

藩政時代は、小松藩一柳氏の所領であった。西側、東側を西条藩領に囲まれており、小松からは離れた飛び地であった。

当店に近い王至森寺に「キンモクセイ」の巨木が立っている。この木は根回りが4メートル、地面近くで3本に分かれているが、そのいずれもが1メートルを超えており、高さは16メートルに達する老木である。日本最大ともいわれ、国指定の天然記念物



王至森寺のキンモクセイ

になっている。年中うっそうとしているが、秋には橙黄色の花が咲き、その香りは遠くまで届く。

当地区は今、四国縦貫自動車道や国道11号線西条バイパスなど道路整備が完了し、商業地として発展が期待されている。また西条と新居浜のベッドタウンとしての性格も強めている。

船木支店 〒792 新居浜市船木甲2441番地の1

■沿革

平成 3. 5.27 新居浜市船木甲2441番地の1に開設

■歴代営業店長

船越 豪晴(平3.5.27)

当店は、別子銅山により栄えた新居浜市の東部、船木地区の国道11号線沿いにある。当行創立50周年に当たる記念すべき平成3

年の5月27日に、当行2番目のドライブスルー施設のあるモダンな店舗として産声をあげた。

当店の営業エリアは、その名が昔、船の木材切出し地であったことに由来する船木、そして東田、光明寺、七宝台の世帯数3,100世帯、人口9,750人の農家と一般住宅が混在する地域である。

当地は、平成3年3月、四国縦貫自動車道西条～土居間の開通によって新居浜インターチェンジがこの船木に設けられてから新居浜市の表玄関として脚光を浴びるようになった。高速自動車道を利用すれば、四国のいずれの県都へも約1時間余りで到達することから、将来、倉庫、市場など物資集配基地としての発展が期待されている。

また、当地には、池田池公園、長野山市民の森公園など、市民の憩いの場があり、休日ともなると多くの家族連れでにぎわっ

ている。「新居浜カントリー倶楽部」は、高速道路の真上にグリーンのあるゴルフ場で、このようなゴルフ場は、日本ではおそらく唯一のものではなかろうか。



四国縦貫自動車道新居浜インターチェンジ

喜多川支店 〒793 西条市樋之口54番地の1

■沿革

平成 3. 8.26 西条市樋之口54番地の1に開設

■歴代営業店長

秦 敏明(平3.8.26)

当店は、西条市の中心部から西へ約1.5キロメートルの所にある。営業エリアは、喜多川、樋之口、古川地区と加茂川より西南部の禎瑞、橘、神戸地区で、世帯数約3,300世帯、人口約1万人、事業所約180社をかかえており、今後、住宅地として発展が期待



支店玄関脇にある打抜き

されている。

西条市制施行50周年に当たる記念すべき平成3年に、当店は当行149番目の店舗として産声をあげた。

西条市の良質で豊富な地下水は、生活用水、農業用水、工業用水として市民に多くの恩恵をもたらしている。特に、加茂川を挟む中央平坦部で、パイプを地下に打ち込むだけでわき出る自噴水は、いわゆる「打抜き」として環境庁の名水百選にも選ばれている。

水の都のシンボルである「打抜き」を、当店では正面入口横に取り入れ、来店されるお客様の心をなごませている。

加茂川と中山川の河口に挟まれた禎瑞地区は、西条藩祖松平頼純が、本家の紀州徳川家から拝受した御私金によって造成した

干拓地として有名である。安永7年(1778)に起工され、約2万両の工費を投じて天明元年(1781)に完工した。ここを流れる乙女

川の川狩りは、毎年10月上旬の大潮の日に一般に公開され、禎瑞地区の秋祭としてにぎわいをみせている。

新居浜支店新居浜市役所出張所 〒792 新居浜市一宮町1丁目5番1号

■沿革

昭和155. 4. 7 新居浜市一宮町1丁目5番1号新居浜市庁舎に開設

当出張所は、新居浜市の指定金融機関として新居浜市役所の1階にあり、市役所内の職域を営業基盤としている。

新居浜市役所は、鉄筋コンクリート造り7階建て、住民サービスのために最新の機能設備を備えており、他市町村に優るとも劣らぬ建物である。この建物のなかで、元禄4年(1691)開坑の別子銅山を基盤とする典型的な企業城下町から脱却し、地場産業のハイテク化、観光拠点開発などをはかる地域再生計画が推進されている。

その基本計画は、例年10月の太鼓まつりのほかにこれといった観光資源をもたない新居浜市にとって、極めて重要な南部観光レクリエーション開発である。別子銅山跡を利用した長さ300メートルの見学坑道や、市民が復活を強く望んできた400メートルの鉱山鉄道、レストラン、多目的ホールな

どの施設の整備、将来的にはロープウェイの建設等々を含む事業である。

市役所から西に2分も歩くと、一宮神社がある。太鼓まつりでも、最大の行事である一宮神社の宮入りは、多くの祭り客を魅了し尽くすのである。



地域再生計画が進められている新居浜市役所

金生支店 〒799-01 川之江市金生町下分字板屋889番地2

■沿革

昭和156. 8. 12 川之江市金生町下分字板屋889番地2に川之江支店金生出張所として開設

60. 4. 1 支店に昇格

■歴代営業店長

渡辺 吉雄(60. 4. 1) — 佐々木 巖(63. 8. 1) — 村井 江吉(平 3.2.1)

当店は、川之江市金生地区の中心部、市役所・文化センターなどが集まる行政地区にある。営業エリアは、金生町、上分町、妻鳥町・金田町の一部で世帯数は約3,400世帯、住宅地と製紙・紙加工工場・商店など

が混在する地域である。

金生町一円は、古くから手すき和紙で栄えてきた町である。現在は後継者不足で機械すきに転向する所が多く、わずか15の手すき業者が残るのみである。しかし手すき

和紙はコスト高であるにもかかわらず、なお根強い需要があり、いずれの業者も多忙を極めている。

当店から南方面、金田町地区は、土佐街道と阿波街道の分岐する所であり、国道11号線・192号線のバイパスをも含め交通の要衝である。

営業エリア内には、6世紀後半のものと同定される向山古墳や朝日山古墳があり、いずれも県指定の史跡となっている。また平石山の中腹辺りには、老松古木に包まれた三角寺がある。四国霊場65番札所で、聖武天皇の勅願により天平年間に行基によって開創された寺といわれ、本尊木造十一面

観音立像は県指定の文化財で、古像らしくたくましい像容を備えている。



根強い需要がある手すき和紙

高津支店 〒792 新居浜市高津町1番18号

■沿革

昭和58. 7. 18 新居浜市高津町1番18号に新居浜支店高津出張所として開設
平成元. 4. 1 支店に昇格

■歴代営業店長

三浦 秀圓(平 1.4.1)

当店は、新居浜市の北東部、市街地と現在急速に発展している新工業団地とのほぼ中間にある。

営業エリア内の世帯数は約6,400世帯、人口は約1万8,000人、事業所数は250社で、総世帯数の約8割が給与所得者である。

新居浜市の年中行事といえば、江戸時代



京阪神への海のバイパス、バンパクフェリーの東港

に起源を發し、毎年10月に一宮神社の大祭で練り広げられる「太鼓まつり」がある。当店のすぐ西側を流れる国領川の河川敷には、川東地区の太鼓台が集合し、その勇壮な「かき競べ」は見事な祭絵巻というほかない。当日は町中が祭一色となり、市民は壮大華麗な太鼓の競いに酔いしれる。

この河川敷では、ほかに夏の宵の「花火大会」、秋の「いもたき」が催されるほか、各種スポーツ施設も完備されており、市民のふれあいの場ともなっている。

当店の東地区には、京阪神と直結している「バンパクフェリーの東港」があり、関西方面への海のバイパスの役目を果たしている。陸のバイパスでは、愛媛と香川をつなぐ往還道路として、土居インターチェンジ・三島・川之江から善通寺を経て瀬戸大橋へと続く「野田線」がある。

八幡浜支店 〒796 八幡浜市380番地第1

■沿革

- 明治29. 6. 24 西宇和郡八幡浜町大字380番地第1に八幡浜商業銀行本店として開設
昭和 9. 8. 20 合併により豫州銀行本店となる。
10. 2. 11 八幡浜市380番地第1と所在地名変更
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行八幡浜支店となる。
19. 5. 15 八幡浜新町支店の廃止によりその業務を継承
20. 3. 17 新町支店の廃止によりその業務を継承
44. 4. 1 白浜支店の廃止によりその業務を継承
50. 7. 21 両替業務の取扱いを開始
51. 10. 1 日土支店の廃止によりその業務を継承
54. 12. 3 フジ八幡浜店出張所(店舗外C D)を八幡浜市1252番地の9株式会社フジ八幡浜店に開設
60. 1. 28 八幡浜市役所出張所(店舗外C D)を八幡浜市北浜1丁目1番1号八幡浜市役所に開設
60. 5. 1 市立八幡浜総合病院出張所(店舗外C D)を八幡浜市大字大平1番耕地638番地市立八幡浜総合病院に開設
60. 10. 1 外国為替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

菊池 昌幸(16. 9. 1) — 矢野哲三郎(23. 3. 1) — 岡田 宗一(26. 11. 10) — 増井 傳藏(28. 7. 10) —
佐々木玉寄(30. 11. 5) — 梅村源一郎(32. 2. 1) — 佐伯 亀徳(34. 5. 1) — 永山 進一(36. 1. 12) —
近藤準一郎(37. 10. 29) — 井上 直(38. 10. 7) — 清家 豊茂(42. 8. 1) — 山田 進(43. 8. 27) —
宇都宮博介(45. 4. 6) — 三瀬 昇(46. 8. 1) — 光永 保(49. 6. 1) — 矢野 聖(52. 8. 1) —
西山 嶺(56. 2. 1) — 岡田 幸雄(58. 7. 1) — 門田 悟(60. 8. 1) — 松村 哲夫(63. 2. 1) —
西村 仁志(平 2. 2. 1)

八幡浜市は、世帯数約1万4,000世帯、人口約4万人、宇和海に面する四国の西端、三崎半島の基部に位置する。三方は山、西にリアス式海岸の入江があり、四国の西玄関口に当たる港湾都市として、重要な地位を占めている。

当店は内港の近くにあり、明治29年に八幡浜商業銀行本店として誕生、昭和9年には豫州銀行本店となった。かつては、西の豫州・東の五十二といわれ、県下銀行界の横網的存在であったため、地元では今も当店を「本店」と称し、2階の支店長室を「頭取室」と呼ぶ向きがある。この支店長室の横に、豫州銀行時代に造られた「お茶室」が当時を物語るかのように残っている。

当市の主な産業の一つは、温暖な気候風土に恵まれ、明治20年頃からはじまった柑橘栽培で、現在では「八幡浜みかん」(日の丸・真穴ミカン)として全国に誇る1級品となっている。

また、リアス式海岸を利用して明治38年頃には打瀬網漁が盛んであったが、大正11年には「二艘びき機船底引き網」「沖合底引き網」漁業、すなわち現在のトロール漁業となり、この漁法が水産八幡浜を築きあげてきた。トロールの漁期は9月1日から翌年の4月30日までである。出漁する8月31日には、夜明け前の岸壁で各船団の大漁を祈り、船主・乗組員家族・関係者とともに、



二宮忠八発明の玉虫型飛行器模型

当店の行員も挙げて盛大な見送りをする。

漁業とともに水産練製品も盛んで、明治21年頃から途絶えることなく「八幡浜の蒲鉾」として全国に知られている。

バイタリティとフロンティア精神に富む八幡浜人から、世界ではじめて動力による人工翼を飛ばした航空界のパイオニア二宮忠八が誕生した。彼の寄贈した飛行器模型が、市に保存されている。

国の重要文化財に、梅の堂にまつられている「阿弥陀如来三尊像」がある。桧材寄木造り、漆箔仕上げの藤原時代の仏像で、

「梅の堂三尊佛」として親しまれている。県の無形民俗文化財に、「五反田の柱祭^{はしほ}」がある。毎年8月14日の夜、20メートル余の先端にとりつけた籠^{かご}をめがけて、大勢の若者が火のついた麻木殻^{あさきがら}を投げあげる。夜空に美しく火が乱舞する火祭である。

市では、いま「ポートルネッサンス21」構想のもとに「フレッシュアップ八幡浜」をキャッチフレーズとして、地域の特性を生かした魅力ある街づくりに取り組んでいる。

矢野町支店

〒796 八幡浜市宇下浜田1355番地の1・1355番地の22

■沿革

- 大正 7. 5.23 西宇和郡八幡浜町31番地第1に大洲銀行八幡浜支店として開設
 14.11.15 西宇和郡八幡浜町1410番地の2に移転
 昭和 9. 8.20 合併により豫州銀行矢野町支店となる。
 10. 2.11 八幡浜市1410番地の2と所在地名変更
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行矢野町支店となる。
 31. 4. 2 神山支店の廃止によりその業務を継承
 38.11. 4 八幡浜市宇下浜田1355番地の1・1355番地の22に新築移転

■歴代営業店長

- 山本 一郎(16. 9. 1) — 二宮 彌市(20. 9.15) — 深部 幸安(21. 5. 1) — 金本 浩二(22.11. 4) —
 月海助三郎(24.11. 5) — 大西麟三郎(27. 6.15) — 西川 安久(28. 7.10) — 鎌田新一郎(29. 8.25) —
 菊山 久(31.12. 4) — 菊池遊亀丸(33. 6. 2) — 二宮 茂(36. 8. 2) — 渡辺 保(39. 8. 5) —
 平家 重幸(42. 2. 1) — 松村 一男(44. 8. 1) — 山下 敏雄(48. 8. 1) — 安部 勝廣(50. 8. 1) —
 坂見 計邑(54. 2. 1) — 三瀬 教芳(55. 8. 1) — 萩森 都雄(58. 7. 1) — 友澤 道滋(60. 5.13) —
 脇口 倉重(63. 2. 1) — 朝田 重孝(平 2.8.1)

当店は、大正7年、大洲銀行八幡浜支店として開設、同14年に矢野町商店街（現在の銀座街）に移転して商店街と盛衰をともにしてきたが、昭和38年、八幡浜市のメインストリートである昭和通りの中心部に再び移転、現在に至っている。

昭和通りは、三崎半島へ向かう国道197号線を、松山・大洲方面から八幡浜港へ真っ直ぐに導くアクセス道路である。そして、その結節点は宇和町へ抜ける県道の起点でもあり、主要路が交差する交通の要衝となっている。当店は、その近くにあって、市



古くから当行ファンの多い銀座商店街
 内金融機関密集地帯への入口を抑える地点

に位置している。

当店の営業基盤は、銀座商店街と店周住宅地域であり、個人取引先が圧倒的に多いが、商店街には古くからのファンである小売店取引先がある。近年は事業所取引の新規開拓にも力を注いでおり、店勢はしだいに向上している。

このような歴史と立地条件のもと、八幡浜市内第2店舗として、昭和63年に開設70周年を迎えた。営業基盤内からはもとより、遠く宇和町、伊方町からの来店もみられ、繁忙日には1日800人を超す店頭客を数えている。

大洲本町支店 〒795 大洲市大洲38番地

■沿革

明治22. 6. 26 喜多郡大洲町大字大洲38番地に大洲銀行本店として開設

昭和 9. 8. 20 合併により豫州銀行大洲支店となる。

16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行大洲支店となる。

20. 3. 17 大洲西支店の廃止によりその業務を継承

24. 8. 11 新谷支店の廃止によりその業務を継承

29. 9. 1 大洲市大洲38番地と所在地名変更

46.12. 1 大洲支店鹿ノ川出張所の廃止によりその業務を継承

54. 7. 11 大洲支店フジ大洲店出張所(店舗外C D)を大洲市中村字福岡口267番地の4株式会社フジ大洲店に開設

56. 5. 11 大洲本町支店と店名変更と同時にフジ大洲店出張所(店舗外C D)を(新)大洲支店に移管

59. 8. 27 店舗新築のため大洲市大洲字本町3丁目北62番地に移転(仮営業所)

60. 5. 13 新築復帰

■歴代営業店長

大洲支店
栗田 正俊(16. 9. 1) — 城戸 庄作(21. 5. 1) — 西尾 正義(21. 9. 14) — 城戸 友一(21. 10. 11) —
梅村源一郎(25. 7. 1) — 林 正男(27. 8. 16) — 佐伯 亀徳(29. 3. 25) — 澤田 有水(32. 2. 1) —
瀬川 勇(32. 12. 5) — 小泉 二郎(34. 9. 29) — 渡辺 義行(38. 5. 20) — 高橋 良男(39. 8. 5) —
日浅 義輝(41. 8. 15) — 濱野 治清(43. 5. 20) — 中島 衛(46. 8. 1) — 関谷 暉(49. 4. 1) —
達川 光作(51. 7. 1) — 宮内 省三(53. 2. 1) — 佐伯 眞康(54. 10. 1) — 尾中 一郎(57. 2. 1) —
二宮 隆雄(59. 8. 1) — 大方 治郎(61. 2. 10) — 岩城 紀正(63. 2. 1) — 本田 邦彦(平 2. 8. 1)

当店は、伊予の小京都と呼ばれる大洲市の肱南地区、「おはなはん通り」に代表される静かなたたずまいのなかにある。営業基盤は、この肱南地区を中心に、肱川町、河辺村をも含む広範な地域で、世帯数約6,000世帯、人口約1万8,000人である。

明治22年に大洲銀行本店として誕生した当店は、昭和60年に店舗を建てかえた。古い町並みに調和するよう日本の建築様式を用い、また、店舗正面にはふれあいプラザという広場を設け、開かれたコミュニティバンクとなって、平成元年に100周年を迎えた。



国の重要文化財大洲城址の櫓

と呼ばれている。

山水の自然美漂う古式庭園と名建築で大洲の桂離宮といわれる「臥龍山荘」、国指定の重要文化財である櫓とともに大洲藩の歴史を伝える「大洲城址」、秀麗な容姿を誇り、春には桜やツツジが咲き乱れる「富士山」、長良川・筑後川と並ぶ日本三大鶴飼いの一

つとして夏の夜を彩る「肱川の鶴飼い」など、大洲は四季を通じて自然と風流を求める観光客でにぎわっている。近年では、肱川流域の活性化と国際交流をはかる「フランス村」、農山村の情報化を進める「グリーンピア」など、新しい町づくりのための近代化施策が相ついで進められている。

長浜支店 〒799-34 喜多郡長浜町大字長浜甲266番地1

■沿革

- 明治32. 3. 16 喜多郡長浜町大字長浜甲237番地に伊豫長浜銀行本店として開設
37. 6. 13 喜多郡長浜町大字長浜甲315番地第1に移転
39. 8. 30 喜多郡長浜町大字長浜甲283番地に移転
昭和5. 3. 1 買収により大洲銀行長浜支店となる。
9. 8. 20 合併により豫州銀行長浜支店となる。
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行長浜支店となる。
53. 9. 27 喜多郡長浜町大字長浜甲266番地1に新築移転
平成元. 12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

高畑 薫幸(16. 9. 1) — 城戸 友一(19. 1. 17) — 西尾 正義(21. 10. 11) — 林 正男(23. 2. 1) —
久保 忠信(25. 8. 25) — 澤田 有水(27. 8. 16) — 笹山 要(29. 4. 3) — 和気 勇(32. 6. 5) —
松田栄一郎(34. 9. 29) — 西城 利治(37. 8. 6) — 安藤喜四郎(40. 12. 10) — 吉見 照男(43. 5. 20) —
中井 琴一(46. 8. 1) — 笹本 悟(49. 2. 1) — 池田 照明(51. 7. 1) — 青野喜三郎(53. 2. 1) —
宮内 一彦(55. 8. 1) — 徳島 公一(57. 8. 1) — 能勢 昌司(60. 2. 1) — 栗田 方平(63. 2. 1) —
福田 升(平 1. 8. 1)

当店は、水量の豊かな肱川の河口にあり、長浜町一円を営業基盤としている。

長浜町は、人口1万2,000人、春は住吉公園の桜、夏は長浜海水浴場、秋は白滝の紅葉、冬は自然の神秘肱川あらしなど、ダイナミックな四季の変化を堪能できる港町である。産業は、ミカンを中心とする農業、それに漁業・商業・海運業で、最近では臨海工業埋立地に工場が建設され、工業・運輸業も発展している。

また当町は、かつて大洲藩の船奉行がやかれていた所で歴史も古い。沖浦観音で知られる萬松山瑞龍寺には、鎌倉初期の作品十一面観音立像がある。この観音像は、全身豊満優美、量感溢れる逸品である。出石山頂上の金山出石寺には、藤堂高虎の朝鮮

出征の戦利品、朝鮮鐘がある。これらの立像・銅鐘ともに国の重要文化財である。

長浜大橋は、バスキュール式開閉橋で、現役では全国唯一という貴重な存在である。



全国唯一のバスキュール式開閉橋「長浜大橋」

大洲の自慢といえば、鶉飼い、いもたき、多彩な夏祭。歴史の古い町だけに、河原大師祭、地藏祭、水天宮祭などたくさん行事がある。

8月上旬の川まつりでは、2夜連続の花火大会があって、祭のムードは最高潮に達する。川まつりでは「いかだ流し」が行わ

れ、当店も毎年独創的ないかだづくりに精を出し、当日は肱川の清流を半日かけて下る。この肱川の代表的な景勝に「臥龍淵」がある。畔には大洲の桂離宮と呼ばれる臥龍山荘が建ち、建物の美、庭園の美を誇っている。

大洲支店 〒795 大洲市中村603番地 2

■沿革

- 明治29. 4. 30 喜多郡大洲町大字常盤町102番地に喜多銀行本店として開設
 36. 2. 28 喜多郡大洲町16番地第1・17番地第1に移転
 大正15.12. 1 合併により大洲銀行中村支店となる。
 昭和 9. 8. 20 合併により豫州銀行中村出張所となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行中村出張所となる。
 25.10. 1 支店に昇格
 29. 9. 1 大洲市常盤町16番地の1・17番地第1と所在地名変更
 38.10. 1 八多喜支店の廃止によりその業務を継承
 56. 5.11 大洲市中村603番地2に新築移転と同時に大洲支店と店名変更
 56. 5.11 フジ大洲店出張所(店舗外C D)を(旧)大洲支店から移管
 59. 9. 1 大洲市役所出張所(店舗外C D)を大洲市大洲690番地の1大洲市役所に開設
 61.12. 2 松下寿電子工業大洲出張所(店舗外C D)を大洲市東大洲1220番地の1松下寿電子工業株式会社大洲事業部に開設
 平成元.12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

加藤 晃二郎(16. 9. 1) — 二宮 績(17.11. 1) — 平井 愛国(20. 7.17) — 玉井 要(20.12. 1) —
 笹山 要(25. 2. 5) — 大政 之信(26. 3.25) — 菊池 数吉(28. 7.10) — 山本 一郎(31. 5.14) —
 中廣市太郎(33. 7.21) — 渡辺 保(35. 8. 1) — 柳原 芳史(37.10.29) — 井上 一心(39. 8. 5) —
 久米 良知(42. 8. 1) — 桐田 亘(44. 2. 1) — 池田 博志(45. 4. 6) — 菊池 文雄(48. 2. 1) —
 津田 浩己(50. 2. 1) — 寺尾喜興治(52. 9.10) — 松下 和夫(53. 6.15) — 菊池 文夫(55. 2.15) —
 大田 建(57. 2.22) — 西村 仁志(59. 6. 1) — 湯上 勉(62. 3. 1) — 徳田 栄作(平 2.2.1) —
 矢野 捷利(3. 8. 1)

大洲市は中心部を流れる肱川によって二分されており、当店はその肱川の北部いわゆる「肱北地区」を営業エリアとしている。エリア内の世帯数は約9,000世帯、人口は約2万7,000人である。

大洲市は、県下でも有数の農業振興地域で、水稲・野菜・畜産・果樹・養蚕など多彩な農業が営まれ、県内および京阪神方面への野菜・園芸の供給基地となっている。

また、盆地のたたずまいと明治の面影を今に残しているところから「伊予の小京都」



大洲の桂離宮といわれる臥龍山荘

年中行事には、「大えびね展」や「りり姫まつり」がある。「りり姫まつり」は、戦国時代に2歳の世継尊雄丸を抱いて白滝の滝

壺に投身した、都築城主の奥方りり姫を供養するもので、毎年11月23日に催される。

五十崎支店 〒795-03 喜多郡五十崎町大字古田甲1303番地10

■沿革

- 大正10.11.23 喜多郡五十崎町大字古田甲984番地第1に大洲商業銀行五十崎支店として開設
 11. 8. 1 合併により大洲銀行五十崎支店となる。
 昭和 3.12.18 喜多郡五十崎町大字古田甲1198番地に移転
 9. 8.20 合併により豫州銀行五十崎支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行五十崎支店となる。
 29. 5.17 店舗新築のため喜多郡五十崎町大字古田甲1031番地に移転（仮営業所）
 29.10.21 新築復帰
 59.11.12 喜多郡五十崎町大字古田甲1303番地10に新築移転

■歴代営業店長

久保 忠信(16. 9. 1) — 加藤巖二郎(25. 8.15) — 松浦 将(28. 2.25) — 兵頭 熊雄(29.12. 9) —
 中村小五郎(33. 2.15) — 井上 一心(37. 8.13) — 田中一二三(39. 8. 5) — 上甲 壽(41. 4.18) —
 中井 琴一(44. 2. 1) — 木村 市孝(46. 8. 1) — 坂見 計邑(48. 2. 1) — 三瀬 教芳(51. 2. 1) —
 青木 和通(53. 9. 8) — 尾崎 泰刻(56. 8. 1) — 戒田 政雄(59. 6. 1) — 有田 新一(62. 8. 1) —
 黒田 勝(平 2.2.1)

当店は、和紙と凧の町として知られる五十崎町の唯一の銀行で、町の真ん中を流れる小田川に面したところにある。

五十崎は、人口約6,000人の農業を主体とした町で、町のシンボル小田川の清流を守る運動などを通じ、活力ある町づくりが推進されている。

五十崎といえば、凧合戦が有名である。

当地は、古来、凧の材料である丈夫な和紙と竹の産地であることから凧合戦の起源は古い。鎌倉時代には、娯楽として時を定めず凧を揚げていたが、藩政の頃より毎年旧暦の5月5日に男子出生の初節句の祝儀として凧揚げがはじまるようになった。その後、武勇を尊ぶ気性の現れからこれが凧喧嘩となり、そのうち小田川を挟んで五十崎側と天神側の対抗で行われる合戦方式へと変わっていった。この行事は、明治・大正・昭和とうけ継がれ、今では県指定の無形民俗文化財となっている。

この五十崎凧合戦の特色は、誰でも凧合

戦に参加できる貸凧制度と、合戦場の豊秋河原が広いため勇壮な凧合戦が楽しめる点である。なお、日本最初の「凧博物館」は、世界中の凧にまつわる歴史・文化・風俗が手軽に学べる場所として人気を呼んでいる。



古い歴史をもつ五十崎凧合戦

内子支店 〒791-33 喜多郡内子町大字内子甲1097番地第1

■沿革

- 大正 5. 4. 30 喜多郡内子町大字内子1129番地に大洲銀行内子支店として開設
昭和 9. 8. 20 合併により豫州銀行内子支店となる。
12. 3. 1 内子銀行の買収により喜多郡内子町大字内子甲1097番地第1（内子銀行本店跡）に移転
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行内子支店となる。
61. 3. 3 フジ内子店出張所（店舗外C D）を喜多郡内子町甲119番1株式会社フジ内子店に開設
平成元. 3. 6 喜多郡内子町大字内子甲1097番地第1に新築
元. 12. 1 両營業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

- 城戸 友一(16. 9. 1) — 西井 健藏(19. 1. 7) — 高畑 薫幸(20. 6. 15) — 瀬川 勇(24. 6. 10) —
笹山 要(26. 3. 25) — 高田三千男(27. 8. 16) — 和気 勇(29. 6. 21) — 菊池 数吉(31. 5. 14) —
池田修三郎(32. 7. 15) — 大野 豪(35. 10. 1) — 久徳 金次(38. 2. 11) — 西城 利治(40. 12. 10) —
渡辺 保(42. 2. 1) — 田窪 康彦(44. 2. 1) — 平家 重幸(46. 8. 1) — 船本 清数(49. 2. 1) —
若松 義夫(52. 8. 1) — 二宮 堅輔(55. 2. 15) — 宇都宮勝彦(57. 8. 1) — 一色 英徳(60. 8. 1) —
畦 正孝(62. 3. 1) — 柴田 敏寛(平 2. 2. 1)

内子町は、かつてはハゼの実を原料とする木蠟もくろうと和紙の生産地として全国にその名が知られていた。特に木蠟は、幕末の頃芳我弥三右衛門がやそえもんが生蠟を白蠟にする晒蠟法を発明してから急速に販路が広がり、当時の大洲藩の重要な財源となったという。明治中期には30軒近い晒蠟製造家があつて全国生産の実に40%を占めていた。当地の本店銀行内子銀行は、この最盛期の明治29年に創業されたもので、初代頭取は本芳我3代目の芳我弥三衛であった。大正に入ると木蠟も西洋蠟に押されてしだいに衰退していった。

当時、木蠟で栄えた八日市、護国地区には、今も1世紀の風雪に耐えてきた大村邸や本芳我邸をはじめ、漆喰しつくいと海鼠壁なまこの豪壮な商家造りが軒を連ね、往時の繁栄ぶりがうかがえる。この町並みは、昭和57年に国指定の「重要伝統的建造物群保存地区」となつてからは、しばしば映画やテレビドラ



大正5年に建てられた内子座

マのロケ地ともなっている。当店の近くには、大正天皇御大典を記念して大正5年に建てられた「内子座」があり、回り舞台や桝席・大看板が当時の芝居小屋の雰囲気を偲ばせてくれる。

なお郊外には27ホールを誇る四国一のゴルフ場や、家族連れ向けの観光農園もあり、シーズンには来訪者でにぎわっている。

川之石支店 〒796-02 西宇和郡保内町川之石3番耕地25番地

■沿革

- 明治11. 1. 29 西宇和郡川之石浦5番地に第二十九国立銀行本店として開設

- 明治22. 7. — 西宇和郡川之石村11番地耕地2番地と所在地名変更
 30. 3. 1 国立銀行営業満期により第二十九銀行本店となる。
 36. 一. 一 西宇和郡川之石村3番耕地25番地に移転
 大正 3. 一. 一 西宇和郡川之石町3番耕地25番地と所在地名変更
 昭和 9. 8.20 合併により豫州銀行川之石支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行川之石支店となる。
 24. 8.11 喜須来支店の廃止によりその業務を継承
 30. 3.31 西宇和郡保内町川之石3番耕地25番地と所在地名変更
 54. 1.22 西宇和郡保内町川之石3番耕地25番地に新築

■歴代営業店長

- 佐々木玉寄(16. 9. 1) — 月海助三郎(23. 2. 1) — 菊池 孝一(24.11. 5) — 河野 晴雄(27. 8.16) —
 二宮 續(28.12.21) — 中廣市太郎(31.12.16) — 小西 覺(33. 7.21) — 兵頭 善高(36. 1. 4) —
 萩森彌佐雄(37.10. 9) — 菊池 文雄(39. 2.10) — 田中一二三(41. 4.18) — 坂本與三郎(43. 2. 1) —
 谷淵 満(48. 2. 1) — 久保田保文(49. 8. 1) — 二宮 堅輔(53. 2. 1) — 徳島 公一(55. 2.15) —
 野島 武雄(57. 8. 1) — 三桝 昌道(59. 6. 1) — 入船 好博(62. 3. 1) — 佐藤 定夫(平 1.8.1) —
 加藤恭之助(3. 2. 1)

当店の営業基盤である保内町は、愛媛県の南西部、佐田岬半島の付け根にあり、宇和海に面してはリアス式海岸による天然の良港をもち、また山間・丘陵地は県内屈指の柑橘生産地となっている。

保内町は、江戸時代には宇和島藩に属し、ハゼの栽培・海運業が盛んであった。明治時代に入り鉱業・紡績が発達し、明治11年には県内最初の、国立銀行条例による第二十九国立銀行が創立されたことからみても、南予経済の源流地であったといえる。

当行の支店のなかでも最古の歴史を誇る当店であるが、時代の流れには逆らうべくもなく、昭和53年に本店銀行の建物は改築されて、由緒ある往時の姿今はなく、付属の弓道場は駐車場に、倉庫跡地は商工会館にと、大きく変ぼうした。営業室から望まれる和風庭園と、今も残る土蔵に当時の面影をかいまみるのみである。



愛媛県下最初の国立銀行創業地

当地は、平家落人の伝説が残る平家谷、奈良時代の建立で県指定の文化財「神像五軀」を祀る三島神社、水かけ石の伝説のある龍潭寺、シーボルトに師事し「聖医」として慕われた二宮敬作の出生地跡、それに県立自然公園住吉鼻など、豊かな郷土史と自然を探るに事欠かない町である。

伊方支店 〒796-03 西宇和郡伊方町湊浦1098番地第1

■沿革

- 明治30.12. 9 西宇和郡伊方村内湊浦1098番地第1に西南銀行本店として開設
 昭和 5. 1.25 合併により第二十九銀行伊方支店となる。
 9. 8.20 合併により豫州銀行伊方支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行伊方支店となる。
 24. 8.11 町見支店の廃止によりその業務を継承

- 30. 3.31 西宇和郡伊方町湊浦1098番地第1と所在地名変更
- 43. 1.16 店舗新築のため西宇和郡伊方町湊浦字花越1984番地に移転（仮営業所）
- 43. 9. 9 新築復帰
- 60.10. 8 四電伊方出張所(店舗外C D)を西宇和郡伊方町九町字コチワキ3番耕地40の3 四国電力株式会社伊方発電所に開設

平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

谷山 龍馬(16. 9. 1) — 山本 一郎(17.11. 1) — 鎌田新一郎(25.10. 1) — 矢野 慶治(28. 2.25) —
 上田清太郎(30. 5.27) — 三瀬嘉久實(32.12. 5) — 宮本 宗一(34.12. 1) — 三瀬 昇(36. 1.12) —
 平家 重幸(38.10. 7) — 松村 一男(40.12.10) — 日高 利春(42. 8. 1) — 堀川 等(47. 8. 1) —
 菊池 文夫(52. 2. 1) — 浅野 誠雄(55. 2.15) — 福山 義光(58. 7. 1) — 紀藤 俊吉(61. 2.10) —
 武智 公正(平 1.2.1) — 石川 隆夫(3. 8. 1)

当店は、豊予海峡に突出した佐田岬半島基部の伊方町にあり、同町と半島中部の瀬戸町とを営業基盤としている。両町合わせて世帯数は約4,000世帯、人口は1万2,000人である。

当地方は、かつて周辺に大峰・^{なるやす}成安などの含銅硫化鉄鉱床が分布していたことから、明治期には鉱山の開発や製錬所の設置が盛んとなり、明治後期から大正初期にかけては全国でもまれな銅鉱山の集中地域となっていた。

『日本鉱産誌』には、この狭い半島部に43カ所の鉱山が記載されている。その大部分は明治20年以後に発見されたものである。これらの鉱山は、大正年間を最盛期として鉱脈の枯渇と煙害により、相ついでで休山となった。

昭和に入り産業の変遷も著しく、戦後は柑橘類の生産が伸び、「ミカン王国」を築くに至った。現在ではハウスミカンが盛んで、

真夏でも山頂まで白く点在するビニールハウスは、一見雪景色を思わせる。また当地は「杜氏の里」としても知られ、伊方杜氏は日本最古の伝統をもつといわれる。

九町越の海岸には、昭和52年に四国ではじめて「原子の火」がともった四電原子力発電所がある。現在3号機が建設中で、これが完成すれば四国の50%をまかなう電力供給基地となる。



四国で唯一の四電原子力発電所

三崎支店 〒796-08 西宇和郡三崎町三崎1169番地

■沿革

- 明治41. 1.31 三机銀行三崎支店として開設
- 昭和 5. 5. 1 合併により八幡浜商業銀行三崎支店となる。
 - 7. 1. 4 藝備銀行三崎出張所を合併し、同所（西宇和郡三崎村大字三崎1766番地第3）に移転
 - 9. 8.20 合併により豫州銀行三崎支店となる。
 - 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行三崎支店となる。
- 30. 3.31 西宇和郡三崎町大字三崎1766番地第3と所在地名変更
- 35. 1.21 店舗新築のため西宇和郡三崎町大字三崎1982番地に移転（仮営業所）
- 35. 8. 1 新築復帰

昭和59. 5. 1 西宇和郡三崎町三崎1169番地と所在地名変更

■歴代営業店長

山本 一郎(16. 9. 1) — 加藤晃二郎(17.11. 1) — 上田清太郎(22.10. 1) — 三瀬嘉久實(25. 8.15) —
 山口 正(29. 8. 1) — 中村小五郎(30. 6.23) — 久徳 金次(32. 7.15) — 嶽本與喜男(33. 7.21) —
 宇都宮博介(35.10. 1) — 大石 音吉(37. 2.15) — 清家彦三郎(38. 2.11) — 岡 治郎(40.12.10) —
 内田 清(43. 2. 1) — 信川鯉久治(47. 7.10) — 木下 一昭(50. 2. 1) — 青木 和道(51. 7. 1) —
 萩森 都雄(53. 9. 8) — 松井 一正(56. 2. 1) — 岡田 夏夫(59. 2. 1) — 多賀 正(61. 2.10) —
 鈴木 義治(63. 8. 1) — 山崎 茂治(平 3.2.1)

当店は、四国最西端の町、三崎町の中心部にある。三崎町は、八幡浜市から細長く海に突き出た岬13里の先端の町で、約1,900世帯、人口約5,300人、農業と漁業が主要産業である。

昔から岬の道路事情は悪く、「イクナ酷道197号線」と恐れられ陸の孤島として知られていた。しかし、昭和63年に、頂上線メロディーラインの開通によって、佐田岬観光が楽になり、四国の西玄関としての港の重要性も増し、大きく変ぼうを遂げつつある。

観光の目玉は佐田岬先端の白亜の灯台。眼下に速急の瀬戸が渦巻き、九州・山口を望める瀬戸内海の西の要所である。

海辺の町として浜木綿の花が咲く。そして、暖流に乗って南の島から漂着した「あこ樹」が、直径6メートル、樹冠30メートル、樹齢300年の姿を誇る。根から空気を取り入れる空気根の亜熱帯植物で、この種の北限として学術的にも知られている。

7月の豊漁祭は海の祭で、壮大な漁船パ

レードが海の男の心意気を誇示する。海の幸を求める釣人も季節を問わず遠近から来る。

甘夏柑の新品種、清見タンゴールは、そのまま生ジュースの味と香りで他に類をみないミカンの王者で全国制覇を狙っている。



豊後水道の要所に立つ三崎灯台

三瓶支店 〒796-09 西宇和郡三瓶町大字朝立1番耕地548番地第6

■沿革

- 明治26. 3. 1 西宇和郡三瓶村大字朝立1番耕地21番地の第2に朝屋銀行本店として開設
- 大正10. 9. 3 西宇和郡三瓶町大字朝立1番耕地21番地の第2と所在地名変更
- 13. 8.19 買収により五十二銀行三瓶出張所となる。
- 15. 7. 1 支店に昇格
- 昭和12. 5. — 西宇和郡三瓶町大字朝立1番耕地548番地第6に新築移転
- 12.12.10 合併により松山五十二銀行三瓶支店となる。
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行三瓶支店となる。
- 17. 3. 2 津布里支店の廃止によりその業務を継承
- 55. 1.14 店舗新築のため西宇和郡三瓶町大字朝立2番耕地438番地235に移転(仮営業所)
- 55. 9. 8 西宇和郡三瓶町大字朝立1番耕地548番地第6に新築復帰

■歴代営業店長

松平 定吉(16. 9. 1) — 西井 健藏(16.11. 1) — 菊池 孝一(19. 1. 7) — 宮本 好憲(24.11. 5) —
中村 勲(26. 3.25) — 阿部 光義(27.12. 8) — 松原 太郎(31. 2. 2) — 気田 半三(33. 8. 1) —
菊原 進(36. 8. 5) — 和田 一(37. 8. 6) — 堀川 等(40. 2.15) — 萩森彌佐雄(42. 8. 1) —
井上 英雄(45. 4. 6) — 矢野 定(48. 2. 1) — 坂見 計邑(51. 2. 1) — 渦尻真二郎(54. 2. 1) —
萩森 都雄(56. 2. 1) — 毛利 武(58. 7. 1) — 豊田 益治(61. 2.10) — 臼杵 靖男(62. 1. 5) —
今村 龍二(平 2.2.1)

当店は、三瓶町の中心地である商店街の入口にあり、町内一円を営業基盤としている。

三瓶町は、世帯数約3,500世帯、人口約1万1,000人、宇和海に面する東西約8キロメートル、南北約11キロメートルのほぼ長方形の町で、その中央辺りに南西から三瓶湾が入り込んでいる。

三瓶湾は屈曲の変化に富んだ天然の良港で、ハマチ・タイ・ヒラメの養殖が行われており、また、海運も盛んである。

湾を囲む帯状の連峰は、急傾斜ながら山腹まで果樹園が広がっている。

町の北西に突き出た須崎鼻には、海上安全の祈りをこめた須崎観音が建ち、景勝地としてにぎわう泊崎鼻には魚霊塔がある。キャンプ・海水浴場には池之浦、周木があり、また、釣りや潮干狩りを楽しめる場所は至るところにある。もちろん、アジの洗

いなど新鮮な海の幸をふんだんに味わうこともできる。

当地の誇りとして、愛媛県指定の無形民俗文化財、「朝日文楽」が傳承されている。

昭和53年の横平トンネル、朝立バイパスの開通によって、町は飛躍的に発展した。今、潤いと活力のある町づくりをめざしている。



天然の良港三瓶湾

伊方支店三机出張所 〒796-05 西宇和郡瀬戸町三机乙1127番地

■沿革

- 明治40.10.20 西宇和郡三机村大字三机乙1165番地に三机銀行本店として開設
大正14. 2.10 西宇和郡三机村大字三机乙1017番地に新築移転
昭和 5. 5. 1 買収により八幡浜商業銀行三机支店となる。
9. 8.20 合併により豫州銀行三机支店となる。
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行三机支店となる。
31. 6. 1 西宇和郡瀬戸町三机乙1127番地と所在地名変更
33.11. 1 出張所に変更
51. 2.23 西宇和郡瀬戸町三机字谷奥乙1087番地の2に移転（仮営業所）
51. 8.23 新築復帰
63.12.22 店舗増築

当出張所は、四国の最西端、佐田岬半島の中央、瀬戸町三機の中心部にあり、柑橘類を主体とした農業および漁業の従事者、

町職員が主たる営業基盤である。

瀬戸町は、世帯数約1,300世帯、人口は約3,400人で、近年若年層を中心とした人口の

流出で過疎化が進みつつあるものの、昭和62年の国道197号線「メロディーライン」の開通により、野球場・第3セクターによるレストラン・別荘開発をはじめ、ふれあい広場・風力発電施設・養液栽培モデル温室の建設など、観光リゾート地への進展を積極的に進めている。

三机湾に突出している須賀公園は、かつて日米開戦時の、特殊潜航艇によるハワイ真珠湾攻撃に備えて、猛訓練に明け暮れた九軍神ゆかりの地であり、平和となった今日では若者たちのキャンプ地に変ぼう、毎年8月には、「瀬戸の花嫁まつり」が繰り広げられている。

白い砂浜の塩成・川之浜・大久海岸は、

夏場は絶好の海水浴場となる。

そのほか周辺には、岩礁が連なり磯釣りの漁場として知られる番匠鼻をはじめ好漁場が多く、遠来の釣人を楽しませている。



メロディーラインにかかる堀切大橋

宇和島支店 〒798 宇和島市新町2丁目8番3号

■沿革

- 明治12. 5.28 北宇和郡宇和島横新町61番地第1に第二十九国立銀行宇和島支店として開設
 22. 4. 1 北宇和郡宇和島町横新町61番地と所在地名変更
 30. 3. 1 改組により第二十九銀行宇和島支店となる。
 大正10. 8. 1 宇和島市横新町61番地と所在地名変更
 昭和 9. 8.20 合併により豫州銀行宇和島支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行宇和島支店となる。
 19. 5.15 宇和島中支店の廃止によりその業務を継承
 21. 4. 1 鶴島町支店の廃止によりその業務を継承
 41.11. 1 宇和島市新町2丁目8番3号と所在地名変更
 44. 7. 1 三間支店の廃止によりその業務を一部継承
 45.10. 1 城南支店の廃止によりその業務を継承
 50. 7.21 両替業務の取扱いを開始
 51. 9.27 宇和島市新町2丁目8番3号に新築
 51.12. 3 宇和島市役所出張所(店舗外C D)を宇和島市曙町1番地宇和島市庁舎に開設
 57. 8.19 市立宇和島病院出張所(店舗外C D)を宇和島市御殿町1番1号市立宇和島病院に開設
 58.12.19 フジ北宇和島店出張所(店舗外C D)を宇和島市伊吹町字タカヒ甲912番地2株式会社フジ北宇和島店に開設
 59. 2.20 フジ宇和島店出張所(店舗外C D)を宇和島市恵美須町2丁目3番28号株式会社フジ宇和島店に開設
 60. 4. 1 外国為替業務の取扱いを開始
 平成 2. 9.14 マツヤビル共同出張所(店舗外C D)を宇和島市中央町1丁目7番16号マツヤビル内に開設

■歴代営業店長

- 三好 伸一(16. 9. 1) - 矢野哲三郎(19. 5.15) - 小野 三郎(20. 6. 7) - 矢野哲三郎(22. 2. 1) -
 三好 伸一(23. 3. 1) - 高畑 薫幸(26. 3.22) - 佐々木玉寄(28. 7.10) - 梅村源一郎(30.11. 5) -
 佐伯 亀徳(32. 2. 1) - 荒川慎太郎(33. 6. 2) - 井関 年光(34. 9. 1) - 山中 邦男(36.10.10) -
 和氣 勇(39. 8. 5) - 堀田 寅雄(41. 8.15) - 菊山 久(42. 4. 1) - 佐々木 操(45. 8. 1) -

別宮 透(50. 8. 1) — 久米 良知(53. 2. 1) — 井上 實(55. 2.15) — 宮内 省三(56. 2. 1) —
河本 昭二(57. 5. 1) — 田中 有男(58. 2. 1) — 佐々木正幸(61. 8. 1) — 田中 貞輝(平 1.2.1)

当店は、宇和島市の中心部、アーケード商店街のほぼ中央にある。当店の前には「史跡融通會所之跡」の碑が建っている。天保6年(1835)伊達宗紀の時代に金融機関がこの地にあったことを示している。

宇和島地方の産業は、近時、海に支えられた養殖が主流となっている。ハマチ・タイ・ヒラメの養殖は、宇和海全体で全国一の生産を誇る。神秘的な輝きを放つ宇和海の養殖真珠の品質は、名実ともに日本一である。

宇和島における城下町の形成は、宇和郡7万石の領主となった藤堂高虎が、この地にあった板島丸串城を本城と定め、本格的な築城に着手した文禄4年(1595)にはじまる。その後慶長19年(1614)、奥州仙台の伊達政宗の長子秀宗が宇和郡10万石に新封され、翌元和元年(1615)に板島城に入ってから明治維新に至るまで、宇和島は伊達家9代の城下町として繁栄してきた。この間、寛文5年(1665)には、2代藩主伊達宗利によって天守の大改修が行われ、これが現在の宇和島城となっている。天守閣は、桃山初期の城郭様式を偲ばせる独立式三重三層で、唐破風・千鳥破風の屋根は変化があつて美しい。

当地は、明治中期まで商業を除いてはこれといった産業はみられなかったが、以後養蚕業が盛んとなり、製糸・綿織物工業が興り、しだいに都市としての形を整えてい

った。明治22年には町制を実施、大正3年に宇和島～近永間に鉄道が開設されてからは急速に市街化が進み、大正10年、県下3番目の市の誕生となった。

現在、世帯数約2万4,000世帯、人口約7万人の南予における政治・経済・文化の中心地である。

当地が、幕末と維新を挟んで、洋学者高野長英、蘭医であつた大村益次郎など歴史上の人物と深いかわりをもつのは、8代藩主伊達宗城の偉大な識見と進取性に負うところが大きい。このほか宇和島で輩出し明治を生きた先駆者には、大津事件で司法の独立を護つた大審院長児島惟謙、言論人で政治小説家としても活躍した末広鉄腸、明治民法生みの親穂積陳重、鉄道唱歌の大和田建樹、漢詩人中野 逍 遙など多士済済である。



桃山初期の城郭様式を偲ばせる宇和島城

追手支店 〒798 宇和島市本町追手2丁目4番11号

■沿革

- 大正15. 2.17 宇和島市広小路119番地12に宇和島銀行広小路派出所として開設
昭和 4. 一. 一 宇和島市堀端通13番地1追手筋に移転し、追手派出所と店名変更
8. 3. 1 合併により第二十九銀行追手出張所となる。
9. 8. 20 合併により豫州銀行追手出張所となる。
15. 1. 16 宇和島市追手通13番地第2に移転

- 昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行追手出張所となる。
 20. 6. 1 支店に昇格
 22. 2. 1 堅新町支店の廃止によりその業務を継承
 29. 6. 1 広小路支店の廃止によりその業務を継承
 29. 6. 1 店舗新築のため宇和島市大字広小路字広小路通19番地の2（広小路支店跡）に移転（仮営業所）
 30. 7.22 宇和島市追手通13番地第2に新築復帰
 41.11. 1 宇和島市本町追手2丁目4番11号と所在地名変更

■歴代営業店長

山本 與惣(20. 6. 1) — 若松 富夫(21.11. 5) — 井関 年光(25. 2.18) — 河野 晴雄(25.10.25) —
 久保 忠信(27. 8.16) — 菊池 孝一(29. 5.11) — 上野 秋一(29. 9. 9) — 高田三千男(31. 8. 1) —
 阿部 光義(32.10. 5) — 島内喜八郎(36. 7. 1) — 松原 太郎(37.10. 9) — 大谷 民一(39. 2.10) —
 宮本 宗一(41. 4.18) — 兵頭 善高(42.10. 1) — 桐田 亘(45. 4. 6) — 池田 博志(48. 8. 1) —
 山崎 尚男(52. 8. 1) — 宮崎 匡裕(54. 8. 1) — 二宮 堅輔(57. 8. 1) — 横山 靖(60. 8. 1) —
 石田 清進(62. 3. 1) — 香川 實雄(平 2.2.1)

当店は、宇和島市の中心地、アーケード商店街をのぼりきった所にあり、市東南部の商業地および住宅地が営業基盤である。

この地域は、古くは城下町の中心として栄えた所で、各所に名勝地や史跡を見ることが出来る。国指定の名勝地天赦園は、7代藩主伊達宗紀が、3年の歳月をかけて慶応2年（1866）に完成した池水回遊式の名園である。その隣の伊達博物館には、240年にわたる宇和島藩の数多くの文化遺産が展示されている。このほか伊達家墓所の龍華山等覚寺や、「えんまさん」の愛称で親しまれ名勝鶴亀の庭のある西江寺などがある。2月にここで開かれるえんま祭は、本尊が年に1度開帳される日で、本堂の天井に描かれている地獄絵図は圧巻である。宇和島藩の総鎮守であった宇和津彦神社の秋祭には、牛鬼が勇壮な姿で町に練り出し、かわ

いらしいハツ鹿が辻々で優雅に舞い踊るなど伝統的な郷土芸能を披露してくれる。

このように当店の周辺には、「夕空はれて秋風吹き、月影落ちて鈴虫鳴く……」と大和田建樹によって歌われた宇和島の古く懐かしい面影が、今も残されている。



伝統的な郷土芸能「牛鬼の練り歩き」

城南支店 〒798 宇和島市中沢町2丁目1番5号

■沿革

昭和58. 2.23 宇和島市中沢町2丁目1番5号に開設

■歴代営業店長

塩田 賢(58. 2.23) — 西谷 弘(60. 2. 1) — 浮田 幸喜(63. 2. 1) — 黒田 雄二(平 3.2.1)

当店は、宇和島旧市街を南に下った国道56号線沿いにある。

営業エリアは、水源を鬼ヶ城に発し宇和島湾に注ぐ来村川くむらの流域一帯である。

エリア内には、ディーラーなどの出先事業所のほか、地元企業である縫製工業・建設業・日用品販売業などをかかえているが、給与所得者や兼業農家を対象とした個人市場が中核となっている。エリア内世帯数は約5,500世帯、人口は約1万5,000人である。

名所旧跡は旧市街ほどには多くないが、特にあげれば当店から宇和島市中心寄り、旧国道近くの神田河原には、市指定の史跡「大村益次郎住居跡」がある。鎖国時代、宇和島8代藩主伊達宗城^{むねなり}が、長州藩士で蘭医であった村田蔵六^{ぞうろく}（のちの明治軍制創始者大村益次郎）を、嘉永6年（1853）に藩御雇の蘭学教授として招いた際に住ませた所である。

近時、営業エリアでは宅地開発が急テン



宇和島藩の総鎮守宇和津彦神社

ポで進んでいる。これに呼応して地元スーパーの増床、大手流通業者の進出が計画されており、今後商業環境の整備にともなって宇和島市の新興地域発展に寄せる期待は大きい。

和霊町支店 〒798 宇和島市和霊元町4丁目1番5号

沿革

- 昭和21. 2. 25 宇和島市和霊町1357番地第2に伊豫合同銀行和霊町出張所として開設
- 25.10. 1 支店に昇格
- 28.10. 20 宇和島市和霊町33番地に新築移転
- 41.11. 1 宇和島市和霊元町4丁目1番5号と所在地名変更
- 56. 7. 13 店舗新築のため宇和島市和霊元町3丁目4番3号に移転（仮営業所）
- 57. 2. 15 新築復帰

歴代営業店長

清家 昇(25.10. 1) — 島内喜八郎(26.12.31) — 菊池 好春(29. 3.25) — 檜垣 義雄(31. 8. 1) —
 山本 政雄(32.10.18) — 池田 役信(34. 5. 1) — 白方 利明(37. 3.23) — 大窪 護(38.10. 7) —
 日根居源市(39. 8. 5) — 吉澤 亮(40. 4.10) — 吉良 賀光(41. 8.15) — 池田 照明(44. 2. 1) —
 若松 義夫(46. 8. 1) — 松下 和夫(48. 2. 1) — 山口 孝一(50. 2. 1) — 二宮 豊吉(51. 7. 1) —
 渡森 誠(54. 2. 1) — 上甲 二郎(56. 2. 1) — 後藤 公明(59. 2. 1) — 市川 幸道(61. 8. 1) —
 山下 克征(平 1.8.1) — 三好 晃(3. 8. 1)

当店は、宇和島市内北部寄り、和霊神社近くの国道56号線に位置し、世帯数約5,000世帯、人口約1万4,000人の城北中学校の校区一円を営業基盤としている。

JR宇和島駅の裏側を流れる須賀川の北岸に、和霊神社がある。祭神は、藩政改革半ばにして非業の死を遂げた家老山部清兵衛公頼^{い きんより}である。毎年7月23、24両日の夏祭は和霊大祭として知られ、宇和島祭と結合

されている。5～6メートルもある牛の胴体に鬼の面をつけた牛鬼を、ハッピー姿の数十人の若者がかついで練り歩く。また、3体の神輿を若者が須賀川にかつぎ込む「走り込み」は、勇壮な神事で全国的に知られている。

須賀川の旧流路の北西には魚市場があり、そこでは宇和海の新鮮な魚貝類をはじめ、ハマチ・タイ・ヒラメなどの養殖魚も

扱われている。その海の幸をたっぷり使った鯛めし・さつま汁・福めん・フカの湯ざらしなど、多くの郷土料理がある。



夏の大会でにぎわう和霊神社

卯之町支店 〒797 東宇和郡宇和町大字卯之町 3 丁目296番地

■沿革

- 慶応 4. 1. 1 東宇和郡卯之町に種生講として開設
- 明治 8. 2. 1 種生会社と改称
- 26. 6. 27 株式種生会社と改称
- 大正 8. 4. 11 卯之町銀行と改称
- 昭和 5. 11. 1 東宇和郡宇和町大字卯之町 1 番耕地1222番地第 1 に移転
- 6. 12. 6 合併により宇和卯之町銀行本店となる。
- 13. 2. 1 合併により豫州銀行卯之町支店となる。
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行卯之町支店となる。
- 24. 8. 11 山田・俵津両支店の廃止によりその業務を継承
- 54. 6. 28 東宇和郡宇和町大字卯之町 3 丁目296番地と所在地名変更
- 平成元. 12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

- 清水 剛(16. 9. 1) — 末光 亮一(19. 5. 15) — 清水 剛(20. 6. 7) — 末光 亮一(21. 5. 1) —
- 山本 與惣(22. 10. 1) — 瀬川 勇(26. 3. 25) — 中村 崑(27. 12. 8) — 松江 重直(29. 3. 25) —
- 仙波澤之助(30. 6. 23) — 高原 為安(32. 6. 28) — 薬師寺勝光(33. 8. 15) — 別宮 仁(34. 6. 10) —
- 宮本 宗一(36. 1. 12) — 三瀬 昇(40. 12. 10) — 武村 章(42. 2. 1) — 菊池 文雄(44. 8. 1) —
- 坂本與三郎(48. 2. 1) — 宮崎 匡裕(50. 2. 1) — 兵頭 功(54. 8. 1) — 信川鯉久治(57. 2. 1) —
- 藤原 修(60. 2. 1) — 松本 順市(63. 2. 1) — 末光 教彦(平 2. 8. 1)

当店は、海拔200メートルの高原宇和盆地のほぼ中央に位置する宇和町商店街にあり、宇和町全域を営業基盤としている。

宇和町は、古くから南予文化の中心地として栄えてきた。この周辺から縄文・弥生・古墳時代の土器などが出土するところから、この地方に古代文化が開花していたことは想像に難くない。

卯之町駅から徒歩で5分、山の手には宇和町のシンボル「宇和文化の里」がある。こ

こには、明治15年に建てられた、洋風のアーチ窓のある西日本最古の校舎開明学校、儒学者左氏珠山が文久3年(1863)に開いた私塾申義堂しんぎどうのほか、歴史民俗資料館、蘭医二宮敬作を訪ねた幕末の蘭学者高野長英の隠れ家、江戸時代以来の古い町並みが残る中町通りなかのちようがあり、いずれも当時の姿を偲ばせてくれる。

このうち、開明学校は、長野県松本市の開智学校と文化財としての姉妹館提携をし

ていて、教育文化の交流をはかっている。
 なお周辺には、平安前期の古寺と伝えられる四国霊場43番札所明石寺、教育者で宗教家の西村清雄が、伝道の帰途鳥坂峠で詠み、のちに賛美歌となった「山路こえて」の歌碑の建つ法華津峠がある。



西日本最古の校舎開明学校

野村支店 〒797-12 東宇和郡野村町大字野村字中屋敷12号516番地

■沿革

- 明治30. 3.25 大洲商業銀行野村支店として開設
 大正 3.10.15 東宇和郡野村字中屋敷12号346番地第2に新築移転
 11. 1. 1 東宇和郡野村町大字野村字中屋敷12号346番地第2と所在地名変更
 11. 8. 1 合併により大洲銀行野村支店となる。
 昭和 9. 8.20 合併により豫州銀行野村支店となる。
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行野村支店となる。
 23. 4. 1 魚成支店の廃止によりその業務を継承
 24. 8.11 土居支店の廃止によりその業務を継承
 39.11. 1 東宇和郡野村町大字野村字中屋敷12号516番地と所在地名変更
 平成元.11.27 東宇和郡野村町大字野村字中屋敷12号516番地に新築

■歴代営業店長

- 松江 重直(16. 9. 1) — 山本 興市(20. 4. 5) — 高原 為安(22.10. 1) — 山本 一郎(25.10. 1) —
 島内喜八郎(29. 3.25) — 菊池 好春(31. 8. 1) — 別宮 仁(32. 7.15) — 梶原 傳也(34. 6.10) —
 大石 音吉(38. 2.11) — 三瀬 昇(38.10. 7) — 清家彦三郎(40.12.10) — 山下 教通(43. 5.20) —
 戈野 順男(45. 8. 1) — 日高 利春(47. 8. 1) — 木下 一昭(51. 7. 1) — 佐々木正男(54. 8. 1) —
 森信 勝俊(57. 5. 1) — 中川 克巳(60. 5.13) — 有田 常樹(63. 8. 1) — 紙崎 祐夫(平 2.8.1)

当店の営業エリアは、野村町・城川町である。この地方の主な産業は、畜産・養蚕・酪農・野菜の栽培などで、なかでも畜産と養蚕は、県下最大の産地となっている。

野村町のかつての地場産業に、手すき和紙「泉貨紙」があった。泉貨紙は、自らを「泉貨居士」と称する兵頭太郎右衛門が、16世紀後半の天正年間に楮とトロロの根汁を原料にして開発した厚くて丈夫な和紙のことで、盛時には代表的な物産として町勢発展の原動力ともなったが、現在泉貨紙をすいているのは1軒だけとなっている。安



100年の伝統をもつ乙亥相撲

楽寺のかたわらにある泉貨居士の墓は県の史跡、また泉貨紙の製法は国の無形文化財である。

年中行事では、旧暦10月の乙亥おとといの日に催される乙亥相撲がある。嘉永5年(1852)に野村が大火に見舞われ壊滅的な打撃をうけたことから、時の庄屋緒方おがた与次兵衛が、二度と罹災しないよう愛宕神社に祈願し、

100年間の願相撲を奉納したのがその起源である。昭和27年に満願となったが、今も日本相撲協会から有力力士を招へいして催されており、当地での一大イベントとなっている。

城川町にある元亨3年(1323)創基の龍沢寺は、天保年間に再建されたもので、堂々とした伽藍は辺りを圧するものがある。

高山支店 〒797-02 東宇和郡明浜町大字高山甲1470番地

沿革

明治30. 6. 17 東宇和郡高山村大字高山本浦甲3573番地に伊豫高山銀行本店として開設

昭和 5. 3. 1 合併により八幡浜商業銀行高山支店となる。

9. 8. 20 合併により豫州銀行高山支店となり、同時に高山村大字高山本浦甲1470番地に移転

16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行高山支店となる。

33. 1. 1 東宇和郡明浜町大字高山甲1470番地と所在地名変更

51. 1. 16 東宇和郡明浜町大字高山甲1470番地に新築

歴代営業店長

上甲 繁喜(16. 9. 1) — 公受 務(21. 5. 13) — 中廣市太郎(22. 10. 1) — 三浦 勘七(25. 8. 15) —

高橋 良男(28. 12. 21) — 高原 為安(31. 8. 1) — 堀田 寅雄(32. 6. 28) — 中川 乙松(34. 6. 10) —

岡 治郎(37. 2. 15) — 池田 博志(40. 12. 10) — 矢野 定(42. 8. 1) — 戀木 政光(44. 11. 1) —

兵頭 功(52. 8. 1) — 尾崎 泰刻(54. 8. 1) — 宮谷 良一(56. 8. 1) — 増田 博俊(59. 8. 1) —

節田 安生(62. 3. 1) — 葉師寺新蔵(平 1. 8. 1) — 田中 秀定(3. 8. 1)

当店のある明浜町は、東宇和郡の西端、宇和海に面する細長い帯状の町である。

主要産業である農業は、「耕して天に到る」のとえのとおり急峻な段々畑で行う柑橘栽培で、優良産地の呼び声が高い。三瓶湾と法花津湾の間に突き出ている大崎鼻一帯は、好漁場として知られ、一本釣りやチリメン漁などの漁船漁業が盛んである。また真珠・ハマチ・タイなどの養殖漁業も営まれている。

町内には3基の鯨塚がある。その一つは高山湾入口の磬ノ手鯨塚で、正面に「鱗王院殿法界全果大居士」の戒名、側面に「于時天保八酉六月廿一日」の銘がある立派な墓である。墓を海に向けてあるのは、鯨族の墓参に便利なようにとの心遣いからだといわれる。鯨の供養は位牌のある金剛寺で行われている。



海に向かって立つ磬ノ手鯨塚

県の無形民俗文化財である人形浄瑠璃「俵津文楽」は、嘉永5年(1852)にはじまったもので、素晴らしい郷土芸能として今日まで継承されてきた。語りも人形遣いもすべて地元の人が当たり、これに使われる人形首・衣裳道具も数多く、保存もよく行き届いている。

吉田支店 〒799-37 北宇和郡吉田町大字本町29番地

■沿革

- 明治44. 5. 4 北宇和郡吉田町大字本町30番戸ノ第2に第二十九銀行吉田支店として開設
昭和 2. 8.30 北宇和郡吉田町大字本町29番地に移転
9. 8.20 合併により豫州銀行吉田支店となる。
16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行吉田支店となる。
20. 3.17 桜町特別支店の廃止によりその業務を継承
平成元.12. 1 兩替業務の取扱いを開始
3. 7.22 店舗新築のため北宇和郡吉田町大字本町22番地2に移転（仮営業所）

■歴代営業店長

矢野哲三郎(16. 9. 1) — 清水 剛(19. 5.15) — 三好 伸一(20. 6. 7) — 松江 重直(23. 3. 1) —
河上 績(26. 7.10) — 山中 邦男(28. 9.26) — 山下 信義(30. 8. 8) — 薬師寺勝光(32. 2. 1) —
岡崎 正雄(33. 7.21) — 島内喜八郎(33. 8. 1) — 堀田 寅雄(36. 7. 1) — 嶽本與喜男(38.10. 7) —
久徳 金次(40.12.10) — 中島 衛(43. 5.20) — 岡 治郎(46. 8. 1) — 桐田 亘(49. 2. 1) —
砂田 剛毅(50. 2. 1) — 山口 孝一(51. 7. 1) — 久保田保文(53. 2. 1) — 山崎 功(55. 8. 1) —
岩瀬 哲也(57. 8. 1) — 魚部 武夫(59. 6. 1) — 三榊 昌道(62. 3. 1) — 畦 正孝(平 2.2.1)

当店の営業基盤である吉田町は、宇和海に面し「花とみかんと文化の町」を標榜する町である。人口は約1万5,000人で、主要産業は柑橘生産・ハマチと真珠の養殖などであり、特にミカンは日本一の生産地として有名となっている。

町の歴史は古く、明暦3年（1657）宇和島初代藩主伊達秀宗の五男宗純が、宇和島10万石のうち3万石を分知されて吉田藩を創立、これにより陣屋町としての旧吉田町が形成され今日に引き継がれている。昔を偲ばせる史跡が町内に数多くあり、今でも御殿内・御舟手などの町名が残っている。

藩主の居館である陣屋は、戦国時代の土居氏の居城石城山を背に、河内川と立間川に囲まれた自然の要害地にあった。廃藩後は、御殿裏の長屋門の一部が残るだけである。

吉田の町はずれには、吉田藩伊達家の墓

所大乘寺がある。寺の山門を入ってすぐ右手に安置されている水引地蔵は、13世紀後半の弘安年間に、この地方の干ばつを救ったことで地元の人々から厚い信仰を集めている。

北の町境に近い法花津湾は、入江と湾頭の漁村、それにミカン畑がよく調和して当地ならではの景観美を誇っている。



素晴らしい眺めの法花津湾

近永支店 〒798-13 北宇和郡広見町大字近永664番地

■沿革

- 大正 9. 9.18 北宇和郡旭村大字近永甲632番地に第二十九銀行近永支店として開設
15. 5. 6 北宇和郡旭村大字近永甲799番地の1に移転
昭和 3. 3.30 北宇和郡旭村大字近永甲632番地（開設地）に復帰

- 昭和 9. 8.20 合併により豫州銀行近永支店となる。
 13. 3.15 店舗改築のため北宇和郡旭村大字近永甲773番地の1に移転（仮営業所）
 13. 4.25 改築復帰と同時に北宇和郡旭村大字近永甲630番地第4と所在地名変更
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行近永支店となる。
 16.11.10 北宇和郡近永町大字近永甲630番地第4と所在地名変更
 30. 3.31 北宇和郡広見町大字近永甲630番地第4と所在地名変更
 44. 6.18 北宇和郡広見町大字近永664番地と所在地名変更
 44. 7. 1 三間支店の廃止によりその業務を一部継承
 54. 9.25 北宇和郡広見町大字近永664番地に新築
 平成元.12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

住田 義久(16. 9. 1) — 山田 惣市(21. 5. 1) — 井関 年光(23.10.25) — 大野内武雄(25. 2.18) —
 梶原 傳也(29. 5. 1) — 山口 正(33. 7.21) — 大谷 民一(35. 8. 1) — 佐々木 操(36.10.10) —
 池田 岩雄(38. 5.20) — 中住日出夫(39.10.15) — 岡 治郎(43. 2. 1) — 赤松幹一郎(46. 8. 1) —
 安部 勝廣(48. 8. 1) — 吉見 和男(50. 8. 1) — 松浦 久繁(52. 2. 1) — 木下 一昭(57. 2. 1) —
 河野 孝雄(60. 2. 1) — 紙崎 祐夫(62. 5.11) — 鎌田 省二(平 2.8.1)

当店は、宇和島市から車で20分、鬼北地方の中心地広見町にあり、広見町・三間町・日吉町を営業基盤としている。世帯数約6,700世帯、人口約2万2,000人ののどかな田園地帯で、主産物は米、野菜、栗などである。

広見町では、毎年8月10日から9月30日まで、奈良川の畔で「いもたき」が行われる。地元産の里芋を、こんにゃく、鶏肉などととともに煮込んだ大鍋を囲み、家族連れあるいはグループで、初秋の宵の一刻を楽しく過ごすのである。広見川で採れる蟹と一緒に供されるが、これが珍味と評判。今や広見町の名物として、町外からやってくる人も多い。

観光の名所としては、春は桜、夏はキャンプ、秋は紅葉の国定公園成川溪谷がある。

そして、当店の近くには弓滝神社があり、その夏祭は年々にぎやかで、特に花火は印象鮮烈である。

このような風土のなかにあって町内の文化活動が盛んで、6人に1人は、何らかの文化サークル活動を行っている。当店の行員もサークル活動に参加して地域とのふれあいを深めている。



夏祭にはにぎわいをみせる弓滝神社

松丸支店 〒798-21 北宇和郡松野町大字松丸297番地

■沿革

- 大正元.10.14 北宇和郡明治村大字松丸甲266番地に大洲銀行松丸出張所として開設
 7. 4.23 支店に昇格
 昭和 9. 8.20 合併により豫州銀行松丸支店となる。
 15.11.10 北宇和郡松丸町大字松丸266番地と所在地名変更

- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行松丸支店となる。
- 30. 3.31 北宇和郡松野町大字松丸266番地と所在地名変更
- 46.12. 8 北宇和郡松野町大字松丸226番地と所在地名変更
- 57.10. 4 北宇和郡松野町大字松丸297番地に新築移転

■歴代営業店長

- 高田三千男(16. 9. 1) — 高原 為安(21.11. 5) — 二宮 昇(22.10. 1) — 薬師寺勝光(23.10.25) —
- 山中 邦男(27. 2.29) — 和田 直忠(28. 9.26) — 檜垣 義雄(29. 8. 1) — 宮本 宗一(31. 8. 1) —
- 清家周三郎(34.12. 1) — 菊池 文雄(36.10.18) — 萩森彌佐雄(39. 2.10) — 古島 和生(42. 8. 1) —
- 菅野 智見(43. 8.27) — 山口 孝一(47. 2. 1) — 小野田十造(50. 2. 1) — 上甲 二郎(54. 8. 1) —
- 今城宇佐男(56. 2. 1) — 伊藤 定(58. 8. 1) — 三浦 只(60. 5.13) — 木田 昌廣(63. 8. 1) —
- 井上 平一(平 3.2.1)

当店は、松野町の中心にあり、当町および高知県幡多郡西土佐村の一部を営業エリアとしている。

松野町は宇和島市より東へ約20キロメートルの所にあり、町の中央部を流れる広見川にそって集落や耕地が連なり、それらを縫うようにJR予土線が宇和島～高知県窪川間を走っている。松野町の総面積のうち約85%を山林が占め、主産業は農業で米のほか栗・茶・桃・花き・柚子などを産している。特に、茶と桃は県下有数の産地として有名である。

観光資源には、足摺宇和海国立公園の一角を占める滑床溪谷があり、その清流と高さ80メートルの「雪輪の滝」は、南予の景勝地として年間約10万人の観光客を呼んでいる。

そのほか当地には中世のロマンを秘めた「河後森城跡」があり、この城をめぐる人間ドラマの探究に郷土史家たちの興味が注

がれている。

町の中心には、叙情性豊かな青春の秀句を残して、26歳で夭折した天才俳人芝不器男の生家がある。不器男は明治36年(1903)生まれ。東北帝大在学中、「ホトトギス」に寄せた「あなたなる夜雨の葛のあなたかな」が、高浜虚子の名鑑賞をうけてから、一躍俳壇の注目を浴びるようになった。生家は「芝不器男記念館」となっている。



記念館となっている芝不器男の生家

岩松支店 〒798-33 北宇和郡津島町岩松858番地第1

■沿革

- 明治31.12. 2 北宇和郡岩松村858番地第1に岩松銀行本店として開設
- 大正 2. 2. 1 買収により第二十九銀行岩松支店となる。
- 8.10. 1 北宇和郡岩松町858番地第1と所在地名変更
- 昭和 9. 8.20 合併により豫州銀行岩松支店となる。
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行岩松支店となる。
- 30. 2.11 北宇和郡津島町岩松858番地第1と所在地名変更
- 39. 8. 3 店舗新築のため北宇和郡津島町岩松東側952番地の第1に移転(仮営業所)
- 40. 3. 8 新築復帰

平成 3. 3. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

岡添 順象(16. 9. 1) — 山本 秀雄(21.11. 4) — 河野 晴雄(22.10. 1) — 二宮 昇(25. 2.18) —
 葉師寺勝光(27. 2.29) — 山口 正(30. 6.23) — 吉良 賀光(33. 7.21) — 中島 衛(37. 6. 5) —
 戀木 政光(39. 2.10) — 戈野 順男(42. 2. 1) — 中住日出夫(45. 8. 1) — 宮崎 匡裕(47. 2. 1) —
 信川鯉久治(50. 2. 1) — 田多 靖三(54. 8. 1) — 奥川 完(57. 2. 1) — 愛久澤克敏(59. 6. 1) —
 楠 雄次(61. 8. 1) — 三好 亮三(平 1.2.1)

当店は、愛媛県内町村のなかで最大の面積をもつ津島町一円を営業基盤としている。

津島町は、作家獅子文六（本名 岩田豊雄）の妻シヅ子の郷里で、終戦直後に獅子文六が当地岩松に疎開、その間の見聞・経験を素材にした新聞連載小説『てんやわんや』で全国で紹介されるところとなった。小説のなかで岩松の風土を「冬は暖かいし、物資はあるし、桃源郷というべき所」と記している。文六はこの寛闊な気風を愛し、当地を「第二のふるさと」と呼んだ。現在、世帯数約4,500世帯、人口は約1万6,000人である。

津島町的主要産業は、農林と水産である。特に水産業では、真珠・タイ・ハマチの養殖が盛んで全国各方面に出荷されている。もう一つの町おこしは、昭和60年の南予レクリエーション都市の中核公園「南楽園」の誕生である。南楽園は、日本古来の「美

ところ」を追求した池泉回遊式日本庭園で、園内にはツツジ・花菖蒲など約10万本の草木が植えられ、その壮観美は多くの観光客をひきつけている。

岩松川では、冬はしらうお漁、春は潮干狩りにぎわい、さらに由良半島・竹が島周辺は、磯釣り・船釣りのメッカとして釣りマニア活躍の場となっている。



池泉回遊式日本庭園「南楽園」

御荘支店 〒798-41 南宇和郡城辺町甲2067番地・甲2068番地(平成 4. 1.16城辺支店と店名変更)

■沿革

- 明治29.10. 5 南宇和郡御荘村平城に第二十九国立銀行御荘支店として開設
- 30. 3. 1 改組により第二十九銀行御荘支店となる。
- 大正 8. 6.15 南宇和郡城辺村甲1796番地第1・第2に移転
- 9. 8.20 合併により豫州銀行御荘支店となる。
- 12. 2.11 南宇和郡城辺町甲1796番地第1・第2と所在地名変更
- 昭和16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行御荘支店となる。
- 20.10. 1 御荘西支店の廃止によりその業務を継承
- 37. 9. 3 店舗新築のため南宇和郡城辺町字1911番地・1912番地の1に移転（仮営業所）
- 38. 5.31 南宇和郡城辺町1796番地第1・第2に新築復帰
- 47. 4. 1 南宇和郡城辺町甲2067番地・甲2068番地と所在地名変更
- 60. 5.16 フジ南宇和店出張所（店舗外C D）を南宇和郡城辺町乙544番地株式会社フジ南宇和店に開設
- 平成元.12. 1 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

織田 泰行(16. 9. 1) — 松本 延良(17. 8. 1) — 岡添 順象(21.11. 4) — 山下 秀雄(22.10. 1) —
山下 信義(26. 3.25) — 清家 昇(30. 8. 8) — 山本 政雄(34. 5. 1) — 大谷 民一(36.10.10) —
兵頭 善高(39. 2.10) — 井上 芳武(41. 4.18) — 佐々木 操(42. 8. 1) — 清家彦三郎(45. 8. 1) —
中井 琴一(49. 2. 1) — 池田 博志(52. 8. 1) — 二宮 豊吉(56. 8. 1) — 徳島 公一(60. 2. 1) —
三浦 只(63. 8. 1) — 久保田 晋(平 2.2.1)

当店は、愛媛県の最南端、南宇和郡の経済の中心地城辺町の商店街にあり、城辺町、御荘町、一本松町、内海村の4カ町村を営業エリアとしている。

当地は、宇和島市から国道56号線を一路南へ車で約1時間、足摺宇和海国立公園の風光明媚な景観に囲まれた町村で、美しいリアス式海岸を利用したハマチ・タイ・真珠等の養殖業、まき網・カツオの1本釣りを中心とする漁業、それに海産物加工業を基幹産業として発展を遂げてきた。

篠山、宇和海海中資源群、天巖鼻は、昭和48年の南予レクリエーション都市計画にもとづく環境整備もあって、観光地として、また南海の磯釣り場として、訪れる観光客や太公望が年々増えてきている。

当店は、このような環境のもと、明治29年第二十九国立銀行御荘支店として開設以来の歴史と伝統を背負い、地域とともに歩んでいる。



高知県境篠山山頂のアケボノツツジ

船越支店 〒798-42 南宇和郡西海町船越752番地

■沿革

- 昭和17. 5. 1 南宇和郡西外海村3番耕地734番地第5に伊豫合同銀行船越特別出張所として開設
- 23.12.10 普通出張所に昇格
- 25.10. 1 支店に昇格
- 25.11. 1 南宇和郡西外海村3番耕地字小谷734番地の第4に移転
- 27.10. 1 南宇和郡西海町字小谷734番地の第4と所在地名変更
- 50.11.25 南宇和郡西海町字船倉3番耕地1205番地の20に移転(仮営業所)
- 51. 5.17 南宇和郡西海町字小谷3番耕地734番地第4と所在地名変更(本営業所)
- 51. 5.25 新築復帰
- 61.10. 1 南宇和郡西海町船越752番地と所在地名変更

■歴代営業店長

山口 正(25.10. 1) — 山口 玉夫(29. 8. 1) — 長岡 保範(33. 6. 2) — 山本 政雄(34.10. 2) —
矢野 章(36. 8. 2) — 戈野 順男(39. 2.10) — 二神 清志(42. 2. 1) — 津田 浩己(45. 2. 1) —
松浦 久繁(48. 6. 8) — 近江 泰通(52. 2. 1) — 横山 靖(54. 4.10) — 高野 修雄(57. 8. 1) —
古山 至朗(60. 8. 1) — 玉井 清(63. 8. 1) — 東倉 英明(平 1.2.1)

当店は、愛媛県の西南端の半島、足摺宇和海国立公園の一角、西海町にあり、町内

全域を営業基盤としている。西海町の産業は、ハマチ・タイの養殖である。恵まれた

立地条件のもと、西浦・船越・福浦の各湾に18の業者が点在し、年間売上げ100億円を誇っている。

当町の観光資源である宇和海中公園は、わが国最初の海中公園として指定を受けた所で、昭和47年に国立公園に昇格してからにわかに脚光を浴び、全国にその名が知られるようになった。なかでも県の名勝地鹿島は、江戸時代、宇和島藩主伊達公の狩猟地であったところから、動植物の保護が行き届いていて、50頭の鹿、200匹を超える野猿やピロウ・アコギ・ハマユウなどの熱帯植物が、観光客を楽しませてくれる。島の周辺は透明度が高く、面白く形づくられたサンゴ類や乱舞する色鮮やかな熱帯魚は、あたかも竜宮城を思わせ、その景観は、グラスボートで観賞することができる。豊

後水道に突き出た高茂岬^{こうも}は、リアス式海岸特有の雄大な断崖・奇岩・怪岩を形成し、宇和海や高知県の島々を眼下に、また九州の山なみをはるか彼方に眺望できる景勝地である。



遠く九州が眺望できる高茂岬

大分支店 〒870 大分市府内町3丁目1番9号

■沿革

- 昭和22. 8. 1 大分市大字大分603番地に伊豫合同銀行大分特別出張所として開設
- 22.10. 1 大分市大字魚町629番地に移転
- 23. 6.21 大分市大字大分字東上市町467番地に新築移転
- 24. 1.14 普通出張所に昇格
- 24. 3. 1 支店に昇格
- 35.12. 5 大分市大字大分96番地の1に新築移転
- 38. 6. 1 大分市府内町3丁目1番9号と所在地名変更
- 45. 2. 2 三重支店の廃止によりその業務を継承
- 60.10. 1 外国為替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

瀬川 勇(24. 3. 1) — 高畑 薫幸(24. 6.10) — 佐々木玉寄(26. 3.25) — 岡田 宗一(28. 7.10) — 宮崎 要(30. 5.16) — 河合 義数(32. 9.30) — 西川 安久(36. 1.12) — 菊池 数吉(38.10.29) — 和気 勇(41. 8.15) — 水野 孫一(43. 5.20) — 忽那 一(47. 2. 1) — 今井 時政(49. 2. 1) — 久保 鶴美(51. 7. 1) — 別宮 透(53. 2. 1) — 河本 昭二(54.10. 1) — 和田 富夫(57. 5. 1) — 藤原 博雅(60. 2. 1) — 井倉 公夫(62. 3. 1) — 篠原 正敏(63. 8. 1) — 毛利 武(平 2.8.1)

当店は、県都大分市の真ん中、JR大分駅から北に延びる目抜き通りにあり、大分市および周辺の数町村を営業基盤としている。

大分市は、昭和39年新産業都市の指定を受け、鉄と石油を基幹とする商工都市に発

展を遂げた。近年は、ハイテク産業や関連企業の成長による産業の多様化、高度化がハイピッチで進んでいる。この東九州の拠点都市に根を下ろして40有余年、当店は今、準地元銀行と呼ばれる信頼を地域から得ている。

大分の地名の起源は、その昔、時の天皇がこの地をご覧になり「広大なるこの郷やよろしく碩田（おおきた）の国と名づくべし」と仰せられたことによると伝えられる。以来、豊後の国の政庁所在地として発展した。なかでも大友宗麟の時代には、南蛮貿易を盛んに行い、泰西文化を吸収し、九州の文化の中心地として隆盛を極めた。

大分市が、日本で最も銅像の多い町であることはあまり知られていない。当店の裏通り「遊歩公園」にも、布教師ザビエルのほか数々の異国情緒豊かな像が立ち、市民になにごとかを語りかけている。

なお、地域活性化対策としての大分県の一村一品運動は、あまりにも有名である。



銅像が立ち並ぶ遊歩公園

別府支店 〒874 別府市駅前本町1番1号

■沿革

- 大正 8. 1. 1 別府市大字別府342番地の3に實業銀行別府支店として開設
- 昭和 5. 1. 25 合併により第二十九銀行別府支店となる。
- 9. 8. 20 合併により豫州銀行別府支店となる。
- 13. 12. 31 類焼のため別府市大字別府482番地に移転（仮営業所）
- 14. 12. 18 別府市大字別府342番地の3に新築復帰
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行別府支店となる。
- 36. 9. 11 両替業務の取扱いを開始
- 40. 3. 1 別府市楠町5番4号と所在地名変更
- 52. 8. 25 別府市駅前本町1番1号に新築移転
- 53. 2. 1 松原支店廃止によりその業務を継承

■歴代営業店長

- 加賀山兼松(16. 9. 1) — 梅村源一郎(17. 12. 11) — 佐々木玉寄(23. 2. 1) — 山本 與惣(26. 3. 25) —
- 高原 為安(27. 8. 16) — 丹下 鐵男(30. 8. 8) — 山中 邦男(33. 11. 1) — 山本 政雄(36. 10. 10) —
- 大野 豪(38. 2. 11) — 今井 時政(40. 7. 20) — 日淺 義輝(43. 5. 20) — 三瀬 昇(44. 4. 1) —
- 濱野 治清(46. 8. 1) — 菅野 智見(49. 2. 1) — 青野喜三郎(51. 4. 1) — 山口 孝一(53. 2. 1) —
- 木下 一昭(54. 8. 1) — 佐伯 眞康(57. 2. 1) — 兵頭 功(58. 7. 1) — 菊池 浩二(60. 8. 1) —
- 二宮 孝夫(平 1. 2. 1)

当店は、別府駅前通りの中心地にあり、世帯数5万世帯、人口約13万人の別府市全域が営業エリアである。

別府の地は「和名 鈔」の見聞郡朝見郷に当たり、古くは「伊予風土記」に、少彦名命が大分速見の湯を汲んで大己貴命の病をなおした、と記されていることから温泉の歴史は古い。

別府が温泉を基盤とする観光都市に発展

していったのは、海陸交通や温泉掘削技術が発達しはじめた明治以降である。

温泉の所在は奈良時代の「豊後国風土記」にも記載されているが、別府には別府・浜脇・観海寺・堀田・亀川・柴石・鉄輪・明礬の八つがあり、これを「別府八湯」と呼んでいる。なかでも九州横断道路北側にある鉄輪温泉は、地獄めぐりの中心地で、血の池地獄・海地獄・坊主地獄・竜巻地獄・

白池地獄・^{おにやま}鬼山地獄をめぐって観光バスの往来が激しい。

温泉は、市の南部と北部の地塊運動によって生じた断層線上に集中しており、湧出量は全国2位、泉質は硫黄泉など9種に及ぶ。

別府への観光客は年間1,200万人、そのなかで特に目を引くのは外国人観光客が増えたことで、年間2万人を超える。最近では外国人観光客の来店しない日がないくらいである。



地獄めぐりの一つ竜巻地獄

白杵支店 〒875 白杵市大字白杵字豊屋町350番地の3

■沿革

- 明治42. 5.20 大分県大野郡野津市村大字野津市99番地に大野成業銀行野津市支店として開設
- 大正12. 1.25 合併により卯之町銀行野津市出張所となる。
- 昭和 6.12. 6 合併により宇和卯之町銀行野津市出張所となる。
- 13. 2. 1 合併により豫州銀行野津市出張所となる。
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行野津市出張所となる。
- 22. 6.20 北海郡白杵町大字白杵338番地に移転し白杵出張所と店名変更
- 23. 7. 1 支店に昇格
- 25. 4. 1 白杵市大字白杵338番地と所在地名変更
- 42. 5.15 白杵市大字白杵字豊屋町350番地の3に新築移転

■歴代営業店長

- 藤岡 武文(23. 7. 1) — 上野 秋一(24. 6.10) — 宮脇 季雄(26.11.10) — 小泉 二郎(31. 2. 2) —
- 和気 勇(34. 9.29) — 渡辺 保(37.10.29) — 二宮 茂(39. 8. 5) — 宇都宮博介(43. 2. 1) —
- 今井 俊夫(45. 4. 6) — 越智 清(49. 2. 1) — 宮川 博行(52. 2. 1) — 門田 悟(54. 2. 1) —
- 渡森 誠(56. 2. 1) — 野村 博(58. 5.27) — 高橋 清馬(60. 8. 1) — 久保田 晋(62. 3. 1) —
- 黒田 肇(平 2.2.1)

当店の営業基盤である白杵市は、大分県



旧盆に催される石仏火祭

の東南部にあり、歴史とロマンの町、そして造船・食品加工・醸造を主とする産業の町でもある。世帯数は約1万2,000世帯、人口は約4万人である。

城下町としての白杵は、戦国時代に東九州で権勢を誇った大友義鎮（宗麟）が永禄6年（1563）に、阿蘇溶岩流の末端、丹生島に築城したのにはじまる。宗麟はキリスト教徒としても有名で、ポルトガル・イスパニア・明との交易をはかることにより、白杵を異色文化に彩られた東九州の政治・経済の拠点に発展させた。大友氏滅亡後も

福原氏・太田氏と続き、慶長5年の関ヶ原の戦いののち、徳川幕府によって稲葉藩5万石の城下町として繁栄してきた。

いまひとつ、臼杵の誇りとするものに「臼杵の石仏」がある。臼杵川の谷の阿蘇溶岩面に刻まれた磨崖仏で、その数60余を数え、その多くは藤原時代のものとされている。

優秀作はホキ石仏中の阿弥陀三尊と古園石仏中の大日如来仏頭である。この石仏群は湯川秀樹博士の実父小川琢治博士により、大正2年に発見されたもので、旧盆には、「石仏火祭」として地元の人々の厚い信仰と供養をうけている。

津久見支店 〒879-24 津久見市中央町25番8号

■沿革

- 昭和16. 9. 1 合併により豫州銀行蒲江支店を伊豫合同銀行蒲江支店として継承（所在地大分県南海部郡蒲江町大字蒲江浦2215番地の6）
22. 6. 20 大分県北海部郡津久見町津久見浦3786番地の2に移転し、津久見支店と店名変更
26. 4. 1 津久見市大字津久見浦3786番地の2と所在地名変更
26. 4. 18 津久見市大字津久見浦字角尾崎2の614番地・2の614番地の1に移転
34. 5. 25 津久見市大字下青江字港町4142番地の107に新築移転
37. 7. 2 両替業務の取扱いを開始
42. 4. 1 津久見市中央町25番8号と所在地名変更

■歴代営業店長

山本 松藏(22. 6. 20) — 稲見 久平(24. 4. 11) — 清家 昇(26. 12. 31) — 岡部富一郎(28. 12. 21) —
渡辺 義行(31. 2. 2) — 菊池 好春(32. 7. 15) — 菊池 守(35. 2. 15) — 水野 孫一(37. 6. 5) —
安藤喜四郎(38. 10. 7) — 宮田 鷹雄(39. 1. 13) — 梶谷 繁(41. 2. 10) — 田中一二三(43. 2. 1) —
山崎 尚男(44. 8. 1) — 内田 清(47. 7. 10) — 加賀山 肇(50. 2. 1) — 松浦 静香(53. 9. 8) —
白石 朝良(55. 8. 1) — 小松 康典(58. 11. 1) — 今村 龍二(62. 3. 1) — 若林 興美(平 2. 2. 1)

当店は、大分県南東部、豊後水道に面した「みかんとセメントの町」そして「スポーツの町」で知られる津久見市のほぼ中央にある。

津久見市は、背後三方を山に囲まれた小都市で、産業は石灰石・鉱業を基幹として、海運・土木・鉄工・柑橘栽培そしてマグロ漁業が主なものである。

当市のミカン栽培の歴史は古く、市内の蔵富で、わが国最初の早生温州ミカンが発見されたのが、嘉永元年(1848)であったと伝えられている。現在、周囲の古生層山地には約700ヘクタールのミカン園が広がっている。

また津久見の宝、石灰石で知られる津久見鉱山は、わが国屈指の石灰石鉱山で、延長20キロメートルにわたって石灰岩層が発

達、埋蔵量は37億トンといわれ、これらの石灰石とセメントは、津久見港から中近東・東南アジアにも送り出されている。

市民の誇り、津久見高校野球部は、昭和42年春と47年夏の甲子園大会優勝校として全国に勇名を轟かせている。そのほか全国



わが国屈指の石灰石鉱山とセメント工場

大会で日本一となり県民栄誉賞を受賞した家庭婦人バレーボールチームをはじめ、シルバークラブ・少年野球・レディーステニス

など、全国大会に出場する実力チームが後を絶たない。

佐伯支店 〒876 佐伯市城東町4番1号

■沿革

- 大正11. 7.15 大分県南海部郡佐伯町465番地に宇和商業銀行佐伯支店として開設
- 15. 1.23 大分県南海部郡佐伯町144番地の2に移転
- 昭和 6.12. 6 合併により宇和卯之町銀行佐伯支店となる。
- 13. 2. 1 合併により豫州銀行佐伯支店となる。
- 16. 4.29 佐伯市144番地の2に所在地名変更
- 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行佐伯支店となる。
- 53. 8.28 佐伯市城東町4番1号に新築移転

■歴代営業店長

- 楢垣 靖(16. 9. 1) — 梅村源一郎(19. 4. 8) — 三好 貞基(20. 3. 1) — 佐々木喜重郎(21.10.10) —
- 谷山 龍馬(24. 2. 5) — 亀田 清(26. 7.15) — 清家 昇(28.12.21) — 山中 邦男(30. 8. 8) —
- 瀧野 健一(33.11. 1) — 高橋 良男(35.10. 1) — 菊池 守(37. 6. 5) — 浦屋 薫(39. 8. 5) —
- 三瀬 昇(42. 2. 1) — 新部 和雄(44. 4. 1) — 松友 茂行(45. 4. 6) — 古島 和生(47.11. 6) —
- 廣川 啓二(49. 2. 1) — 佐々木正幸(52. 8. 1) — 信川鯉久治(54. 8. 1) — 兵藤 勝久(57. 2. 1) —
- 福田 有良(59. 8. 1) — 工藤 恒夫(62. 3. 1) — 福本 誠一(平 2.2.1)

佐伯市は、大分県の南東部に位置し、その周辺にはリアス式海岸が、随所に美しい景観を演出している。また、地形水深に恵まれた東九州屈指の貿易港があり、周辺8カ町村の産業、経済、文化の中心都市としての役割を果たしている。

当店は、佐伯市とその周辺町村を含めた人口9万6,000人の商圈を営業基盤としている。

戦前の佐伯市は、海軍色の濃い町であった。戦後は、地形を利用して臨海型企業が発展したが、現在は、最新鋭の機械を装備した加工組立型の企業が進出し、臨海部から内陸部へと企業立地の様態が変化してきている。これら工業のほか、主要地場産業として、県南の豊富な森林を背景に成長してきた木材、木製品製造業や、佐伯湾の良質の魚類を生かしてきた水産加工業がある。

当店の北西に立つ城山は、毛利高政策城の鶴屋城跡で、市民の憩いの場となってい

る。東山麓には、白壁の土塀にかこまれた旧藩時代の武家屋敷、櫓門、仏刹等の歴史的な遺構がある。一角に文豪国木田独歩の寄寓した坂本邸があり、毛利家菩提寺養賢寺へと続く道は、「日本のみち百選」に選ばれている。



白壁に囲まれた元武家屋敷

北九州支店 〒802 北九州市小倉北区紺屋町4番6号

■沿革

- 昭和38. 4. 15 北九州市小倉区馬借町151番地に開設
39. 1. 24 両替業務の取扱いを開始
40. 6. 28 北九州市小倉区紺屋町79番地に新築移転
46. 6. 7 北九州市小倉区紺屋町4番6号と所在地名変更
49. 4. 1 北九州市小倉北区紺屋町4番6号と所在地名変更

■歴代営業店長

玉乃井周平(38. 4. 15) — 明比 文治(38. 10. 7) — 水野 孫一(41. 4. 18) — 忽那 一(43. 5. 20) —
宇都宮一二三(45. 4. 6) — 日野 英彦(48. 6. 1) — 矢野 聖(50. 8. 1) — 清家 和(52. 8. 1) —
山下 敏雄(53. 9. 8) — 永井 速雄(56. 2. 1) — 山上彦四郎(57. 8. 1) — 井関信次郎(60. 8. 1) —
菅 勝久(63. 2. 1) — 日出山 晋(平 2. 8. 1)

北九州市は、昭和38年2月、小倉・門司・八幡・戸畑・若松の5市が合併、一挙に人口105万人の政令都市として、華々しくスタートした。

その年の4月、当店は、市の中心地小倉駅前に開店したのである。東京オリンピックの前年であった。

耶馬台国北九州説がある。北九州には今もなお、女王卑弥呼が統治していた3世紀を彷彿とさせる風光がある。大陸や半島から人と文化を運んで来た玄海灘の荒波、それをうける松の防風林、小高い丘に群がる古墳。古代から現在まで、アジアN I E Sの玄関としての地理的優位性は変わっていない。

小倉15万石の城主小笠原氏は、礼儀作法に厳格で、風流、芸事にも熱心な藩風を育てた。当世流行のミニ盆栽は、参勤交代の駕籠のなかで殿様を慰めたのがはじまりである。

「掘ッテ、掘ッテ、マタ掘ッテ」。黒いダイヤモンド石炭は、この町のどこからも出てきたという。全国から人が集まり、やがて豊富なエネルギーで製鉄の町へと変身、そして公害。北九州の人々は、その時々の変化を見事に克服してきた。重厚超大型産業が苦戦するなか、今度はどのような変身をみせるのであろうか。



小笠原15万石の小倉城

福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅前2丁目5番7号

■沿革

- 昭和46. 12. 7 福岡市博多駅前2丁目5番7号に開設
47. 4. 1 福岡市博多区博多駅前2丁目5番7号と所在地名変更
62. 10. 1 外国為替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

柳原 芳史(46. 12. 7) — 吉澤 亮(49. 2. 1) — 塩見 由夫(51. 7. 1) — 白石 淳(54. 8. 1) —

富士森保忠(57. 2. 1) — 田中 貞輝(59. 6. 1) — 岩瀬 哲也(62. 3. 1) — 魚部 武夫(平 1.2.1) — 岡部 倫寛(3. 2. 1)

当店は、九州の玄関、オフィスビルが立ち並ぶJR博多駅前の一角にある。福岡市内には、信用金庫も含め金融機関の店舗数が約360もあり、全国でも有数の金融激戦地である。

「福岡」と聞けば大都会というイメージがわき、「博多」と聞けば親しみやすい感じをうける。もともと、市街中央を流れる那珂川を境に、西を城下町「福岡」と呼び、東を商人の町「博多」と呼んでいた。両町ともおのおのその特性を生かして発展してきたため、明治22年市制施行に際し市名決定で大いにもめ、市議会でなんと1票差で福岡と決定したいきさつがある。その後、福岡市は金融・経済の中枢都市となり、今や人口約120万人の大都市へと発展した。

福岡が古くから国際交流の拠点となっていた証拠となるものに、平和台球場改修時に発見された「鴻臚館」遺跡と、志賀島か

ら出土した「金印」がある。鴻臚館は、7世紀から11世紀の間、迎賓館・客館として利用されていた所である。金印は隸書体で「漢委奴国王」の5字が刻まれているもので、西暦57年に倭の奴国王が後漢の光武帝に朝貢したときうけたものと伝えられ、現在国宝となっている。



古代後期の迎賓館「鴻臚館」遺跡

高松支店 〒760 高松市寿町1丁目1番12-11号

沿革

- 昭和22. 4.10 高松市内町53番地に伊豫合同銀行高松特別支店として開設
- 22. 6.28 高松市片原町22番地に移転
- 23. 4.10 高松市百間町9番地に移転
- 23.10.11 普通支店に昇格
- 28. 6.11 高松市丸亀町16番地に新築移転
- 33. 7.11 高松市丸亀町3番地の1と所在地名変更
- 47. 9.11 高松市寿町1丁目1番12-11号に移転
- 57. 3. 1 外国為替業務の取扱いを開始

歴代営業店長

- 佐伯 亀徳(22. 4.10) — 眞木 高重(24. 6.10) — 小島 常一(26.11.10) — 近藤準一郎(29. 8. 1) —
- 橋本 漸(31. 2. 2) — 小笠原京一(32. 7.15) — 山口守之助(34. 9. 1) — 菊池 龍一(37. 2.21) —
- 堀田 寅雄(38.10. 7) — 藤野 正敏(41. 8.15) — 和気 勇(43. 5.20) — 曾根 滋(44. 2. 1) —
- 佐々木 弘(49. 2. 1) — 西山 雄三(52. 8. 1) — 大仲 隆(55. 2.15) — 佐々木正幸(56. 8. 1) —
- 山崎 功(59. 6. 1) — 片山 克(61. 8. 1) — 飯尾 義延(63. 8. 1) — 田中 運生(平 3.2.1)

当店は、高松市の中央通りの北端、JR高松駅前があり、高松市全域と国分寺町、

木田郡の一部を営業エリアとしている。向かい側には玉藻城とも呼ばれる高松城

跡がある。高松城は、天正16年(1588)生駒親正いごまかまさによって築城され、寛永19年(1642)水戸光圀の兄松平頼重よりしげが12万石の藩主となり、明治の廃藩置県まで11代続いた。頼重が入封した当時の人口は約1万3,000人、戸数約2,000軒であった。すでにその頃から、高松城外郭の南、常盤橋(今の三越付近)を起点に讃岐の五街道(志度・長尾・仏生山・金比羅・丸亀)が東・南・西と放射線状に伸び、讃岐随一の城下町を形成していた。

明治以降も四国の玄関口として、中央官庁・大企業の出先機関が集中し、行政・経済の中核都市として機能している。

ちなみに、高松市の直近統計では、総人口約32万人、卸・小売業数約7,600、年間販売額は約3兆2,000億円、一方製造業の事業



高松市中央通り琴電ターミナル

所数は約2,000、年間出荷額は約4,000億円であり、今や高松市は卸・小売を中心とした典型的な商業都市であるとともに、出先機関を通じて四国管内の重要な情報発信基地ともなっている。

坂出支店 〒762 坂出市寿町3丁目1番41号

■沿革

昭和44. 5. 15 坂出市寿町3丁目1番41号に開設

44. 6. 2 両替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

別宮 透(44. 5. 15) — 岡 節雄(46. 7. 5) — 山崎 尚男(49. 8. 1) — 富士森保忠(51. 2. 1) —

白石 淳(52. 8. 1) — 河野 俊彦(54. 8. 1) — 近江 泰通(57. 2. 1) — 大西 博(59. 2. 1) —

小栗 猛(62. 8. 1) — 真鍋 茂樹(平 2.2.1)

当店は、坂出市を中心に宇多津町、飯山町などの中讃地区を営業基盤として、昭和44年5月に開設した。

坂出市は、江戸時代から「塩の町」として栄えてきたが、製塩法の変化、輸入塩の増大にともない、昭和46年を境にすべての塩田が姿を消した。代わって、その跡地を埋め立てた広大な工場地帯が出現し、軽金属、石油、電力等の大工場が並ぶ工業都市へと変化した。

そして63年4月10日、瀬戸大橋(本州四国連絡橋児島～坂出ルート)が開通、新しい四国の玄関として、物流・観光両面で新しい顔をもちはじめた。瀬戸大橋は、全長

13.1キロメートルの鉄道道路併用橋である。そのほぼ中央にある与島にはパーキングエリアが設けられ、そこからは海を背に



世界最長の鉄道道路併用橋「瀬戸大橋」

した瀬戸大橋が一望できる。

海から陸へと目を向けると、讃岐富士と呼ばれる飯野山が、端正な姿を見せてくれる。

天智天皇の昔、7世紀に構築された朝鮮

式山城「城山」は、現在、その名残をとどめるゴルフ場になっている。四国最初のゴルフ場として昭和29年にオープンした高松カントリー倶楽部城山コースがそれである。

丸亀支店 〒763 丸亀市城西町2丁目2番40-101号

■沿革

昭和49.9.3 丸亀市城西町151番地1に開設

56.2.11 丸亀市城西町2丁目2番40-101号と所在地名変更

■歴代営業店長

藤田 耕作(49.9.3) — 村上 清壽(51.7.1) — 渡部 訓行(54.2.1) — 宮内須美男(56.8.1) — 眞鍋 哲(59.2.1) — 篠村 郷司(62.3.1) — 村山 守信(平 1.8.1) — 宮川 寛(3.2.1)

当店は、丸亀市のほぼ中心部にあり、営業エリアは当市をはじめ善通寺市・仲多度郡・三豊郡・観音寺市など香川県の西部一円である。

丸亀市は、北は風光明美な備讃瀬戸に面し、南に讃岐富士飯野山周辺の田園地帯を控えた、世帯数約2万4,000世帯、人口約7万5,000人の都市である。

伝統産業では、下級藩士の内職を起源とする「丸亀うちわ」が全国的に有名で、現在100の事業所で年間約6,000万本を生産している。

丸亀市の代表的な文化遺産は丸亀城である。丸亀城は、またの名を蓬萊城といい、慶長2年(1597)、讃岐領主の生駒親正が標高67メートルの亀山に築いた平山城である。寛永18年(1641)に山崎家治が城主となり、万治元年(1658)から明治までの約200年間は、京極氏6万石の治世が続いた。今も残る天守閣と大手門は、国の重要文化

財である。

このほか城内には亀山公園、金倉川河口には丸亀美術館や藩主の別荘地であった中津万象園、塩飽諸島本島には塩飽勤番所跡がある。丸亀港は、古くから金毘羅参拝客の乗降場として開けた所で、現存する大助灯笼は往時の港のにぎわいを偲ばせるものがある。



丸亀市の文化遺産蓬萊城

高松東支店 〒760 高松市上福岡町字弁財天1202番地9

■沿革

昭和53.11.29 高松市上福岡町字弁財天1202番地9に開設

■歴代営業店長

山崎 功(53.11.29) — 青田 堅治(55. 8. 1) — 大方 治郎(58. 7. 1) — 村山 守信(61. 2.10) — 白川 明(平1.8.1)

当店は、高松市内の第2店舗で、市の南東部一円を営業基盤としている。この地域は、小規模の家具・漆器製造業が散在し、かつ、新興住宅地としても発展してきている。

特に、瀬戸大橋の開通、総事業費450億円・総面積174万平方メートルという中四国最大の新高松空港の開港に加えて、四国横断道路整備事業の大型プロジェクトの進行、旧高松空港跡地の再開発計画等があり、当店の近隣、周辺も大きく変化しようとしている。

当店の周辺は、年中観光客の絶えることがなく、特に瀬戸大橋が開通してからは活況を呈している。塩江温泉、竜満池と桜の名所の竜桜公園、光と緑と鳥のさえずりがトリムコースに跳ねている公洲森林公園、讃岐の寝釈迦のある法然寺など、自然に恵まれた見所が数多い。



中四国で最大の新高松空港

旧高松空港の跡地再開発計画は、「香川インテリジェントパーク計画」と称し、四国工業技術試験場などで研究開発や情報センターの機能をもつサイエンス・ソフトパーク、県立図書館など高次の文化機能をもつカルチャーパーク、理工系大学誘致に備えるリザーブゾーンの3分野に分かれている。

観音寺支店 〒768 観音寺市観音寺町甲201番地1

■沿革

平成 3. 5.15 観音寺市観音寺町甲201番地1に開設

■歴代営業店長

平原 立志(平3.5.15)

当店は、平成3年5月15日に、愛媛と香川経済圏の架け橋として、香川県三豊郡の政治・経済・文化の中心地、観音寺市に開店した。営業エリアは、西讃地区の三豊平野全域である。

当市は、人口4万5,000人を擁する商業都市であり、また山海の観光資源に恵まれた美しい町でもある。瀬戸内海国立公園に含まれている名勝琴弾公園、白い砂浜と緑濃い松原にかこまれた有明浜、それに続く砂の芸術「寛永通宝」銭形の奇観、これらの



興正寺一夜庵

多彩な景勝は、市のシンボルとなっている。

特に、「寛永通宝」の銭形は、寛永10年(1633)に丸亀藩主生駒高俊公が藩内巡視の際、当地の人々が来訪を歓迎して一夜で作らせたのがはじまりと伝えられている。この銭形は、琴弾山頂からは円形に見えるが、実際には東西122メートル、南北90メートル、周囲345メートルのだ円形であ

り、これを見た人は健康でお金に不自由しなくなるといわれている。

当地には、このほか昔より巡礼の鈴の音に明けくれる四国霊場「68番神恵院」、「69番観音寺」および俳句の祖山崎宗鑑終焉の地「興正寺一夜庵」などもあり、四季を通じて訪れる観光客も年々増えている。

高知支店 〒780 高知市本町2丁目1番9号

■沿革

- 昭和22. 3.15 高知市本町2丁目36番地に伊豫合同銀行高知特別支店として開設
 23. 4. 1 普通支店に昇格
 34. 8.11 店舗新築のため高知市本町字第5北側57番地に移転(仮営業所)
 35. 3.21 新築復帰
 38. 3.25 両替業務の取扱いを開始
 47. 7. 1 高知市本町2丁目1番9号と所在地名変更
 61. 9. 1 外国為替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

戒能 甲太(22. 3.15) - 河上 績(24. 2. 1) - 松江 重直(26. 7.10) - 林 正男(28. 7.10) -
 橋本 漸(29. 4. 3) - 矢野 盛雄(31. 2. 2) - 玉乃井周平(32. 3. 1) - 西川 安久(33.11. 1) -
 近藤準一郎(36. 1.12) - 和気 勇(37.10.29) - 菅野 満(38.12.20) - 山路千代重(40. 7.20) -
 一宮 修(42. 2. 1) - 今井 時政(43. 5.20) - 久保 鶴美(46. 8. 1) - 水木 儀三(49. 8. 1) -
 関谷 暉(51. 7. 1) - 能島 俊(53. 4. 1) - 西本 武之(55. 1. 4) - 麻生 俊介(57. 8. 1) -
 井倉 公夫(59. 6. 1) - 大田 建(62. 3. 1) - 岡部 倫寛(平 1.2.1) - 川田 雄弘(3. 2. 1)

当店は、高知市の中心部に位置し、県下の単独店舗として、高知市およびその周辺一円を営業基盤としている。

高知市は、人口約31万人、高知県の政治・経済・文化の中心地として発展を続けている。高知は、関ヶ原の戦いののち新領主となった山内一豊で有名な山内氏16代の城下町であり、現在でも天守閣、本丸御殿、追手門等15棟の城郭建築が残っており、土佐24万石の風格をしのばせるものがある。

高知城の追手門から、民謡で知られる「はりまや橋」のあるはりまや町にかけて、約1.3キロメートルにわたる追手筋では、日曜日ごとに街路市が開かれる。野菜、果物、乾物、花、雑貨など盛りだくさんの物が市民、観光客に提供されており、今では高知の「日曜日」として、全国的に知ら



300年の歴史がある定期市

れるようになった。起源は古く、元禄3年(1690)高知城下の3カ所の町に定期市が認められたことにはじまる。

また高知は、幕末から明治にかけて、歴史に名を残す人材があまた輩出した所である。なかでも坂本龍馬は、地元では圧倒的

な人気があり、月の名所の桂浜に建てられている龍馬の銅像前は、県内はもちろん、

全国各地からの観光客でいつもにぎわっている。

徳島支店 〒770 徳島市東船場町2丁目13番地

■沿革

- 昭和33.10.1 徳島市東船場町2丁目8番地に開設
- 38.3.25 両替業務の取扱いを開始
- 42.4.20 徳島市東船場町2丁目9番地と所在地名変更
- 50.7.7 徳島市東船場町2丁目13番地と所在地名変更
- 63.4.1 外国為替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

佐伯 亀徳(33.10.1) — 永山 進一(34.5.1) — 宮内 宏(36.1.12) — 湯山 正男(38.8.15) —
菊池 守(39.8.5) — 武市 洸(41.8.15) — 湯浅 眞貫(42.8.1) — 田中 稔(44.8.1) —
小笠原清壽(46.4.1) — 藤田 虎夫(49.2.1) — 藤田 耕作(51.7.1) — 大仲 隆(53.9.8) —
富士森保忠(55.2.15) — 佐伯 賢利(57.2.1) — 清洲 正三(59.2.1) — 魚部 武夫(62.3.1) —
藤田 幸雄(平 1.2.1) — 稲前 紀彦(2.10.22)

徳島は、四国三郎吉野川と阿波おどりに象徴される「^{あゐ}藍と水と情熱の町」である。

当店は、徳島県下唯一の支店で、徳島市とその周辺を営業基盤としている。

よしこのリズムにのる阿波おどり。その起源は、戦国時代の世が治まり、蜂須賀公の居城徳島城の完成を祝って、城下の民が、安穩の世の賛歌を体で現し踊り狂ったことにはじまる。ローカルな盆踊りであった阿波おどりの夜、今では130万人の人出でにぎわう真夏の夜のカーニバルとなった。

東の紅花、西の藍。藩制時代に全国を二分した染料の王者である。阿波藍は、吉野川流域の肥沃な土壌に恵まれ、藩の奨励保護策もあって隆盛を極め、明治時代には全国生産の過半を占めていた。藍商人の豪商ぶりは、今に語り継がれている。色あい、つや、香りの藍染は、懐古調の波によって見直され、今では民芸品としての評価が高

い。

鳴門海峡の壮大な渦潮と大鳴門橋は、徳島観光のポイントである。平成9年度の明石大橋の完工で鳴門～明石ルートが実現すると、徳島は阪神と2時間で結ばれる。こうして21世紀には、阪神経済圏の仲間として、また四国の東玄関として大きく躍進の時代を迎える。



情熱の盆踊り「阿波おどり」

広島支店 〒730 広島市中区紙屋町1丁目1番20号

■沿革

- 昭和25.12.11 広島市平田屋町4番地に伊豫合同銀行広島支店として開設
- 30.12.5 広島市研屋町38番地に新築移転

- 昭和40. 4. 1 広島市紙屋町1丁目1番20号と所在地名変更
 52. 7. 1 外国為替業務の取扱いを開始
 55. 4. 1 広島市中区紙屋町1丁目1番20号と所在地名変更
 59. 5. 7 店舗新築のため広島市中区胡町4番地10に移転(仮営業所)
 60.11. 5 新築復帰

■歴代営業店長

西山 茂一(25.12.11) — 宮内 誠恭(26.11. 1) — 高畑 薫幸(28. 7.10) — 向井 哲夫(31. 2. 2) —
 近藤準一郎(32. 9.30) — 河合 義数(36. 1.12) — 清家 豊茂(38.10. 7) — 黒田 幸一(40. 6.15) —
 明比 文治(43. 4.15) — 榊田 三郎(44. 8. 1) — 嶋村 正信(47. 2. 1) — 山本 昇(49. 8. 1) —
 水木 儀三(51. 7. 1) — 本田 博(53. 2. 1) — 奥田 政康(55. 1. 4) — 砂田 剛毅(57. 8. 1) —
 白石 晴夫(60. 8. 1) — 上坂 博章(63. 2. 1) — 野村 博(平 2.2.1)

当店は、広島市のなかでも京橋川・元安川・本川および天満川の四つの河川に囲まれた中区を主たる営業基盤としている。中区の世帯数は約6万世帯、人口は約14万人、人口密度は広島市内8区のなかで最も高い。またこの地区は、各種の文化・スポーツ施設、官公庁、銀行、百貨店が集中しており、昼間は周辺からの人口の流入で活気に溢れている。

広島は、近世までは一寒村に過ぎなかったが、天正17年(1589)に毛利輝元が、当時五箇荘と呼ばれていたデルタ地帯に築城して、領内の武士・町人を集めたことから、領内に城下町に発展していった。関ヶ原の戦いののち、福島正則が城主となり、やがて浅野長晟が紀州から42万石で入封、明治維新まではその治下にあった。大本営がおかれた日清戦争以降、軍都の性格を強め

てきたが、太平洋戦争末期に原爆で壊滅的な打撃をうけてからは、「ノーモアヒロシマ」を旗印に、国際平和文化都市に生まれ変わった。元安川を隔てた平和記念公園では、毎年8月6日に「平和記念式典」が催され、全世界から多数の参加者を得て、世界恒久平和実現の誓いを新たにしている。



「ノーモアヒロシマ」の象徴原爆ドーム

仁方支店 〒737-01 呉市仁方本町1丁目2番3号

■沿革

- 大正 8. 5.10 広島県加茂郡仁方町1370番地の2に大洲商業銀行仁方支店として開設
 11. 8. 1 合併により大洲銀行仁方支店となる。
 昭和 9. 8.20 合併により豫州銀行仁方支店となる。
 16. 4.21 呉市仁方町1370番地の2と所在地名変更
 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行仁方支店となる。
 25.12. 1 安浦支店の廃止によりその業務を継承
 39. 1.20 呉市仁方町字船倉1421番地の2に新築移転
 41. 8. 1 呉市仁方本町1丁目2番3号と所在地名変更

■歴代営業店長

相原 環(16. 9. 1) — 大月泰太郎(17. 1.16) — 田中 多助(18. 7.12) — 山田 惣市(21. 4.11) —

田中 多助(21. 4.16) — 二宮 績(23. 2. 1) — 榑部 光芳(25. 8.15) — 木村 惣藏(28. 7.10) —
 瀬川 勇(31.12. 8) — 岡部富一郎(32.12. 5) — 湯山金次郎(35. 2.15) — 井上 芳武(38. 2.11) —
 村上 正孝(41. 4.18) — 松田萬亀男(41.12. 1) — 浅野 富夫(48. 8. 1) — 玉井 道人(50. 8. 1) —
 廣川 啓二(52. 8. 1) — 加藤 安見(54. 8. 1) — 梅村 俊男(57. 8. 1) — 竹田 清志(59. 2. 1) —
 榑原 宏(61. 2.10) — 福岡二千郎(平 1.8.1)

当店は、かつての軍港都市、呉市の最東端仁方地区にある。当店の歴史は古く、大正8年に開設された大洲商業銀行仁方支店が前身で、県外支店では臼杵支店につぐものである。また地理的には本店所在地松山とはどの県外支店よりも最短距離にある。

当店の営業基盤である仁方地区は、世帯数約3,000世帯、人口約9,000人の全国屈指のヤスリ生産地である。主な地場産業である工業用ヤスリは、全国生産高の90%を占める。ひと昔前までは家庭用ヤスリも生産されていたが、近時その用途も消滅、最近では工業用ヤスリが主体となってきた。国内需要の低落した今日、ダイヤモンドメッキ加工の新製品の開発に力を入れ、東南アジア・北米への輸出を着実に伸ばしている。

元来、仁方地区には鍛冶職が多く、農業の副業として大工道具・鋤などを作っていたところへ、大阪で修業していた刀鍛冶職

人坪井豊次郎が、ヤスリの製造技術を仁方に持ち帰ったというのが、仁方ヤスリ創業の通説である。なお仁方のヤスリ会社に、頭に「壺」のつく商号が多いのは、豊次郎の作るヤスリはできばえがよく、これに刻まれていた壺のマークにあやかっことに由来するといわれる。



ヤスリ工場団地

尾道支店 〒722 尾道市東御所町3番11号

■沿革

- 昭和22. 3. 25 尾道市土堂町60番地に伊豫合同銀行尾道特別支店として開設
- 23. 9. 6 尾道市土堂町甲809番地の1に移転
- 23.10.11 普通支店に昇格
- 39. 1. 24 両替業務の取扱いを開始
- 42. 4. 20 尾道市土堂町字塚西甲809番地の1と所在地名変更
- 42. 7. 1 尾道市東御所町3番11号と所在地名変更
- 47. 5. 8 尾道市土堂1丁目8番8号に移転(仮営業所)
- 48. 5. 7 新築復帰

■歴代営業店長

眞木 高重(22. 3.25) — 藤岡 武文(24. 6.10) — 井関 年光(25.10.25) — 榑部 光芳(28. 7.10) —
 井原 泉(31. 8. 4) — 林 正男(32.12. 5) — 菊池 数吉(36. 5.20) — 高橋 良男(38.10.29) —
 忽那 一(39. 8. 5) — 兵頭 善高(41. 4.18) — 嶋村 正信(41.12. 1) — 武智 温(44. 8. 1) —
 久米 良知(48. 2. 1) — 森 正(50. 2. 1) — 西本 武之(53. 2. 1) — 石川 徹(55. 1. 4) —
 浅海 伍郎(57. 5. 1) — 日野 清光(60. 2. 1) — 徳田 榮作(63. 2. 1) — 三樹 昌道(平 2.2.1) —
 山下 克征(3. 8. 1)

当店は、尾道駅の東、尾道水道沿いの国道2号線に面した所にあり、尾道市一円を営業基盤としている。

尾道は海港の町である。仁安3年(1168)高野山領の大荘園、備後国太田荘の船津倉屋敷がおかれたのがその歴史のはじまりとされ、爾来800有余年の間、良港としてまた四国につながる海の交通の要衝として栄えてきた。

尾道は寺の町でもある。市内には長い歴史をもった由緒ある古刹が多い。浄土寺は、聖徳太子開祖という寺伝のある古寺で、足利尊氏以来足利氏とゆかりの深い寺として有名である。このほか20を超える寺があり、古寺めぐりは多くの人々に親しまれている。

気候温暖で風光明媚な尾道には、その風光・文化を求めて多くの文人墨客が訪れて滞在した。その人たちの詩歌・小説の断片は、千光寺公園頂上から中腹にかけて自然

石に刻まれ、その遊歩道は、「文学のこみち」と名づけられている。周辺には、『暗夜行路』の草案を練ったといわれる志賀直哉の旧居や、アララギ派の歌人中村憲吉の没した仮寓があり、年中観光客の絶えることがない。当店の玄関前広場には、尾道出身の作家林芙美子の銅像と『放浪記』の碑文があり、観光名所のひとつともなっている。



千光寺公園から眺めた尾道水道

福山支店 〒720 福山市船町7番22号

■沿革

昭和45. 4.23 福山市船町7番22号に開設

■歴代営業店長

嶋村 正信(45. 4.23) — 光永 保(47. 2. 1) — 山田 清保(49. 6. 1) — 清家 和(51. 2. 1) —
 山村 泰彦(52. 8. 1) — 宮川 博行(54. 2. 1) — 近藤 尚文(56. 8. 1) — 片山 克(57. 6.15) —
 井上 賢一(59. 2. 1) — 白石 安彦(62. 3. 1) — 市川 幸道(平 1.8.1)



美しい彩りのバラ祭

当店は、福山市の中心部、国道2号線に面した本通り商店街の入口にあり、東は岡山県井原市、西は広島県深安郡、北は府中市を含めた備後地区を営業基盤としている。

福山市は、昭和41年、日本鋼管進出以来、臨海工業都市として発展してきており、人口は約37万人で広島県第2の都市である。

地場産業には、繊維、縫製品、木製品、伸鉄铸造、機械金属製品などがあり、その業種の多さは全国第2位といわれ、特に琴

・下駄などの産業は、全国でもまれなものである。

観光地には、元和5年(1619)水野勝成公により築城された福山城がある。また福山城公園には「ふくやま美術館」や「県立歴史博物館」があり、芸術文化都市としての装いを新たにしている。このほか、国宝指定の五重の塔のなかでは全国5番目の古さを持つ明王院や、観光鯛網として知られ、

また宮城道雄の名曲「春の海」のモチーフとなった鞆の浦など、名所・旧跡も数多い。

また当市は、「バラの町」としても知られていて、当店近くのバラ公園をはじめ、市内には30万本を超えるバラが植えられている。

毎年5月にはバラ祭が盛大に行われ、当店の小さなバラ園も色どりを添えている。

広島北支店 〒731-01 広島市安佐南区古市3丁目2番5号

■沿革

- 昭和52. 3. 29 広島市安古市町大字古市1346番地の4に開設
55. 4. 1 広島市安佐南区安古市町大字古市1346番地の4と所在地名変更
62. 5. 11 広島市安佐南区古市3丁目2番5号と所在地名変更

■歴代営業店長

青野 和夫(52. 3. 29) — 加地 弘(54. 4. 10) — 橘 凱緒(57. 2. 1) — 塩田 賢(60. 2. 1) —
梶原 章夫(62. 8. 1) — 入船 好博(平 1. 8. 1)

当店は、山陽道広島インターチェンジの近くにあり、広島市北部の安佐南区を主な営業基盤としている。

安佐南区は、旧安佐郡の佐東町・安古市町・祇園町・沼田町を合わせた区域で、自然環境に恵まれた典型的な郊外型住宅地域である。この地域は、広島菜の栽培などにみられるように、昔から優良農地が多く、市民への新鮮野菜の供給地として重要な役割を果たしてきた。

しかし広島市が大都市に発展するにつれて、この周辺の山麓丘陵地帯には、大規模団地群が割拠するようになった。

この区域では、国道54号線沿いに中小の商店や事業所が発展し、現在17万人を擁するまでに都市化が進んできた。

また、広島市では、人口増加および1994年のアジア競技大会の開催に備えて、第3セクター方式の新交通システム(モノレール)や、山陽自動車道などの交通網の整備が着々と進んでおり、当店の周辺は急激な

変ぼうをみせはじめている。一方、静かで緑に囲まれた地域には、大学や高校などの文教施設も多く、今後、広島市の副都心としてバランスのとれた発展が期待されている。



山麓丘陵地帯に広がる団地群

五日市支店 〒731-51 広島市佐伯区五日市5丁目4番29号

■沿革

- 昭和57. 7. 5 広島県佐伯郡五日市町五日市5丁目1532番地2に開設
 57.11. 1 広島県佐伯郡五日市町五日市5丁目4番29号と所在地名変更
 60. 3.20 広島市佐伯区五日市5丁目4番29号と所在地名変更

■歴代営業店長

篠原 正敏(57. 7. 5) — 日出山 晋(59. 2. 1) — 増田 博俊(62. 3. 1) — 三浦 太栄(平 2.8.1)

当店は、広島市のベッドタウンとして最近急速に発展してきた広島市佐伯区を主な営業基盤としている。この区の世帯数は約3万8,000世帯、人口は約11万人である。

当店のすぐ近くには造幣局、さらに西へ行けば、日本三景の一つとして海外にもその名が知られた、わが国の代表的観光地宮島がある。宮島に鎮座する厳島神社は、推古天皇の時の創建といわれ、平安時代の初期から朝廷の崇敬をうけていた社で、平安の末期に平清盛によって社殿が造営されたものである。社殿は清盛の造営後、三度炎上しているが、華麗な現社殿と海中にそそり立つ大鳥居、波に洗われた大廻廊は、平安絵巻を見るような華やかさである。

宮島へは年中多くの観光客が訪れる。最近ではクルージングの人气が高まり、船内でディナーを楽しみながら宮島の夕日、夜景を満喫する人々が多くなっている。

また佐伯区の北部には、広大な広島市植物園があり、蘭を中心に世界の植物約9,000種、22万本余りが栽培されている。大温室や滝と川のある広場カスケードなど、その広さと多様さで西日本屈指の植物園として、草花愛好者たちに親しまれている。



世界の植物が集められている
広島市植物園

岡山支店 〒700 岡山市表町3丁目1番36号

■沿革

- 昭和39. 8. 3 岡山市新西大寺40番地に開設
 45.10.24 岡山市表町3丁目1番36号と所在地名変更
 46. 5.24 岡山市中央町3番14号に移転(仮営業所)
 47. 3.13 新築復帰
 61. 3. 3 外国為替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

松田 通弘(39. 8. 3) — 山田 進(40.12.10) — 菅野 満(43. 8.27) — 柳原 芳史(43.12.25) —
 別宮 透(46. 7. 5) — 山本 昇(47. 7.10) — 岡 節雄(49. 8. 1) — 由井 幸雄(51. 7. 1) —
 藤田 耕作(53. 9. 8) — 岡田 幸雄(55. 8. 1) — 門田 悟(58. 7. 1) — 松村 哲夫(60. 8. 1) —
 野村 博(63. 2. 1) — 福田 有良(平 2.2.1)

吉備の国岡山は、世帯数21万世帯、人口58万人の、中国地方第2の大都市である。

当店は、その中心部、国道53号線に面した新西大寺町商店街の入口北側にあり、営業区域は、市内を中心に、その周辺市町村にまで及ぶ。

“おかやま”といえば、白桃、吉備団子に桃太郎が有名。JR岡山駅正面玄関を出ると、そこに桃太郎の銅像が迎えてくれる。駅前通り、別名桃太郎通りを車で走ること5分、岡山のシンボル岡山城、緑あふれる後楽園が見えてくる。岡山城は宇喜田秀家の築城、その黒々と輝く姿から別名「烏城」と呼ばれる。月見橋を渡れば、そこは市民の憩いの場となっている後楽園である。総面積は4万坪。築造に14年の歳月を費やしたことから、その広さがうかがえる。こ



黒い姿から烏城とも呼ばれる岡山城

の二大名所を中心に、「夢二郷土美術館」をはじめとして、美術館・博物館がとり囲み、岡山のカルチャーゾーンを形成している。

岡山は、瀬戸大橋の開通によって、中四国の分岐点として商業都市・観光都市として急テンポで発展している。

岡山南支店 〒700 岡山市今3丁目1番37号

■沿革

平成 2. 4. 4 岡山市今3丁目1番37号に開設

■歴代営業店長

渡部 義孝(平 2.4.4)

岡山市は、岡山県南部のほぼ中央に位置し、人口58万人、広島市につぐ中国地方第2の都市として、県下はもとより、東瀬戸圏の経済・文化・交通の中心地になっている。

市内には、日本三名園の一つに数えられる後楽園や、天正の面影を再現している岡山城が、市街地の喧噪を浄化するかのようになつ静かなたたずまいを保っている。

一方、郊外には、日本三大稲荷の一つである最上稲荷や、天下の奇祭「はだか祭」で知られる西大寺、さらには吉備津神社、吉備津彦神社などがあり、名勝史跡に富んでいる。

当店は、岡山市内2番目の店舗として、市の西南部、瀬戸大橋線早島インターチェ

ンジから市内への入口に当たる「今」地区に、平成2年4月、オープンした。



日本三大稲荷の一つ最上稲荷

徳山支店 〒745 徳山市二番町1丁目1番地

■沿革

昭和54. 8. 6 徳山市二番町1丁目1番地に開設

■歴代営業店長

青野 和夫(54. 8. 6) — 石川 孝肇(56. 2. 1) — 星加 一成(58.11. 1) — 濱田 恭二(60. 8. 1) — 多田 建一(63. 2. 1) — 増田 博俊(平 2.8.1)

当店は、徳山市のほぼ中心地、旧国道2号線に面した所にある。営業エリアは徳山市とそれに隣接する下松市・新南陽市である。3市の世帯数は約7万世帯、人口は約20万人であり、光市を含めて瀬戸内海沿岸に連なる4市は、周南工業地帯を形成し、山口県工業地帯の中核となっている。

徳山市は、元和3年(1617)毛利支藩の徳山藩3万石の城下町として栄えた。

明治37年には、海軍煉炭所(後の海軍燃料廠)がおかれ、第1次世界大戦後はソーダ・鉄板などの工業都市として発展してきたが、太平洋戦争終戦の年に戦災で市街地の大半を焼失した。戦後は燃料廠跡に石油化学系の大手企業が次々と進出して石油コンビナートを形成、現在では瀬戸内工業地帯の一翼を担うまでに成長した。一方、工業の発展とともに商業活動も活発で、広島～下関間の最大商業都市ともなっている。

当市周辺には、瀬戸内海が一望できる大華山、四大八幡宮の一つとして広く崇敬されている遠石八幡宮、精進料理と庭園で名高い漢陽寺、周南の奥座敷として親しまれている夜市川上流の湯野温泉、人間魚雷「回天」の発射訓練基地跡など、名所・旧跡は多彩である。



瀬戸内海沿岸に連なる周南工業地帯

神戸支店 〒650 神戸市中央区三宮町1丁目4番16号

■沿革

昭和41. 3.15 神戸市生田区三宮町1丁目57番地の1に開設

41. 7.25 外国為替業務の取扱いを開始

55.12. 1 神戸市中央区三宮町1丁目4番16号と所在地名変更

■歴代営業店長

菅野 満(41. 3.15) — 上田 一雄(42. 2. 1) — 井上 良男(43. 8.27) — 渡辺 良之(45. 4. 6) — 田中 稔(49. 2. 1) — 佐々木 弘(52. 8. 1) — 由井 幸雄(53. 9. 8) — 達川 光作(55. 2.15) — 菊家 秀範(58. 7. 1) — 吉久 宏(61. 2.10) — 毛利 武(63. 2. 1) — 多田 建一(平 2.8.1)

当店は、神戸市の中心地、三宮の目抜き通りである「三宮センター街」にあり、神戸・芦屋・西宮の3市を営業エリアとして

いる。

地場産業は、鉄鋼・造船を基幹産業として倉庫・運輸などの港湾関連産業、それに

真珠・清酒・洋菓子などである。

神戸は、古い歴史と新しい文化の交錯した情緒溢れる国際港湾都市である。

神戸港は、奈良時代から瀬戸内海の重要な港の役割を果たしていたが、慶応3年(1867)の兵庫開港以来、東の横浜港と並ぶ異国文化の上陸地、開国の拠点となってきた。

当店前の「いくたロード」に立つ朱色の鳥居は、稚日女尊^{わかひめのみこと}を祀る生田神社で神功皇后の創建と伝えられている。社地の生田の森はかつての源平の古戦場である。当店の南は、明治の頃、洋館が立ち並んでいた「外国人居留地跡」である。当時の異人さんたちは山手の北野に住み、そこから「トーアロード」を通して、この居留地に通勤していたという。洋菓子店や舶来雑貨店などが



人工海上都市ポートアイランド

並ぶこの坂道は、日本における舶来文化の発祥地ともいえる。

人工海上都市「ポートアイランド」は、無人電車が走り異色のビルが林立する未来都市であり、未来文化の発信基地ともなっている。

姫路支店 〒670 姫路市忍町190番地

■沿革

昭和47.12.12 姫路市大蔵前町字後尺1番地に開設

59. 9.22 姫路市忍町190番地と所在地名変更

■歴代営業店長

相原 昭司(47.12.12) — 牧野 浩(50. 2. 1) — 田中 有男(52. 2. 1) — 加藤 治隆(53. 7. 8) — 仲田 和夫(56. 2. 1) — 曾我圭次郎(58. 2. 1) — 宇都宮勝彦(60. 8. 1) — 友澤 道滋(63. 2. 1) — 則久 秀行(平 2.2.1)

当店は、人口45万人の姫路市の中央に位置し、昭和47年の開設以来、同市を中心とした播磨一円を営業基盤としている。

姫路市は歴史も古く、114の指定文化財をもつ。なかでも姫路城は名が高く、市のシンボルともなっている。標高46メートルの姫山と、周囲の平地をうまく取り入れた典型的な平山城である。大天守は5層6階で、千鳥破風と唐破風がミックスされ、3小天守を渡櫓で連結した連立式天守は日本随一のものである。また、城櫓の立ち並ぶ姿から「白鷺城」の別名で親しまれている。

姫路市は、北に山々をおき、南に瀬戸内海を望む。気候温暖で、四季を通じ山々に

ある寺社を巡っての散策が楽しめる。祇園八坂神社の本社といわれる広嶺神社、姫路藩主榊原忠次の建立した随願寺、そして天



威風堂々の白鷺城

台宗の名刹円教寺などがある。

当地は、重厚長大産業が基盤となって発展してきたが、一方では、全国シェアの高いマッチ、鎖、にかわ、素麺などの地場

産業も存在する。今、これら異業種異分野の経営資源の有機的な融合による新製品、新技術の開発が、西播磨地区地場産業振興センターを拠点として推進されている。

大阪支店 〒541 大阪市中央区南本町4丁目2番21号

■沿革

- 昭和27. 3.12 大阪市東区安土町2丁目56番地の1・57番地の1に開設
 28. 9.14 大阪市東区南本町2丁目40番地に移転
 35. 6. 1 外国為替業務の取扱いを開始
 40. 9.20 大阪市東区南本町4丁目41番地に新築移転
 平成元. 2.13 大阪市中央区南本町4丁目2番21号と所在地名変更

■歴代営業店長

渡部 七郎(27. 3.12) — 宮内 誠恭(28. 7.10) — 矢野哲三郎(30. 5.16) — 高畑 薫幸(32. 9.30) —
 宮崎 要(34. 8.13) — 岡田 宗一(37. 4.16) — 河合 義数(38.10. 7) — 山田 惣市(40. 6.15) —
 永山 進一(43. 4. 1) — 近藤準一郎(44. 2. 1) — 丸木 賢三(45. 4. 6) — 松田 通弘(47. 2. 1) —
 水野 孫一(50. 2. 1) — 明比 文治(52.12.15) — 相原 昭司(54.10. 1) — 西山 雄三(57. 5. 1) —
 青野 和夫(60. 2. 1) — 河野 俊彦(62. 3. 1) — 松村 哲夫(平 2.2.1)

当店は、大阪の主要幹線道路でありビジネス街の中心である御堂筋にある。愛媛県と阪神地区との経済交流の緊密化という役割を担って昭和27年に開設した。

大阪は、東京と並ぶわが国経済・産業の一大中心都市である。工業では阪神工業地帯の中核をなし、また商業でも近世以来のなにわ商人の伝統を継承する商業都市として、西日本経済を支配している。しかし45年の万国博以来、特に経済の東京一極集中という時代の流れのなかで、はからずも地盤沈下を続けてきたが、花の万国博の開催、関西文化学術都市の建設、梅田や難波の再開発、さらに平成6年の開港をめざした関西新空港の建設により、再び大きく躍動しようとしている。

大阪は、京都・奈良に比べると史跡観光地は劣るとはいえ、それでも古い歴史をもつだけに世に知られているものも少なくない。大阪城跡・難波宮跡・四天王寺境内・住吉大社などがそれである。また郷土芸能の代表には文楽があり、市民に親しまれて

いる夏祭には天満天神祭がある。

情報化時代、国際化時代を迎えた今日、東京と並ぶ情報拠点大阪における当店の役割はますます大きくなってきている。



大成功に終わった花と緑の万国博

大阪北支店 〒532 大阪市淀川区十三本町1丁目15番5号

■沿革

- 昭和46. 3. 15 大阪市東淀川区十三西之町2丁目11番地の4に開設
49. 7. 22 大阪市淀川区十三本町1丁目15番5号と所在地名変更
59. 8. 21 外国為替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

吉澤 亮(46. 3. 15) — 井上 實(48. 2. 1) — 岡崎 保之(50. 8. 1) — 佐伯 賢利(53. 9. 8) —
藤原 博雅(55. 8. 1) — 白石 晴夫(57. 8. 1) — 明比 久(60. 8. 1) — 井関信次郎(63. 2. 1) —
濱田 恭二(平 1. 8. 1) — 田中 貞和(3. 8. 1)

当店は、大阪市内の第2店舗として淀川区十三に開設されたもので、営業エリアは、大阪市内北部、それに尼崎市・豊中市・吹田市・茨木市などの郊外地域一円である。

十三は、市の中心である梅田から北へ、大阪の代表河川「新淀川」を渡った所にある。

この辺りは、阪急電鉄十三駅を中心に庶民的色彩の強い町として栄えてきた所で、東西に延びる商店街のほか飲食店・遊技場・ホテルなどが集中し、大阪北部では梅田に次ぐ繁華街となっている。また古くからの交通の要衝地で、現在でも阪急電鉄神戸線・京都線・宝塚線の分岐点となっており、道路も国道・府道の主要幹線がここに集まっている。

これらを背景として、この地域には薬品関係の大工場や化学品・金属加工業などの中小零細事業所が多く、大阪市北西部工業

地帯を形成している。

近年は、隣接する新大阪地区の発展がめざましく、十三地区の集客力も低下傾向にあるが、阪急十三駅を核とした「駅前再開発計画」や関西新空港を結ぶ「海上交通アクセス」など、活性化に向けたプロジェクトが推進されており、交通の要所という十三の特性を生かした「ハイテク都市」に変わろうする日も近い。



庶民的雰囲気にもちれた十三商店街

名古屋支店 〒460 名古屋市中区錦2丁目8番1号

■沿革

- 昭和40. 9. 14 名古屋市中区園井町2丁目1番地に開設
41. 3. 30 名古屋市中区錦2丁目16番19号と所在地名変更
42. 8. 28 名古屋市中区錦2丁目8番1号に新築移転

■歴代営業店長

永山 進一(40. 9. 14) — 丸木 賢三(43. 4. 1) — 松田 通弘(45. 4. 6) — 明比 文治(47. 2. 1) —
渡辺 良之(49. 2. 1) — 日野 英彦(52. 2. 1) — 奥田 政康(53. 8. 1) — 能島 俊(55. 1. 4) —
宮川 博行(56. 8. 1) — 渡部 訓行(59. 2. 1) — 加地 弘(60. 8. 1) — 田中 運生(63. 8. 1) —

一村 巖(平 3.2.1)

当店は、人口約220万人を擁する名古屋市
のビジネス街伏見通りにあり、名古屋市、
「トヨタ」の企業城下町豊田市、トヨタ関
連企業群のある刈谷市および知立市ほか周
辺15市町を営業エリアとしている。

この地域は、戦国の天下を統一した三英
傑、信長・秀吉・家康を輩出した所で、多
くの歴史的文化遺産に恵まれている。

名古屋城は、大阪城・熊本城と並ぶ日本
三大名城の一つである。もとの城は、慶長
14年(1609)徳川家康によって築城された
もので、その姿は豪壮華麗、徳川の威光を
誇示するにふさわしいものであったとい
う。昭和20年に戦災に遭い、59年に復元さ
れたのが現在の城である。名古屋城はまた、
大天守の大棟にそそり立つ金の鯨でも有名
である。焼失前の鯨は金板を張ったもので
あったが、現在のものは青銅製18金の金箔
張りである。

熱田神宮は、三種の神器の一つ草薙^{くさなぎのつるぎ}剣
を主神とし、伊勢神宮に次ぐ社格を誇る。

名古屋市は、平成元年市制100周年に開催
した「世界デザイン博」を起爆剤として、
21世紀初頭には中部新国際空港・リニア中
央新幹線の建設、万国博覧会の開催を実現
すべく新たな飛躍を遂げようとしている。



草薙剣が主神の熱田神宮

東京支店 〒103 東京都中央区日本橋1丁目3番11号

■沿革

- 昭和29. 4. 15 東京都中央区日本橋室町1丁目5番地に開設
- 35. 4. 11 東京都中央区日本橋通1丁目6番の1に新築移転
- 35. 6. 1 外国為替業務の取扱いを開始
- 48. 1. 1 東京都中央区日本橋1丁目3番11号と所在地名変更

■歴代営業店長

渡部 七郎(29. 4. 15) — 松永 鐵一(31. 1. 1) — 矢野哲三郎(32. 9. 30) — 高畑 薫幸(34. 8. 13) —
宮内 誠恭(37. 4. 16) — 梅村源一郎(38. 10. 7) — 宮崎 要(40. 10. 29) — 向井 哲夫(41. 11. 1) —
菊池 龍一(43. 5. 20) — 近藤準一郎(45. 4. 6) — 原 研三(47. 11. 6) — 丸木 賢三(48. 11. 10) —
明比 文治(50. 2. 1) — 榊田 三郎(51. 5. 25) — 夏井 武則(53. 2. 1) — 柳原 芳史(55. 1. 4) —
山本 昇(56. 2. 1) — 由井 幸雄(57. 5. 1) — 西山 雄三(60. 2. 1) — 宮内 省三(63. 2. 1) —
達川 光作(平 2.2.1)

当店は、政治・経済・金融・文化の中心
である東京の真ん中、通称日本橋交差点の
角にある。営業基盤は、僚店新宿支店と東
京都を東西に二分したその東区域、それに
北の埼玉県、東の千葉県、南の横浜市・川
崎市を加えた広範な地域である。

当店の周辺には、至近距離にわが国金融
界の総本山日本銀行、日本のウォール街と
いわれる兜町、官庁街の霞ヶ関、超一流オ
フィス街の並ぶ大手町・丸の内があり、金
融の自由化、国際化が進むなかで、情報の
収集や営業活動をするには絶好の場所であ

る。

日本橋界限には、都銀をはじめとして銀行・証券会社・生保・損保のオフィスが、金融戦争を象徴するかのごとくに密集し、また当店の近くには、東急・高島屋・三越と大手のデパートが顔を揃えており、当店の前を毎日数十万人の人が行き来しているのは、まさに東京ならではの光景である。

すぐそばの日本橋は慶長8年(1603)に架けられたもので、翌9年に江戸幕府が定めた東海道・中山道・日光道・奥州道・甲州道の五街道の起点となった。現在の橋は明治44年に架けられた石のアーチ橋で、そ



首都の真ん中日本橋界限

の北詰めにはいまも里程元標が残っている。

新宿支店 〒160 東京都新宿区西新宿1丁目26番1号

■沿革

- 昭和48.12.7 東京都新宿区西新宿7丁目7番27号に開設
- 51.6.7 東京都新宿区西新宿1丁目26番1号に移転
- 51.7.1 外国為替業務の取扱いを開始

■歴代営業店長

宇都宮一二三(48.12.7) — 本田 博(50.8.1) — 西山 巖(53.2.1) — 田中 有男(56.2.1) — 河野 俊彦(58.2.1) — 門田 捷(60.2.1) — 松浦 禎紀(63.4.1) — 徳田 榮作(平 3.8.1)

当店は、昭和48年に当行で100番目の店舗として誕生した。その後、超高層ビル群の出現とともに新宿西口一帯が大変ぼうを遂げるさなか、51年の安田火災本社ビル竣工と同時に、同ビルに移転し現在に至っている。営業エリアは、新宿区を中心に都内全域に及び、取引先も実に広範囲でバラエティに富んでいる。

新宿という地名の由来は、五街道の一つである甲州街道と、青梅街道の分岐点(現新宿御苑界限)に、当時信濃国高遠の城主内藤氏の下屋敷があり、元禄11年(1698)、街道を往来する旅人にその屋敷の一部を宿舎として提供した事実にさかのぼる。新しくできた宿場という意味から「新宿」(内藤新宿)と呼ばれるようになったという。

当店が入居している安田火災本社ビル42階の「安田火災東郷青児美術館」には、東

郷青児をはじめルノワール、ゴッホ、ゴーギャンらの名画が展示されており、なかでもゴッホの「ひまわり」は、彼が生涯に描いた「ひまわり」12点のうち7番目のアル



超高層ビルが集まる西新宿

ル時代の作品で世界的に名高いものである。

西新宿の新都庁舎完成を機に、当地が日

本の政治経済の枢要地となることが予想され、当店の果たすべき役割は誠に重大である。

ニューヨーク支店

One World Trade Center, Suite 7923 New York, N. Y.
10048, U. S. A.

■沿革

昭和61. 7. 1 45 Broadway, 31st Floor, New York, N. Y. 10006, U. S. A. にニューヨーク駐在員事務所として開設

平成元. 4. 26 支店に昇格し、One World Trade Center, Suite 7923 New York, N. Y. 10048, U. S. A. に移転

■歴代営業店長

^{所長}大野 茂(61. 7. 1) — ^{支店長}大野 茂(平1.4.26) — 吉川 博理(3. 2. 1)

当店は、1989年(平成元)4月26日に、ニューヨークに誕生した当行最初の海外支店である。

ニューヨーク市は、マンハッタン・ブルックリン・クィーンズ・ブロンクス・スタッテン島の5区から成る人口約1,800万人のアメリカ最大の都市である。そのなかでマンハッタン区は、東のイースト川と西のハドソン川に挟まれた、南北20キロメートル、東西最大4キロメートルの細長い島で、超高層ビルのひしめくビジネス街は、その島の南半分に集まっている。当店は、ロウアー・マンハッタンの西側にあるニューヨークの最高層ビル「世界貿易センター」(110階建て)の79階にあり、眼下に自由の国アメリカのシンボル「自由の女神像」が見下ろせる。近くには、ウォール街・ニューヨーク証券取引所・連邦準備銀行・チェースマンハッタン銀行の本店などがある。マンハッタンは、今でこそ文字どおり金融・経

済・文化の中心地となっているが、約380年前の17世紀の初めは、インディアンが住む原生林のあった所で、当時オランダ人がこの島を24ドルで買った話は有名である。マンハッタンの主な名所には、メトロポリタン美術館・目抜き通り5番街・劇場街ブロードウェイ・国連本部などがある。



アメリカのシンボル「自由の女神像」

ロンドン駐在員事務所

Level 6, City Tower, 40 Basinghall Street, London
EC2V 5DE, U. K.

■沿革

昭和60. 4. 11 Level 6, City Tower, 40 Basinghall Street, London EC2V 5DE, U. K. に開設

■歴代所長

遠藤 太志(60. 4. 11) — 菊池 和夫(63. 4. 1)

当事務所は、当行初の海外駐在員事務所として1985年（昭和60）4月にオープンした。

ロンドン市は、英国の政治・経済・文化・交通の中心地となっており、人口約700万人を有する世界最大級の都市である。緯度のうえでは、サハリン（樺太）と同位置にあるものの、メキシコ湾流の影響で気候は比較的温暖であり、1年を通じて寒暖の差が少ない。

当事務所の入居している20階建てのシティタワーは、伝統あるロンドンの金融街シティの一角にある。シティとは、テムズ川北岸にある総面積わずか1平方マイル（約2.6平方キロメートル）の特別区で、歴史をさかのぼれば、紀元43年にローマ人が海を渡り最初に住みついた所である。外敵の侵入を防ぐために壁を周囲にめぐらせ、地名をロンディニウムと名づけた。これがのちにロンドンと呼ばれるようになったもので、シティはロンドン発祥の地である。ここには657行の外国銀行が進出しており、国

際金融、外国為替、債券市場では世界最大である。また、保険のほか株式、海運、金、石油、各種1次産品などの取引所も集積しており、昼間の人口は約50万人といわれる。

ソ連・東欧の改革、EC統合と、欧州が大きく揺れ動いているなかで、当事務所は英国だけでなく欧州の拠点として、各国の政治・経済・金融の動きをウォッチし、国際金融業務の取次ぎや情報収集を行っている。



ロンドンの金融街

香港駐在員事務所

Unit 3310, 33rd Floor, One Pacific Place, 88 Queensway, Hong Kong

■沿革

平成元. 6. 7 Unit 3310, 33rd Floor, One Pacific Place, 88 Queensway, Hong Kongに開設

■歴代所長

柴尾 義弘（平 1.6.7）— 池見 祐輔（4. 1.22）

当事務所は、1989年（平成元）6月7日に、ロンドン駐在員事務所、ニューヨーク支店につぐ第3番目の海外拠点として設立された。場所は、香港の金融街セントラル地区のワン・パシフィック・プレースビル33階にある。

香港は、5年後の1997年に、150年間の長い英国植民地の歴史を閉じて中国に返還される。しかし、返還後50年間は、軍事・外交を除き、現在と同じ社会制度が保証され

ており、これまでどおり東南アジアの経済・金融の中心地として繁栄することが約束されている。このため、香港は近年、華南地方（広東省）との関係を強め、深圳経済特区、珠海経済特区だけでなく、各地に単独または中国との合弁で工場建設を進め、豊富な人的・物的資源を活用した生産活動を行っている。香港が広東省における経済の省都と呼ばれているゆえんである。

中国への返還後も、香港の地位はゆるぎ

ないものと考えられていることから、1992年1月に伊予銀行初の現地法人「伊予財務（香港）有限公司」（社長柴尾義弘）を同オフィスにおいて開業した。

これにより、従来の東南アジア・中国情報の収集・提供業務に加えて取引先の外債発行・引受業務、進出企業への金融支援等が行えることになった。

当事務所および現地法人ともに、今後活動を推進していくなかで、国内取引先のアジア進出のサポート基地となることを目指している。



事務所および現地法人が入居しているビル（中央）

廃止店舗一覧 (廃止年次順)

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
桜井栄町 出張所	越智郡桜井町大字桜井甲1406番地	大10. 2. 1 五十二銀行桜井出張所として越智郡桜井町大字桜井甲1406番地に開設 昭12.12.10 合併により松山五十二銀行桜井出張所となる。 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行桜井栄町出張所となる。	昭16.10.31	業務継承 桜井支店
菊間南 出張所	越智郡菊間町大字浜甲1665番地	大13.7. 5 五十二銀行菊間出張所として越智郡菊間町大字浜甲1665番地に開設 昭12.12.10 合併により松山五十二銀行菊間出張所となる。 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行菊間南出張所となる。	昭16.10.31	業務継承 菊間支店
丹原中町 出張所	周桑郡丹原町大字丹原163番地	昭16. 9. 1 合併により今治商業銀行丹原出張所を伊豫合同銀行丹原中町出張所として継承	昭16.10.31	業務継承 丹原支店
三芳北 出張所	周桑郡三芳村	昭16. 9. 1 合併により今治商業銀行三芳出張所を伊豫合同銀行三芳北出張所として継承	昭16.10.31	業務継承 三芳出張所 (昭21. 4.11三芳支店に昇格)
郡中北 出張所	伊予郡郡中町大字灘町29の1	昭16. 9. 1 合併により今治商業銀行郡中出張所を伊豫合同銀行郡中北出張所として継承	昭16.10.31	業務継承 郡中支店
上灘北 出張所	伊予郡上灘町大字上灘甲5743番地	昭16. 9. 1 合併により豫州銀行上灘出張所を伊豫合同銀行上灘北出張所として継承	昭16.10.31	業務継承 上灘出張所 (昭21. 4.11上灘支店、昭34. 5. 1上灘出張所、昭59. 4. 1上灘支店)
一番町 代理店	松山市大街道3丁目88番地	昭16. 9. 1 合併により今治商業銀行一番町代理店を伊豫合同銀行一番町代理店として継承	昭16.10.31	業務継承 大街道出張所 (昭17. 9.30廃止、大街道支店に継承)
壬生川 本町支店	周桑郡壬生川町大字壬生川383番地・386番地	大12.11. 5 合併により伊豫周桑銀行壬生川支店を五十二銀行壬生川支店として継承 昭12.12.10 合併により松山五十二銀行壬	昭17. 2.28	業務継承 壬生川支店

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
		生川支店となる。 昭16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行壬生川本町支店となる。		
砥部南支店	伊予郡砥部町大字大南甲130番地	昭16. 9. 1 合併により今治商業銀行砥部支店を伊豫合同銀行砥部南支店として継承	昭17. 2.28	業務継承 砥部支店
津布里支店	西宇和郡三瓶町大字津布里5番地第4	昭16. 9. 1 合併により豫州銀行三瓶支店を伊豫合同銀行津布里支店として継承	昭17. 2.28	業務継承 三瓶支店
大街道出張所	松山市大街道2丁目18番地	大 3. 6. 1 五十二銀行大街道出張所として松山市大街道2丁目18番地に開設 昭 6.12. 8 店舗新築のため松山市大街道2丁目37番地に移転（仮営業所） 7. 2.29 新築復帰 12.12.10 合併により松山五十二銀行大街道出張所となる。 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行大街道出張所となる。	昭17. 9.30	業務継承 大街道支店
宇和島中支店	宇和島市堅新町20番地	大 7.12. 2 五十二銀行宇和島支店として宇和島市堅新町19番地に開設 昭 7. 3.22 宇和島市堅新町20番地に新築移転 12.12.10 合併により松山五十二銀行宇和島支店となる。 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行宇和島中支店となる。	昭19. 5.13	業務継承 宇和島支店
八幡浜新町支店	八幡浜市大字船場256番地の4	大 8. 9.11 五十二銀行八幡浜支店として西宇和郡八幡浜町大字船場256番地の4に開設 昭10. 2.11 八幡浜市大字船場256番地の4と所在地名変更 12.12.10 合併により松山五十二銀行八幡浜支店となる。 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行八幡浜新町支店となる。	昭19. 5.13	業務継承 八幡浜支店
常盤町出張所	今治市大字今治村字常盤町433番地	大 5. 6. 5 五十二銀行常盤町出張所として今治市大字今治村字常盤町	昭19. 5.13	業務継承 今治南支店

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
末広町出張所	松山市湊町4丁目70番地の5	<p>433番地に開設</p> <p>昭12.12.10 合併により松山五十二銀行常盤町出張所となる。</p> <p>16.9.1 合併により伊豫合同銀行常盤町出張所となる。</p> <p>大11.11.2 五十二銀行湊町出張所として松山市湊町4丁目70番地の5に開設</p> <p>昭12.12.10 合併により松山五十二銀行湊町出張所となる。</p> <p>16.9.1 合併により伊豫合同銀行末広町出張所となる。</p>	昭19.5.13	(昭21.9.30廃止、常盤町支店に継承、昭33.6.23今治支店に継承)
柴町出張所	松山市三津栄町38番地の1	<p>昭16.9.1 合併により今治商業銀行三津浜支店を伊豫合同銀行藤井町支店として継承 (所在地 松山市大字藤井町26番地)</p> <p>17.3.1 松山市大字栄町38番地の1に移転し柴町出張所と名称変更</p> <p>17.9.1 松山市三津栄町38番地の1と所在地名変更</p>	昭19.5.13	業務継承 三津浜支店
郡中南出張所	伊予郡郡中町大字灘町39番地第2	<p>昭16.9.1 合併により豫州銀行郡中支店を伊豫合同銀行郡中南支店として継承 (所在地 伊予郡郡中町大字灘町39番地第2)</p> <p>17.3.1 郡中南出張所と名称変更</p>	昭19.5.13	業務継承 郡中支店
吉田北出張所	北宇和郡吉田町大字東小路148番地の1	<p>昭16.9.1 合併により松山五十二銀行吉田支店を伊豫合同銀行吉田桜町支店として継承 (所在地 北宇和郡吉田町大字東小路148番地の1)</p> <p>17.3.1 吉田北出張所と名称変更</p>	昭19.5.13	業務継承 吉田支店
今治中浜支店	今治市大字中浜町21番地	<p>明18.2.5 第五十二国立銀行今治支店として今治市大字中浜町21番地に開設</p> <p>30.7.1 国立銀行営業満期により五十二銀行今治支店となる。</p>	昭19.5.31	業務継承 今治支店 (昭33.6.23中浜支店に継承)

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
西条栄町支店	西条市栄町258番地	昭6.4.一 今治市大字中浜町21番地に新築	昭19.5.31	業務継承 西条支店
		12.12.10 合併により松山五十二銀行今治支店となる。		
		16.9.1 合併により伊豫合同銀行今治中浜支店となる。		
(旧)新居浜東支店	新居浜市西町甲986番地	明39.10.1 今治商業銀行西条支店として新居郡西条町栄町258番地に開設	昭19.6.30	業務継承 新居浜支店
		昭16.4.29 西条市栄町258番地と所在地名変更		
		16.9.1 合併により伊豫合同銀行西条栄町支店となる。		
三島東支店	宇摩郡三島町1076番地	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行三島支店を伊豫合同銀行三島東支店として継承 (所在地 宇摩郡三島町1076番地)	昭20.3.16	業務継承 三島支店
壬生川西支店	周桑郡壬生川町大字壬生川79番地	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行壬生川支店を伊豫合同銀行壬生川西支店として継承 (所在地 周桑郡壬生川町大字壬生川79番地)	昭20.3.16	業務継承 壬生川支店
郡中北支店	伊予郡郡中町大字灘町字東29番地の1・2	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行郡中支店を伊豫合同銀行郡中北支店として継承 (所在地 伊予郡郡中町大字灘町字東29番地の1・2)	昭20.3.16	業務継承 郡中支店
久万本町支店	上浮穴郡久万町大字久万町403番地	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行久万支店を伊豫合同銀行久万本町支店として継承 (所在地 上浮穴郡久万町大字久万町403番地)	昭20.3.16	業務継承 久万支店

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
大洲西支店	喜多郡大洲町大字大洲字本町1丁目北25番地第3・26番地第1	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行大洲支店を伊豫合同銀行大洲西支店として継承 (所在地 喜多郡大洲町大字大洲字本町1丁目北25番地第3・26番地第1)	昭20.3.16	業務継承 大洲支店(昭56.5.11大洲本町支店に継承)
新町支店	八幡浜市1469番地の3	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行八幡浜支店を伊豫合同銀行新町支店として継承 (所在地 八幡浜市1469番地の3)	昭20.3.16	業務継承 八幡浜支店
道後湯之前特別支店	松山市1526番地	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行道後支店を伊豫合同銀行道後湯之前特別支店として継承 (所在地 松山市1526番地)	昭20.3.16	業務継承 道後支店
三穂町特別支店	松山市三穂町35番地	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行三津浜支店を伊豫合同銀行三穂町特別支店として継承 (所在地 松山市三穂町35番地)	昭20.3.16	業務継承 三津浜支店
桜町特別支店	北宇和郡吉田町大字東小路甲130番地	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行吉田支店を伊豫合同銀行桜町特別支店として継承 (所在地 北宇和郡吉田町大字東小路甲130番地)	昭20.3.16	業務継承 吉田支店
今出出張所	松山市大字西垣生1492番地	昭16.2.8 合併により(旧)伊豫銀行今出支店を松山五十二銀行今出出張所として継承 (所在地 温泉郡垣生村大字西垣生1492番地) 16.9.1 合併により伊豫合同銀行今出出張所となる。 19.4.1 松山市大字西垣生1492番地と所在地名変更	昭20.3.16	業務継承 土橋出張所 (昭20.6.1土橋支店に昇格、昭21.11.20廃止、大手町支店に継承、昭47.12.4松山駅前支店に継承)
宇和島出張所	東宇和郡宇和町大字卯之町1番耕地1535番地	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行宇和町出張所を伊豫合同銀行宇和町出張所として継承	昭20.3.16	業務継承 卯之町支店

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
宮通特別出張所	新居浜市甲881番地の2	(所在地 東宇和郡宇和町大字卯之町1番耕地1535番地) 昭17.11.2 伊豫合同銀行宮通特別出張所として新居浜市甲881番地の2に開設	昭20.3.16	業務継承 新居浜宮前支店 (昭21.10.19廃止、新居浜支店に継承)
御荘西支店	南宇和郡城辺町字城山甲1974番地第2	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行御荘支店を伊豫合同銀行御荘西支店として継承 (所在地 南宇和郡城辺町字城山甲1974番地第2)	昭20.9.29	業務継承 御荘支店
今治本町支店	今治市大字本町124番地	大12.12.25 五十二銀行今治本町出張所として今治市大字本町124番地に開設 昭12.12.10 合併により松山五十二銀行今治本町出張所となる。 16.9.1 合併により伊豫合同銀行今治本町出張所となる。 20.6.1 支店に昇格	昭21.3.30	業務継承 今治支店 (昭33.6.23中浜支店に継承)
鶴島町支店	宇和島市鶴島町43番地の第2	昭16.9.1 合併により豫州銀行鶴島町支店を伊豫合同銀行鶴島町支店として継承 (所在地 宇和島市鶴島町43番地の第2)	昭21.3.30	業務継承 宇和島支店
木屋町出張所	松山市木屋町3丁目70番地	昭16.2.8 合併により(旧)伊豫銀行古町支店を松山五十二銀行木屋町出張所として継承 (所在地 松山市木屋町3丁目70番地) 16.9.1 合併により伊豫合同銀行木屋町出張所となる。	昭21.3.30	業務継承 本町支店
旭町支店	今治市大字蔵敷1203番地	昭16.9.1 合併により今治商業銀行旭町出張所を伊豫合同銀行旭町出張所として継承 (所在地 今治市大字蔵敷1204番地第4) 19.6.1 支店に昇格	昭21.9.30	業務継承 常盤町支店 (昭33.6.23今治支店に継承)

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
(旧)今治南支店	今治市大字今治村甲412番地	20. 6. 1 今治市大字蔵敷1203番地に移転 昭16. 9. 1 合併により今治商業銀行南支店を伊豫合同銀行今治南支店として継承 (所在地 今治市大字今治村甲412番地)	昭21. 9.30	業務継承 常盤町支店 (昭33. 6.23今治支店に継承)
榎町支店	松山市榎町8・9・10番地	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行本店を伊豫合同銀行榎町支店として継承 (所在地 松山市榎町8・9・10番地)	昭21.10.14	業務継承 本店営業部
新居浜宮前支店	新居浜市字初穂甲619番地の第4	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行新居浜支店を伊豫合同銀行新居浜宮前支店として継承 (所在地 新居浜市字初穂甲619番地の第4)	昭21.10.19	業務継承 新居浜支店
土橋支店	松山市萱町1丁目57番地	昭16. 9. 1 合併により松山五十二銀行土橋出張所を伊豫合同銀行土橋出張所として継承 (所在地 松山市萱町1丁目57番地) 20. 6. 1 支店に昇格	昭21.11.20	業務継承 大手町支店 (昭47.12. 4松山駅前支店に継承)
堅新町支店	宇和島市堅新町29番地	昭19.12.15 合併により伊豫相互貯蓄銀行宇和島支店を伊豫合同銀行堅新町支店として継承 (所在地 宇和島市堅新町29番地)	昭22. 1.31	業務継承 追手支店
二名出張所	北宇和郡二名村大字大内甲162番地第2	昭16. 9. 1 合併により豫州銀行二名出張所を伊豫合同銀行二名出張所として継承 (所在地 北宇和郡二名村大字大内甲162番地第2)	昭22. 1.31	業務継承 三間支店 (昭44. 6.30廃止、宇和島・近永両支店に継承)
富田出張所	越智郡富田村大字喜田村627番地	昭16. 9. 1 合併により今治商業銀行富田代理店を伊豫合同銀行富田代理店として継承 (所在地 越智郡富田村大字	昭22. 9.30	業務継承 常盤町支店 (昭33. 6.23今治支店に継承)

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
大井出張所	越智郡大井村大字宮脇甲1464番地の2	喜田村627番地) 17.11.2 出張所に昇格 昭16.9.1 合併により今治商業銀行大井出張所を伊豫合同銀行大井出張所として継承 (所在地 越智郡大井村大字宮脇甲1464番地の2)	昭22.9.30	業務継承 波止浜支店
高浜出張所	松山市高浜町1丁目2232番地	明39.9.1 五十二銀行高浜出張所として温泉郡新浜村字高浜1424番地に開設 昭12.12.10 合併により松山五十二銀行高浜出張所となる。 16.9.1 合併により伊豫合同銀行高浜出張所となる。 17.9.1 松山市高浜町1丁目1424番地と所在地名変更 17.11.2 松山市高浜町1丁目2232番地に移転	昭23.3.20	業務継承 三津浜支店
狩江出張所	東宇和郡狩江村大字狩浜3番耕地14第1	昭13.2.1 合併により宇和卯之町銀行狩江出張所を豫州銀行狩江出張所として継承 (所在地 東宇和郡狩江村大字狩浜3番耕地14第1) 16.9.1 合併により伊豫合同銀行狩江出張所となる。	昭23.3.20	業務継承 依津支店 (昭24.8.10廃止、卯之町支店に継承)
魚成支店	東宇和郡魚成村大字魚成8番耕地222番地の1	大11.1.15 宇和商業銀行魚成出張所として東宇和郡魚成村大字魚成8番耕地222番地の1に開設 12.3.1 支店に昇格 昭6.12.6 合併により宇和卯之町銀行魚成支店となる。 13.2.1 合併により豫州銀行魚成支店となる。 16.9.1 合併により伊豫合同銀行魚成支店となる。	昭23.3.31	業務継承 野村支店
南野津代理店	大分県大野郡南野津村大字吉田196番地の1	昭16.9.1 合併により豫州銀行南野津代理店を伊豫合同銀行南野津代理店として継承	昭23.9.4	業務継承 野津市代理店 (昭25.12.30廃止、

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
喜須来支店	西宇和郡喜須来村大字赤木2番耕地170番地	<p>(所在地 大分県大野郡南野津村大字吉田196番地の1)</p> <p>明27. 5.29 漸成銀行本店として西宇和郡喜須来村大字赤木2番耕地170番地に開設</p> <p>昭3. 9. 1 八幡浜商業銀行に吸収合併 9. 8.20 合併により豫州銀行喜須来支店となる。</p> <p>16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行喜須来支店となる。</p>	昭24. 8.10	業務継承 川之石支店 白杵支店に継承)
新谷支店	喜多郡新谷村大字新谷甲102番地	<p>明29. 8.14 新谷銀行本店として喜多郡新谷村大字新谷甲102番地に開設</p> <p>昭3.11.15 合併により大洲銀行新谷支店となる。</p> <p>9. 8.20 合併により豫州銀行新谷支店となる。</p> <p>16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行新谷支店となる。</p>	昭24. 8.10	業務継承 大洲支店 (昭56. 5.11大洲本町支店に継承)
山田支店	東宇和郡石城村大字山田1番耕地169番地	<p>明30. 4. 5 穂積銀行本店として東宇和郡石城村大字山田1番耕地169番地に開設</p> <p>昭9. 9. 1 合併により宇和卯之町銀行山田支店となる</p> <p>13. 2. 1 合併により豫州銀行山田支店となる。</p> <p>16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行山田支店となる。</p>	昭24. 8.10	業務継承 卯之町支店
俵津支店	東宇和郡俵津村2番耕地997番地の第1	<p>明33. 7. 1 株式種生会社俵津支店として東宇和郡俵津村2番耕地997番地の第1に開設</p> <p>大8. 4.11 商号変更により卯之町銀行俵津支店となる。</p> <p>昭6.12. 6 合併により宇和卯之町銀行俵津支店となる。</p> <p>13. 2. 1 合併により豫州銀行俵津支店となる。</p> <p>16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行俵津支店となる。</p>	昭24. 8.10	業務継承 卯之町支店

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
町見支店	西宇和郡町見村大字九町1番耕地847番地の第1	大元.12.1 西南銀行町見出張所として西宇和郡町見村大字九町1番耕地847番地の第1に開設 昭2.1.16 支店に昇格 5.1.25 合併により第二十九銀行町見支店となる。 9.8.20 合併により豫州銀行町見支店となる。 16.9.1 合併により伊豫合同銀行町見支店となる。	昭24.8.10	業務継承 伊方支店
土居支店	東宇和郡土居村大字土居4番耕地91番地	大8.7.29 卯之町銀行土居支店として東宇和郡土居村大字土居4番耕地91番地に開設 昭6.12.6 合併により宇和卯之町銀行土居支店となる。 9.9.1 穂積銀行土居支店を併合 13.2.1 合併により豫州銀行土居支店となる。 16.9.1 合併により伊豫合同銀行土居支店となる。	昭24.8.10	業務継承 野村支店
氷見支店	西条市氷見町2番耕地1783番地	大12.3.1 今治商業銀行氷見出張所として新居郡氷見町2番耕地1783番地に開設 昭16.4.29 西条市氷見町2番耕地1783番地と所在地名変更 16.9.1 合併により伊豫合同銀行氷見出張所となる。 19.6.1 支店に昇格	昭24.8.10	業務継承 小松支店
加屋出張所	喜多郡白瀧村大字加屋甲31番地の第1	昭16.9.1 合併により豫州銀行加屋出張所を伊豫合同銀行加屋出張所として継承 (所在地 喜多郡白瀧村大字加屋甲31番地の第1)	昭24.8.10	業務継承 八多喜支店(昭38.9.30廃止、中村支店に継承、昭56.5.11大洲支店に継承)
弓削出張所	越智郡弓削村大字下弓削甲1984番地	昭18.2.15 伊豫合同銀行弓削出張所として越智郡弓削村大字下弓削甲1984番地に開設	昭24.8.10	業務継承 伯方支店
双岩出張所	西宇和郡双岩村字若山	昭21.2.25 伊豫合同銀行双岩出張所として西宇和郡双岩村字若山に開設	昭24.8.10	業務継承 八幡浜支店

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
千丈出張所	八幡浜市字松柏内559番地	昭21. 2. 25 伊豫合同銀行千丈出張所として八幡浜市字松柏内559番地に開設	昭24. 8. 10	業務継承 八幡浜支店
柴原代理店	大分県大野郡千歳村大字前田1087の4番地	昭13. 2. 1 合併により宇和卯之町銀行柴原代理店を豫州銀行柴原代理店として継承 (所在地 大分県大野郡千歳村大字前田1087の4番地) 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行柴原代理店となる。	昭24. 9. 30	業務継承 三重支店 (昭45. 1. 31廃止、大分支店に継承)
安浦支店	広島県呉市内海町1539番地	大 7. 8. 17 大洲商業銀行内海支店として広島県呉市内海町1539番地に開設 11. 8. 1 合併により大洲銀行内海出張所となる。 昭 9. 8. 20 合併により豫州銀行内海出張所となる。 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行内海出張所となる。 21. 8. 1 支店に昇格、安浦支店と名称変更	昭25. 11. 30	業務継承 仁方支店
興居島出張所	温泉郡興居島村大字泊	昭16. 2. 8 合併により(旧)伊豫銀行味生支店を松山五十二銀行味生出張所として継承 (所在地 松山市大字南斎院993番地) 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行味生出張所となる。 17. 9. 1 松山市南斎院町993番地と所在地名変更 22. 10. 1 温泉郡興居島村大字泊に移転し興居島出張所と名称変更	昭25. 12. 30	業務継承 三津浜支店
真穴出張所	西宇和郡真穴村大字穴井3番耕地559番地	昭16. 9. 1 合併により豫州銀行真穴出張所を伊豫合同銀行真穴出張所として継承 (所在地 西宇和郡真穴村大字穴井3番耕地559番地)	昭25. 12. 30	業務継承 八幡浜支店

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
多田 代理店	東宇和郡多田村大字 東多田 2 番耕地603 番地	明30.12.10 多田銀行本店として東宇和郡 多田村大字東多田 2 番耕地 603番地に開設 昭 3. 2. 1 合併により卯之町銀行多田支 店となる。 6.12. 6 合併により宇和卯之町銀行多 田支店となる。 13. 2. 1 合併により豫州銀行多田支店 となる。 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行多田 支店となる。 23. 1. 9 廃止、業務を卯之町支店に継 承 23. 2. 4 多田代理店として再開設	昭25.12.30	業務継承 卯之町支 店
佐志生 代理店	大分県北海部郡佐志 生村6539番地	昭22.12.31 伊豫合同銀行佐志生代理店と して大分県北海部郡佐志生村 6539番地に開設	昭25.12.30	業務継承 白杵支店
野津市 代理店	大分県大野郡野津市 村大字野津市	昭23. 3.19 伊豫合同銀行野津市代理店と して大分県大野郡野津市村大 字野津市に開設	昭25.12.30	業務継承 白杵支店
広小路 支店	宇和島市大字広小路 字広小路通19番地の 2	昭25.11.30 日本勧業銀行宇和島支店を継 承し伊豫合同銀行広小路支店 として宇和島市大字広小路字 広小路通19番地の2に開設	昭29. 5.31	業務継承 追手支店
神山支店	八幡浜市大字五反田 1 番耕地143番地第2	明30. 7. 2 五反田銀行本店として西宇和 郡神山村大字五反田 1 番耕地 143番地第 2 に開設 昭 3. 7. 1 西宇和郡神山村大字五反田 1 番耕地143番地第 2 と所在地 名変更 5. 1. 4 買収により八幡浜商業銀行神 山支店となる。 9. 8.20 合併により豫州銀行神山支店 となる。 10. 2.11 八幡浜市大字五反田 1 番耕地 143番地第 2 と所在地名変更 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行神山 支店（預金専門店）となる。 23. 1. 6 出張所に変更 26. 1. 4 支店（預金専門店）に昇格	昭31. 3.31	業務継承 矢野町支 店

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
盛口支店	越智郡上浦村大字井口丙369番地	昭17. 5. 1 伊豫合同銀行盛口特別出張所として越智郡盛口村大字井口丙369番地に開設 23.12.10 普通出張所に昇格 25.10. 1 支店に昇格 30. 3.31 越智郡上浦村大字井口丙369番地と所在地名変更	昭31. 5.31	業務継承 宮浦支店
久良臨時出張所	南宇和郡城辺町久良3406番地	昭33. 4. 1 伊豫銀行久良臨時出張所として南宇和郡城辺町久良3406番地に開設	昭33. 6.30	業務継承 御荘支店
西条本通支店	西条市大町字弁財天681番地の1	昭 2. 1.30 伊豫相互貯蓄銀行西条出張所として新居郡西条町大町字弁財天681番地の5に開設 3. 3.15 支店に昇格 16. 4.29 西条市大町字弁財天681番地の5と所在地名変更 19.12.15 合併により伊豫合同銀行西条本通支店となる。 25.11.20 西条市大町字弁財天681番地の1に移転	昭34.12.31	業務継承 西条支店
石根支店	周桑郡小松町大字大頭甲5番地の1	明39. 4.一 伊豫周桑銀行行員派出所として周桑郡石根村大字大頭甲2番地に開設 大12.11. 5 合併により五十二銀行石根出張所となる。 昭12.12.10 合併により松山五十二銀行石根出張所となる。 16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行石根出張所となる。 23.10. 1 周桑郡石根村大字大頭甲5番地の1に移転 26. 1. 4 支店（預金専門店）に昇格 30. 4.25 周桑郡小松町大字大頭甲5番地の1と所在地名変更 33. 1. 4 普通支店に昇格	昭38. 9.30	業務継承 小松支店
八多喜支店	大洲市八多喜町甲55番地	大 2. 8. 1 新谷銀行八多喜出張所として喜多郡栗津村大字八多喜甲39番地に開設 6. 4.30 喜多郡栗津村大字八多喜甲97番地に移転 7. 9.18 支店に昇格	昭38. 9.30	業務継承 中村支店 (昭56. 5.11大洲支店に継承)

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
白浜支店	八幡浜市字白浜1579番地の39	昭 3.11.15 合併により大洲銀行八多喜支店となり喜多郡粟津村大字八多喜甲55番地に移転	昭44. 3.31	業務継承 八幡浜支店
		9. 8.20 合併により豫州銀行八多喜支店となる。		
		16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行八多喜支店となる。		
		29. 9. 1 大洲市八多喜町甲55番地と所在地名変更		
三間支店	北宇和郡三間町大字宮野下甲686番地・687番地	昭19. 7.10 伊豫合同銀行白浜出張所として八幡浜市字白浜1415番地に開設	昭44. 6.30	業務継承 宇和島支店・近永支店
		25.10. 1 支店に昇格		
		37. 9.24 八幡浜市字白浜1579番地の39に新築移転		
		明31. 2. 1 穂積銀行三間支店として北宇和郡三間町大字宮野下甲686番地・687番地に開設		
		昭 6.12. 6 合併により宇和卯之町銀行三間出張所となる。		
三重支店	大分県大野郡三重町大字市場1276番地	13. 2. 1 合併により豫州銀行三間支店となる。	昭45. 1.31	業務継承 大分支店
		16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行三間支店となる。		
		29.10.10 北宇和郡三間町大字宮野下甲686番地・687番地と所在地名変更		
		大 8. 8. 1 卯之町銀行三重支店として大分県大野郡三重町大字市場1276番地に開設		
		昭 6.12. 6 合併により宇和卯之町銀行三重支店となる。		
(旧)城南支店	宇和島市佐伯町24番地	13. 2. 1 合併により豫州銀行三重支店となる。	昭45. 9.30	業務継承 宇和島支店
		16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行三重支店となる。		
		昭21. 2.25 伊豫合同銀行佐伯町出張所として宇和島市佐伯町34番地に開設		
		25.10. 1 支店に昇格、城南支店と名称変更		

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
仕七川出張所	上浮穴郡美川村大字東川1番耕地20番地の第1	25.11.30 預金専門店に変更 30.4.1 普通支店に昇格 30.7.12 宇和島市佐伯町24番地に移転 昭32.12.27 伊豫銀行仕七川出張所（期限付店舗）として上浮穴郡美川村大字東川1番耕地20番地の第1に開設 37.9.14 普通出張所に昇格 38.4.22 上浮穴郡美川村大字東川1番耕地20番地の第1に新築	昭45.9.30	業務継承 久万支店
大洲支店鹿ノ川出張所	喜多郡肱川町大字山鳥坂字鹿野川甲1160番地第3	大 8.11.7 (旧)大洲銀行鹿野川派出所として喜多郡肱川村大字山鳥坂甲1163番地に開設 15.12.1 大洲銀行鹿野川派出所となる。 昭 9.8.20 合併により豫州銀行鹿ノ川出張所となる。 16.9.1 合併により伊豫合同銀行鹿ノ川出張所となる。 23.5.25 廃止 28.9.11 喜多郡肱川村大字山鳥坂甲1163番地に伊豫銀行大洲支店鹿ノ川出張員詰所として再開設 30.6.20 出張所（期限付特殊店舗）に昇格 34.4.1 普通出張所に昇格 34.11.3 喜多郡肱川町大字山鳥坂甲1163番地と所在地名変更 38.3.27 店舗新築のため喜多郡肱川町大字山鳥坂甲1160番地の2に移転（仮営業所） 38.9.25 新築復帰 39.4.3 喜多郡肱川町大字山鳥坂字鹿野川甲1160番地第3に所在地名変更	昭46.11.30	業務継承 大洲支店（昭56.5.11大洲本町支店に継承）
本店営業部三番町出張所	松山市三番町4丁目12番地1	昭27.10.16 伊豫銀行三番町出張所として松山市三番町52番地に開設 28.10.21 松山市三番町4丁目12番地1に新築移転 41.12.1 本店営業部三番町出張所に変更	昭47.9.30	業務継承 本店営業部

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
日土支店	八幡浜市日土町字西ノ前2番耕地245番地の4	明40. 3.25 實業銀行日土出張所として西宇和郡日土村1番耕地236番地に開設	昭51. 9.30	業務継承 八幡浜支店
		43. 7.28 西宇和郡日土村2番耕地267番地に移転		
		大 6.11.20 西宇和郡日土村2番耕地245番地に移転		
		10.10. 4 支店に昇格		
		昭 5. 1.25 合併により第二十九銀行日土支店となる。		
		9. 8.20 第二十九・八幡浜商業・大洲3行合併の際廃止		
		21. 2.25 西宇和郡日土村2番耕地245番地に伊豫合同銀行日土出張所として再開設		
		25.10. 1 支店に昇格		
		30. 2. 1 八幡浜市日土町2番耕地245番地と所在地名変更		
		35. 2.15 店舗新築のため八幡浜市日土町2番耕地253番地に移転（仮営業所）		
		35. 7.11 新築復帰		
		50.10.27 八幡浜市日土町字西ノ前2番耕地245番地の4と所在地名変更		
		松原支店		
23.12.10 普通出張所に昇格				
24. 4. 8 別府市大字別府66番地の7に移転				
25.10. 1 支店に昇格				
29. 4.19 別府市大字別府68番地の2に新築移転				
40. 3. 1 別府市南町3番1号と所在地名変更				
菊岡支店 亀岡 出張所	越智郡菊岡町種74番地	大15. 2.16 今治商業銀行亀岡出張所として越智郡亀岡村大字種字大門甲52番地の2に開設	昭55. 1.31	業務継承 菊岡支店 亀岡特別出張所
		昭16. 9. 1 合併により伊豫合同銀行亀岡出張所となる。		
		25.10. 1 支店に昇格		
		30. 3.31 越智郡菊岡町大字種字大門甲		

店名	廃止時の所在地	沿革	廃止年月日	摘要
久万支店 落出 出張所	上浮穴郡柳谷村大字 柳井川493番地第5	<p>52番地の2と所在地名変更</p> <p>38.10.1 菊間支店亀岡出張所に変更</p> <p>52.8.15 越智郡菊間町種74番地と所在地名変更</p> <p>昭31.4.2 伊豫銀行落出出張所として上浮穴郡柳谷村大字柳井川475番地に開設</p> <p>37.2.19 上浮穴郡柳谷村大字柳井川493番地第5に新築移転</p>	昭55.2.29	業務継承 久万支店 落出特別出張所